

内部ヲ右股ニ對セシム

(七)冠

此ノ號令ニテ列員ハ一齊ニ冠帽スヘシ

茲ニ於テ點檢官ハ更ニ各列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シテ背面ニ廻リ順次各員ノ姿勢及被服手套刀鞘刀帶靴等ヲ詳細ニ點檢スヘシ

第十三條 禮式ノ點檢ヲ行ハントスルトキニ受檢人員ヲ約二分シ相當ノ間隔ヲ以テ各一列ニ對向セシメ點檢官、指揮官其ノ他ノ警部巡查部長ハ列員ノ相對向スル側面ニ立テ適宜號令又ハ指示ヲ以テ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘシ

- 一 天皇ニ對スル室内ノ敬禮
 - 二 上官ニ對スル室内ノ敬禮
 - 三 同僚ニ對スル室内ノ敬禮
 - 四 上官ヨリ書類物件ヲ受ケ又ハ之ヲ呈スル場合ノ敬禮
 - 五 行幸ニ遇ヒタル場合ノ敬禮
 - 六 警視以上及所屬支署長ニ對スル室外ノ敬禮及其ノ他ノ上官ニ對スル室外ノ敬禮
 - 七 同僚ニ對スル室外ノ敬禮
- 前項第一號第二號第四號ノ敬禮其ノ他停止間ノ敬禮ハ指揮官ヲ以テ受禮者ニ擬シ行進間ノ敬禮ハ列員ノ各右翼ヨリ順次之ヲ行ハシメ其ノ一方ヲ行進者他方ヲ受禮者ニ擬ス
- 停止間ノ敬禮終リタル者ハ其ノ舊位ニ復シ行進間ノ敬禮ヲ終リタル者ハ其ノ對面ノ列員ノ背後ニ立ツ
- 第十四條 前條ノ點檢終リタルトキハ指揮官ハ列員ヲ又銃線ニ就ケ銃ヲ解カシメ之ヲ二隊ニ分チ若ハ假設ニ依リ適宜號令又ハ指示ヲ以テ左ノ順序ニ依リ點檢ヲ行フヘシ

一 天皇ニ對スル部隊ノ敬禮

二 御眞影拜賀ノ場合ニ於ケル部隊ノ敬禮

三 警視以上及所屬支署長ニ對スル部隊ノ敬禮

四 部隊相遇ノ場合ノ敬禮

第十五條 執銃ノ場合ニ於ケル各個ノ敬禮ハ第十三條ニ準シ點檢ヲ行フヘシ

第十六條 水上ノ敬禮ハ隨時適宜ノ方法ヲ以テ點檢ヲ行フヘシ

第十七條 操練ノ點檢ハ警察操典ニ依リ其ノ種目ヲ示シ之ヲ行フヘシ

第三章 乙種點檢

第十八條 乙種點檢(宿舍點檢ヲ除ク)ハ警務部出張所支署及支署出張所所在地在勤ノ者ニ對シテハ警務部出張所支署又ハ支署出張所ニ召集シ其ノ他ノ者ニ對シテハ監督巡視ノ際之ヲ行フ其ノ回数ハ共ニ毎月一回以上トス

第十九條 物品ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ受檢者ハ其ノ現ニ著裝セルモノヲ除クノ外左ノ順序ニ依リ之ヲ豫定ノ場所ニ整頓シ名刺ヲ添付シ各自其ノ傍ニ在ルヘシ但シ宿舍點檢ト併セ行フトキハ本條ノ物品ハ其ノ室内便宜ノ場所ニ整頓シ置クヘシ

一 衣、袴、手套、外套、縮草

二 下著、靴下

三 長靴、短靴

四 提燈及其ノ附屬品

五 甲種點檢ニ供セサル物品及銃ノ附屬銃彈藥

第二十條 物品ノ整頓終レハ指揮官ハ點檢官ノ臨場ヲ請ヒ其ノ物品ヲ一廉毎ニ披展シ若ハ受檢者ヲシテ之ヲ

披展セシメ點檢ニ供スヘシ

點檢官ハ物品ノ員數、使用、修理及洗滌ノ適否ヲ詳細ニ點檢シ不都合ト認ムルモノハ期日ヲ定メ之カ補填修理其ノ他ノ處置ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 宿舍點檢ハ毎月一回以上各宿舍ニ就キ左ノ各號ニ依リ之ヲ行フヘシ

- 一 宿舍内外ノ掃除ノ適否
- 二 障子、襖等ノ補修其ノ他小破修繕ノ行否
- 三 家具、諸雜品ノ整理ノ良否
- 四 其ノ他ノ必要ト認ムル事項

附則

此規程ハ之ヲ巡捕ニ準用ス

第二章 配置及勤務

●警察配置及勤務規程 (明治三十九年四月十七日 警察部 令 第九號)

(支務部)

關東州民政署警察配置及勤務規程左ノ通相定ム

關東州民政署警察配置及勤務規程

第一章 配置

第一條 管内便宜ノ地ニ警務部出張所又ハ支署出張所ヲ設ケ所要ノ警察職員ヲ配置シ警察事務ヲ掌理セシム但シ其ノ掌理セシムヘキ事項ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 本署並支署直轄及出張所所轄内ヲ數區ニ別テ本署及支署所在地ニ警察官吏派出所其ノ他ノ地ニ警察

官吏駐在所ヲ設ケ警察官吏派出所ニハ巡查ヲ交代勤務セシメ警察官吏駐在所ニハ巡查ヲ駐在セシム但シ土地ノ狀況ニ因リ警察官吏駐在所ニハ巡查部長ヲ駐在セシムルコトアルヘシ警察官吏派出所ニハ其ノ必要ニ應ジ巡捕ヲ配屬ス

支署所在地ニシテ警察官吏派出所ヲ設クルノ必要ナキトキハ支署在勤ノ巡查ヲシテ其ノ區域ヲ分擔セシムヘシ

第三條 一又ハ數警察官吏派出所ノ受持區域ヲ以テ一監視區トシ監督一人ヲ置ク
監督ハ巡查部長ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 監視區監督ハ本署、支署又ハ出張所ニ在勤シ第四章ノ規定ニ依リ區内ヲ巡視監督スヘシ

第五條 警察職員ノ配置定員ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 職務

第六條 警務部出張所、支署及支署出張所所在勤ノ主任警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ内外ノ事務ヲ掌理シ其ノ統一ヲ圖リ其ノ他ノ警部ハ上官及主任警部ノ指揮ヲ承ケ内外ノ事務ヲ處理スヘシ

第七條 巡查部長ハ巡查以下ノ監督ヲ補助シ其ノ他上官ノ命ニ依リ服務スヘシ

第八條 巡查及巡捕ハ上官ノ命ヲ承ケ左ノ各號ニ依リ服務スヘシ

- 一 内勤巡查ハ書記、計算、調度、統計其ノ他ノ庶務ニ從事シ時宜ニ依リ外勤ノ事務ヲ補助ス
- 二 外勤巡查ハ警備、警衛、警邏、巡察、交通、戸口調査、犯罪捜査、諸取締其ノ他諸般ノ勤務ニ服ス
- 三 特務巡查ハ犯罪捜査其ノ他上官ノ命ニ依リ特別ノ勤務ニ服ス
- 四 巡捕ハ巡查ノ職務ヲ補助ス

第九條 外勤巡查ニハ各其ノ受持管區ヲ指定シ必要ニ應ジ巡捕ヲ附屬セシム

外勤巡查ハ管区内ニ於ケル諸般ノ執行務ニ從事シ其ノ責ニ任ス但シ警邏又ハ二人以上ヲ要スル事項ハ共同

ノ任務トス

第十條 巡查二人以上ヲ配置シアル警察官吏派出所ニ在リテハ首席巡查其ノ甲乙二部ニ分チ勤務スル警察官

第十一條 巡查數人同時ニ職務ヲ執行スル場合ニ於テ監督者在ラサルトキハ首席巡查之ヲ指揮スヘシ

第三章 勤務

第一節 通則

第十二條 警察官吏ノ出勤時刻ハ一般官廳ノ出勤時刻ヨリ三十分前トス

第十三條 警部ハ一般官廳ノ例ニ依リ退署スルコトヲ得但シ處分ヲ有スル事件アルトキハ時間ニ拘ラス之ヲ處理スヘシ

第十四條 巡查部長ハ日勤又ハ隔日勤務トシ日勤者ハ輪番宿直スヘシ

第十五條 内勤巡查ハ日勤トシ輪番宿直スヘシ

第十六條 特務巡查ハ一定ノ勤務時間ヲ設ケス上官ノ命ニ依リ勤務スヘシ

第十七條 警務部出張所、支署及支署出張所在勤ノ外勤巡查ハ常務及豫備勤務トシ常務ハ甲乙二部ニ分チ隔日勤務トス

第十八條 常務ハ警備、警衛、警邏、査察、檢疫、衛生、臨檢、諸般ノ執行務其ノ他ノ勤務トス

第十九條 豫備勤務ハ外勤員ノ缺勤ニ際シ其ノ補助勤務ニ服シ缺勤者アラサルトキハ適宜前條ノ勤務又ハ他ノ雜務ニ服スヘシ

第二十條 警察官吏派出所員ノ勤務ハ通常警邏警備ノ二種トシ一時間毎ニ交代シ二時間繼續ノ後一時間ノ休憩トス

第二十一條 隔日勤務ノ者ハ非番當日午前中戸口調査營業視察諸般ノ取調其ノ他ノ雜務ニ服スヘシ

第二十二條 警察官吏駐在所員ノ勤務ハ日勤トシ特ニ必要アル場合ノ外豫備員ヲ置カサルモノトス

第二十三條 日勤者ハ毎日八時間以上隔日勤務者ハ十四時間以上實務ニ服スヘシ但シ内勤ニ従事スル日勤者ノ勤務時間ハ事務ノ都合ニ因リ一般官廳ノ例ニ依リ退署スルコトヲ得

第二十四條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ遲參又ハ缺勤セントスルトキハ出勤時刻前ニ書面ヲ以テ届出ツヘシ疾病ノ爲缺勤スルコト五日以上ニ涉ルトキハ五日毎ニ醫師ノ診斷書又ハ診斷簿ヲ添へ届出ツヘシ但シ轉地療養又ハ官立病院ニ入院中ハ此ノ限ニ在ラス

醫師ノ在ラサル地ニ在勤スル者ハ上官ノ認許ヲ經テ診斷書ヲ添へサルコトヲ得

第二十五條 勤務中疾病其ノ他ノ事故ニ因リ缺勤セントスルトキハ上官ノ認許ヲ受クヘシ

第二十六條 出張又ハ缺勤セントスルトキハ其ノ擔任事務ノ急ヲ要シ若ハ期限アルモノハ處分ノ見込ヲ附シ上官ニ申告スヘシ

第二十七條 上官在署中ハ退署時刻ニ至ルモ退散スルコトヲ得但シ特ニ許可シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 非常事變其ノ他臨時勤務ヲ要スル場合又ハ上官ノ命アルトキハ時間ニ拘ラス勤務スヘシ

第二十九條 休暇非番其ノ他勤務時間外ト雖他出セントスルトキハ合宿舎ニ在リテハ其ノ行先ヲ外出簿ニ記入シ散宿舎ニ在リテハ其ノ行先ヲ家族又ハ同僚ニ告知シ置クヘシ其ノ一里以上ノ地ニ赴カントスルトキハ上官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第三十條 轉勤ヲ命セラレタルトキハ速ニ事務ノ引繼ヲ爲シ受命ノ日ヨリ警部ハ五日以内巡查部長以下ハ三日以内ニ出發赴任スヘシ但シ特命アル場合若ハ止ヲ得サル事故ノ爲認許ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏派出所ニ在リテハ別記第一號様式ノ勤務表ヲ備へ置キ勤務ニ服シタルトキハ内勤員ヲ除クノ外相當欄内ニ捺印スヘシ

前項ノ勤務表ハ警務部出張所、支署及支署出張所所在地在勤者ノ分ハ翌日其ノ他ハ翌月五日迄ニ所屬署又ハ出張所ニ進達シ檢閲ヲ受クヘシ

第二節 警邏

第三十二條 警邏ハ一定ノ線路ニ由リ警察上諸般ノ注意查察ヲ爲スモノトス

第三十三條 警邏線路ハ左ノ三種トス

一 所在地警邏線路 本署支署、出張所及警察官吏駐在所所在地及其ノ附近ノ地ニシテ一時乃至二時間ノ行程ヲ限度トシ之ヲ定ムヘシ

二 村落警邏線路 往復三里以上一日以内ノ行程ヲ限度トシ之ヲ定ムヘシ

三 宿泊警邏線路 一日ノ行程ヲ以テ往復スルコト能ハサル線路ヲ謂フ

第三十四條 警務部出張所、支署出張所及警察官吏駐在所在勤者ハ總員ヲ通シ左ノ各號ニ依リ警邏スヘシ

- 一 本署所在地警邏線路 毎日六周以上
- 二 支署及支署出張所所在地警邏線路 毎日四周以上
- 三 駐在所所在地警邏線路 毎日二周以上
- 四 村落警邏線路 毎日一回以上
- 五 宿泊警邏線路 毎月一周以上

第三十五條 警察官吏派出所所在勤者ハ總員ヲ通シ左ノ各號ニ依リ警邏スヘシ

- 一 派出所所在地警邏線路
 - 毎日
 - 三人以上勤務 十二回以上
 - 二人勤務 八回以上
 - 一人勤務 一周以上
 - 毎月六周以上
- 二 村落警邏線路

第三十六條 所在地警邏線路ハ警邏度數ノ三分ノ一以上村落警邏線路ハ警邏度數ノ五分ノ一以上夜間ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 警邏一周ト稱スルハ警邏線路全部ヲ巡行スルヲ謂ヒ一回ト稱スルハ一警邏線路ヲ巡行スルヲ謂フ

第三十八條 市街ニシテ雜沓ヲ極メ又ハ通行危險等ノ虞アル場所若ハ特別ノ事情アルトキハ立番ヲ以テ警邏ニ代フルコトヲ得

第三十九條 警邏線路中樞要ノ場所ニハ別記第二號様式ノ警邏票ヲ備ヘ置キ警邏ノ都度之ニ捺印スヘシ
前項ノ警邏票ハ警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏派出所所在地ノ分ハ五日毎ニ其ノ他ハ毎月最終警邏ノ際之ヲ取綱メ所屬署又ハ出張所ニ進達シ檢閲ヲ受クヘシ

第三節 交通

第四十條 警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏駐在所間ニ於テハ其ノ狀況ヲ互報シ執務上ノ便宜ヲ圖ル爲交通ヲ行フヘシ

第四十一條 交通ハ別テ定期交通及臨時交通トス

定期交通ハ毎月二回以上トシ臨時交通ハ其ノ必要ニ應シ之ヲ行フモノトス

第四十二條 定期交通ハ隣接警察官吏駐在所間ノ中央地點ニ於テ警務部出張所、支署又ハ支署出張所ニ接近スル警察官吏駐在所ハ警務部出張所、支署又ハ支署出張所ニ於テ之ヲ行フ

冬季又ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依ルヲ不便トスルトキハ適宜ノ地點ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第四十三條 定期交通ハ其ノ時刻ヲ誤ラス交通點ニ會合シ三十分以内ニ要務ヲ處辨シ歸途ニ就クヘシ

第四十四條 交通ノ際ハ勤務時間ノ都合ニ依リ警邏戸口調査營業視察其ノ他ノ要務ヲ執行スヘシ

第四章 監督巡視

第四十五條 監督官ハ常ニ部下ヲ督勵指導シ警察事務ノ舉否ニ付其ノ責ニ任ス
第四十六條 監督官ハ紀律ノ張弛服務ノ勤怠處務ノ整否及法令ノ實施其ノ他部内ノ狀況ヲ視察スル爲巡視ヲ爲スヘシ

第四十七條 警務部出張所、支署及支署出張所在勤ノ主任警部ハ毎年二周以上其ノ所轄内ヲ巡視スルノ外毎月三回以上所在地ヲ巡視スヘシ

第四十八條 警務部出張所、支署及支署出張所在勤ノ警部(主任警部ヲ除ク)ハ全員ヲ通シ所在地ヲ毎日所在地外ヲ毎月各一周以上巡視スヘシ

第四十九條 警務部出張所、支署及支署出張所在勤ノ巡查部長ハ所在地ハ全員ヲ通シ其ノ他ハ各自左ノ各號ニ依リ巡視スヘシ但シ宿泊線路ノ巡視ハ二箇月毎ニ一回以上トス

一 本署所在地

派出所及其ノ經路

毎日二周以上

各警邏線路

毎日一周以上

二 支署所在地

派出所及其ノ經路(派出所アラサルトキハ主ナル經路)

毎日一周以上

各警邏線路

毎日一周以上

三 出張所所在地

同上

同上

四 所在地外擔任監視區

駐在所及其ノ經路

毎月二回以上

各警邏線路

毎月一周以上

第五十條 警察官吏駐在所ニ駐在スル巡查部長ハ左ノ各號ニ依リ巡視スヘシ

一 駐在地

毎日一周以上

二 駐在地外

各駐在所及其ノ經路

毎月二周以上

各警邏線路

毎月一周以上

監視区内ノ警察官吏駐在所一箇所ナルトキハ駐在地ハ毎日一周以上駐在地外ハ各警邏線路ヲ毎月二周以上巡視スヘシ但シ宿泊線路ノ巡視ハ毎月一回以上トス

第五十一條 巡視ノ際ハ執行務ノ成績ヲ監査スル爲隨時實地ニ臨檢スヘシ

第五十二條 巡視ノ際ハ其ノ巡視シタル經路ニ配置シアル巡邏票及警察官吏派出所ノ日誌並勤務表ニ檢印スヘシ但シ日誌ニ檢印スルトキハ其ノ巡視シタル月日時ヲ記入スルコトヲ要ス

職務上注意又ハ指示シタル事項ハ訓授録又ハ日誌ニ記載シ捺印スヘシ

第五十三條 警部及巡查部長ハ各自監督日誌ヲ調製シ巡視シタル日時經路巡視ノ狀況其ノ他日常監督ニ關スル事項ヲ記載シ上官ノ檢閱ヲ受クヘシ

監督日誌ハ機密ノ取扱トス

第五十四條 警部及巡查部長ハ其ノ巡視シタル度數ヲ翌月三日マテニ警務部長又ハ支署長ニ報告スヘシ

支署長ニ於テ受領シタル巡視報告書ハ檢閱ノ上翌月十日マテニ警務部長ニ移送スヘシ

附則

土地ノ狀況ニ依リ此ノ規程ニ依ルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ
此ノ規程ハ明治二十九年四月十七日ヨリ施行ス

(別記)

第一號樣式ノ一

明治三十年何月何日

官署 何支署何警察官吏駐在所

區別/時間	勤 務 表								區別/時間
	後	前	後	前	後	前	後	前	
午									午
自九時至十時									自九時至十時
自十時至十一時									自十時至十一時
自十一時至十二時									自十一時至十二時
自十二時至一時									自十二時至一時
自一時至二時									自一時至二時
自二時至三時									自二時至三時
自三時至四時									自三時至四時
自四時至五時									自四時至五時
自五時至六時									自五時至六時
自六時至七時									自六時至七時
自七時至八時									自七時至八時
自八時至九時									自八時至九時

關東州民政署

勤 務 表

考 備	勤 務 表							
	後	前	後	前	後	前	後	前

第一號樣式ノ二

明治三十年何月何日

何支署何警察官吏派出所駐在所

區別/時間	勤			
	後	前	後	前
午				
自九時至十時				
自十時至十一時				
自十一時至十二時				
自十二時至一時				
自一時至二時				
自二時至三時				
自三時至四時				
自四時至五時				
自五時至六時				
自六時至七時				
自七時至八時				
自八時至九時				

務 表							
後		前		後		前	

備考

第二號樣式

明治何年何月

配置地名何町何々

警				日 時
後 午		前 午		
				自九時至十時
				自十時至十一時
				自十一時至十二時
				自十二時至一時
				自一時至二時
				自二時至三時
				自三時至四時
				自四時至五時
				自五時至六時
				自六時至七時
				自七時至八時
				自八時至九時

巡 票					
日		日		日	
後 午	前 午	後 午	前 午	後 午	前 午

○巡視官ハ相當時間欄ニ適宜ノ目標ヲ記入シ認印スヘシ
 ○村落警邏線路ニ配置シタルモノハ日付欄ヲ空欄トシ警邏又ハ巡視シタル日付ヲ相當時間欄ニ記入シ認印スヘシ

●巡查配置請願規則 (明治四十一年四月一日 府令第二十一號)

巡查配置請願規則左ノ通り相定ム

巡查配置請願規則

第一條 巡查ノ配置ヲ請願セムトスルモノハ請願者ノ住所、氏名、配置ノ目的、場所、配置ノ人員、期間、

第六類 警察 第二章 配置及勤務

- 詰所ノ位置ヲ具シ所轄ノ警察官署ヲ經テ關東都督ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 請願巡查ノ配置ヲ許可スヘキ期間ハ一會計年度内ニ限リ三箇月ヲ以テ最短期トス但シ年度末月迄ニ三箇月ニ滿サル場合ハ其ノ會計年度末迄ノ月數ヲ以テ請願時期トス
- 會計年度後引續キ配置ヲ要スルトキハ期限滿了一箇月前迄ニ其ノ旨出願スヘシ
- 第三條 請願巡查配置ノ許可ヲ受ケタル者ハ巡查詰所ニ必要ノ器具及消耗品ヲ供給スヘシ
- 第四條 請願巡查配置ノ許可ヲ受ケタル者ハ六箇月毎ニ所轄民政署民政支署又ハ警務署ニ請願巡查費用ヲ前納スヘシ但シ一箇月未滿ノ端日數アルトキハ日割ヲ以テ徵收ス
- 第五條 請願巡查ニ關スル費額ハ別ニ告示ス
- 第六條 請願期間内ニ配置ノ停止又ハ人員ノ減少ヲ願出ルモ既納ノ費用ハ之ヲ還付セス但シ官ノ都合ニ依リ配置ヲ停止シ又ハ人員ヲ減少シタルトキハ其ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ還付ス

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
現ニ配置セル請願巡查ハ本令ニ依リ許可シタルモノト看做ス

●請願巡查取扱規程 (明治四十一年四月一日) (民政部、民政署)
(訓令第四十號)

請願巡查取扱規程左ノ通相定ム

請願巡查取扱規程

- 第一條 巡查ノ配置請願書ヲ受理セシトキハ巡查請願配置規則第一條ノ事項ヲ具備セルヤ否及實地ノ調査ヲ遂ケ且ツ出願者ノ身分、性及資産額ヲ取調ヘ意見ヲ具シ速カニ進達スヘシ
- 第二條 民政署長同支署長警務署長同支署長ハ其ノ所轄内ニ請願巡查配置ノ許可ヲ受ケタルモノアリテ別ニ

- 巡查ノ派遣ナキトキハ其ノ署定員内ノ巡查ヲ以テ配置スヘシ
- 第三條 請願巡查ノ勤務ハ一般巡查ノ勤務規程ニ準ス

●明治四十二年請願巡查費及同巡查旅費ノ件 (第十類六) (章ニ收ム)

●南滿洲鐵道附屬地警務署及警務支署ニ巡捕配置ノ件 (明治四十一年十二月十四日) (訓令第四百十號)

(民政部)

南滿洲鐵道線路及附屬地警察取締ノ爲警務署及警務支署ニ巡捕ヲ配置シ巡查ノ職務ヲ補助セシム其ノ配置人員ハ別ニ之ヲ定ム

●警察官吏服務規程 (明治三十九年四月十七日) (警務部)
(訓令第八號)

關東州民政署警察官吏服務規程左ノ通相定ム

關東州民政署警察官吏服務規程

- 第一條 警察官吏ハ官吏服務規律ニ依ルノ外本規程ヲ遵守スヘシ
- 第二條 警察官吏ハ法律命令及上官ノ指示訓達ニ基キ嚴正忠實ニ其ノ職務ヲ執行スヘシ
- 第三條 警察官吏ハ危害ヲ除去シ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルヲ以テ職任トス故ニ平素諸般ノ事項ニ對シ周到ナル注意ヲ爲シ此ノ目的ヲ遂行スルコトヲ努ムヘシ
- 第四條 上官ノ命令ハ必ス之ニ服從シ誠實ニ遵行スルノ義務アルモノトス
- 上官ニ對シ職務上ノ意見ヲ上申セントスルトキハ能ク禮節ヲ守リ穩ニ陳述スヘシ其ノ所見ノ異ナルヲ口實トシ論争スルコトヲ得ス

第五條 下班ハ上班ヲ尊重シ上班ハ下班ヲ慈愛シ以テ上下ノ分限及公私ノ區分ヲ明確ニシ互ニ補翼指導シ以テ報効ヲ圖ルヘシ

第六條 同僚ハ一心同體ト心得長短相扶ケ親切ヲ以テ互ニ非違ヲ戒メ友義ヲ盡スヘシ

第七條 凡ソ職務ヲ行フニハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナルヲ以テ本旨トス然レトモ其ノ事體ト時機トニ應ジ濫ニ苛察ニ涉リ又ハ緩漫ニ失スルコトナキヲ要ス

第八條 非常事變ニ際シテハ殊ニ剛毅活潑ニ其ノ職任ヲ盡シ苟モ卑怯失體ノ所爲アルヘカラス

第九條 人民ニ接遇スルニハ人種ノ如何ヲ問ハス溫和懇切ヲ旨トシ其ノ敬禮ヲ行フ者ニハ必ス之ニ答禮スヘシ然レトモ能ク公私ノ區別ヲ正シ苟モ倨傲又ハ狎昵ニ涉ル所爲アルヘカラス

第十條 人ヲ制止シ又ハ説諭スルニ當リテハ忍耐沈著ヲ旨トシ假令不遜ノ行爲アリト雖意ニ介スルコトナク丁寧ニ諭示シ決シテ怒氣ヲ含ミ論争スルカ如キコトアルヘカラス

第十一條 凡ソ職務ヲ執行スルニ當リ言語ノ通セサル場合ハ其ノ事情ヲ詳悉シ彼我ノ意思ヲ徹底スルコト能ハサルハ免レ難キ所ナルヲ以テ殊ニ慎重ノ注意ヲ爲シ粗漏ノ處置ナキヲ要ス

第十二條 職務上見聞シタル事項ニシテ機密ニ屬スルモノハ他ニ漏洩スルコトヲ得ス其ノ一私人ニ關スルモノト雖亦同シ

第十三條 職務上ニ係ル諸申告ハ誠實ヲ旨トシ虚飾ナキヲ要ス

第十四條 職務ノ内外ヲ問ハス耳目ニ觸レタル事項ハ幼童婦女ノ談話ト雖等閑ニ附セス苟モ警察上參考トナルヘキモノハ速ニ上官ニ申告スヘシ

第十五條 職務上ニ關スル事項タルト否トヲ問ハス新聞紙又ハ雜誌ニ投書スルコトヲ得ス其ノ學術上ニ關スル所見ヲ掲載セントスルトキハ豫メ原稿ヲ上官ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

第十六條 行狀ハ自己ノ品位ヲ有チ一般ノ信譽ヲ受クル基本タリ故ニ平常品行ヲ正シクシ其ノ身分ニ應ジ交際

際ヲ慎ミ節約ヲ守リ又能ク一家ノ輯睦ヲ圖リ苟モ他人ノ指斥ヲ受クルカ如キ所爲アルヘカラス

第十七條 職務上ニ關シ私ニ金品ノ贈與又ハ酒食ノ饗應ヲ受クルコトヲ得ス

第十八條 營利ヲ目的トスル事項其ノ他訟訴事件等ニ關係シ又ハ人民ヨリ金品ヲ借用シ若ハ貸借上ノ保護人ト爲ルコトヲ得ス

第十九條 飲酒ハ攝生ノ爲適度ニ之ヲ用ユルハ妨ナシト雖醉態ヲ現シ素行ヲ紊スカ如キコトナキヲ要ス公會又ハ上官ノ認許シタル場合ノ外同僚會飲スルコトヲ得ス

第二十條 職務ノ内外ヲ問ハス政治ノ得失ヲ論評シ又ハ人ヲ是非シ毀譽褒貶ニ涉ルカ如キ言語ヲ弄スルコトヲ得ス

第二十一條 用語ハ簡潔明瞭ヲ旨トシ動作ハ活潑整肅ナルヲ要ス

第二十二條 部内ノ狀況、地理、住民ノ種類及其ノ意向、生業ノ模様並官署、學校、病院、會社、教會、各種團體ノ位置構成等ハ常ニ之ヲ調査記憶シ何時ニテモ答辯ニ差支ナキコトヲ要ス

第二十三條 所轄内ヲ分チ各其ノ擔任區域ヲ定ムルハ職務ノ周到ヲ期スルニ在リ故ニ其ノ受持區内ノ事故ヲ他ヨリ摘發セラルルカ如キ不覺ナキコトニ努ムヘシ

第二十四條 職務上必要ナル法令其ノ他學術技藝ハ勉テ之ヲ講究シ殊ニ支那語其ノ他ノ外國語ハ練習熟達スルコトヲ要ス

第二十五條 凡ソ廳舎及宿舍内ノ亂雜ナルハ事務ノ不整理ト紀律ノ弛廢ニ因ルコト多シ常ニ意ヲ用テ之ヲ整頓スヘシ

第二十六條 服務中ハ勿論非番又ハ休暇ニテ外出スル場合ト雖モ常ニ其ノ行先ヲ詳ニシ何時ニテモ上官ノ召集ニ差支ナカラシムヘシ

第二十七條 妻ヲ娶リ又ハ養子ト爲リ若ハ入夫セントスルトキハ婦又ハ養家若ハ入夫先及媒介人ノ住所、氏

名、職業ヲ詳記シ豫メ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八條 過失錯誤ハ人ノ免レサル所ナルヲ以テ若シ其ノ失誤アリタルコトヲ自覺シ又ハ注意ヲ受ケタルトキハ徒ニ辯疏ヲ事トシ又ハ之ヲ隱蔽スルカ如キ卑劣ノ所爲アルヘカラス

職員服務規程ハ民政署勤務警察職員ニ適用セス (第二章六)

巡查休暇規程 (明治三十九年九月二日) (民政部)

關東都督府巡查休暇規定左ノ通相定ム

關東都督府巡查休暇規程

第一條 關東都督府巡查ニシテ六箇月以上皆勤シタル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ慰勞休暇ヲ與フルコトヲ得

一 六箇月以上皆勤ノ者 十四日間

二 前號ノ休暇ヲ受ケスシテ一箇年以上皆勤ノ者 四十日間

第二條 三箇年以上皆勤シタル者ニハ前條ノ外更ニ二十日以内ノ特別休暇ヲ與フルコトヲ得

第三條 皆勤者ニシテ懲罰ヲ受ケタルトキハ其ノ情狀ニ因リ休暇日數ヲ減縮シ又ハ全ク之ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 皆勤日數ハ新任及復職ノ者ニ在リテハ實務ニ服シタル日ヨリ缺勤ノ者ニ在リテハ出勤ノ日ヨリ起算ス

第五條 非番、父母祭日、職務ニ起因スル疾病又ハ傷痕ノ爲缺勤シタル日數ハ勤務ニ服シタルモノト見做ス
忌引、陸海軍召集令ニ依ル召集、傳染病ノ爲交通遮斷若ハ隔離中又ハ不可抗力ニ因リ勤務ニ服スルコト能ハサリシ期間並賜暇中ハ皆勤及缺勤日數ニ算入セス

第六條 休暇ハ左ノ期間ヲ經過スルトキハ之ヲ許與スルコトヲ得ス

第一條第一項第一號ニ依ルモノ 爾後六箇月

第一條第一項第二號ニ依ルモノ 爾後一箇年

第二條ニ依ルモノ 爾後三箇年

第七條 休暇ハ第二條ニ依ルモノノ外之ヲ併與スルコトヲ得ス

第八條 休暇ノ許與ヲ請ケムトスル者ハ書面ヲ以テ民政長官又ハ民政署長ニ申請スヘシ

第九條 休暇ハ既ニ許與シタルモノト雖事務ノ都合ニ依リ之ヲ取消シ又ハ其ノ日數ヲ減縮シ若ハ休暇中臨時勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第十條 休暇中旅行セムトスルトキハ其ノ事由、行先地及日數ヲ詳記シ民政長官又ハ民政署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十一條 休暇旅行中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ許可期限内ニ歸任スルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書又ハ船長ノ證明書若ハ警察官署ノ證明書ヲ添ヘ民政長官又ハ民政署長ニ届出ヘシ

第十二條 民政部事務課及民政署ニハ別記様式ノ休暇名簿ヲ備ヘ置キ休暇ニ關スル事項ヲ登記スヘシ

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規程ハ關東州民政署巡查ニシテ引續キ關東都督府巡查タル者ニ之ヲ適用ス但シ戰役休暇ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

本規程ハ之ヲ巡捕ニ準用ス

(別記様式)

用紙美濃判洋紙半葉(成ルヘク紙質ノ堅牢ナルモノヲ用フ)

第七條 非常召集令書又ハ應援要求書ノ遞傳ヲ受ケタル警察官署又ハ警察官吏駐在所ニシテ其ノ送達スヘキ地ニ電信又ハ電話ノ通スルトキハ直ニ開封シテ之ヲ傳達シ然ラサルトキハ速ニ送達ノ手續ヲ爲スヘシ
電信又ハ電話ヲ以テ非常召集令又ハ應援要求ノ遞傳ヲ受ケ之ヲ送達スルニ當リ電信又ハ電話ヲ以テスルコト能ハサルトキハ之ヲ書面ニ作成シ送達スヘシ

第八條 非常召集令書又ハ應援要求書ヲ受ケタルトキハ其ノ封皮ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上返付シ若シ電信電話ノ通スルトキハ直ニ別記第三號様式ノ領報ヲ發スヘシ

第九條 警務部長又ハ支署長ニ於テ非常召集令又ハ應援要求ヲ受ケ若ハ小召集ヲ行ハムトスルトキハ其ノ所要ノ人員ニ對シ別記第四號様式ノ召集令狀ヲ發スヘシ

電信、電話ノ通スル地又ハ民政署、支署構内若ハ其ノ附近ニ住居スル者ニ對シテハ電信、電話又ハ適宜ノ方法ヲ以テ召集ヲ令スルコトヲ得但シ其ノ方法ハ豫メ定メ置クコトヲ要ス

第十條 非常召集ヲ行フトキト雖止ヲ得サル場合ノ外留守セシムルニ必要ナル人員ハ之ヲ召集スルコトヲ得ス

第十一條 召集令狀又ハ之ニ代ルヘキ命令ヲ受ケタル者ハ直ニ結束シ先其ノ勤務所（警察官吏派出所勤務ノ者ハ警務部又ハ支署）ニ出頭シテ上官ノ指揮ヲ受クヘシ但シ之ニ異リタル命令アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 警務部出張所、支署又ハ支署出張所首任警部及警察官吏駐在所ニ駐在スル警部、巡查部長ハ第十一條ニ依リ勤務所ニ出頭シタル警察官吏ノ人員服裝及携帶品ヲ點檢シ引率者ヲ指定シ召集地ヘ向ケ出發セシムヘシ但シ時宜ニ依リ本條ノ手續ヲ省略シ直ニ出發セシムルコトヲ得

第十三條 應召員ハ成ルヘク速達ヲ圖ル爲乘馬又ハ船車ノ便ヲ利用シ其ノ徒歩ノ場合ニ在リテハ少クモ一時間一里半以上ノ速度ヲ以テ進行スヘシ

第十四條 應召員召集地ニ參著シタルトキハ引率者ヨリ其ノ人員ヲ長官ニ報告シ指揮ヲ承ケ又ハ時宜ニ依リ直ニ相當ノ措置ヲ爲シ其ノ引率者在ラサルトキハ各自上官ノ指揮ヲ承クヘシ

第十五條 召集令狀又ハ之ニ代ルヘキ命令ヲ受ケタル者疾病其ノ他ノ事故ニ因リ之ニ應スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ速ニ上官ニ届出ヘシ

民政署、支署又ハ支署出張所所在地以外ニ在勤スル者ニシテ前項ノ事由ニ依リ召集ニ應スルコト能ハサルトキハ特ニ命令アル場合ノ外左ノ順位ニ依リ同一官職ニ在ル者代リテ召集ニ應スヘシ

一 非直者

二 休憩中ノ者

三 其ノ他ノ者

第十六條 召集員ノ解散ハ召集令ヲ發シタル者又ハ應援要求ヲ爲シタル者之ヲ命ス

第十七條 警務部、支署及支署出張所ニ於テハ豫メ左ノ書類ヲ調製シ之ヲ一定ノ場所ニ備ヘ置キ非常召集ニ際シ必要ノ事項ヲ記入シ執行スヘシ

一 非常召集令書

二 應援要求書

三 非常召集令領報及應援要求領報

四 召集令狀

五 其ノ他必要ト認ムル書類

第十八條 警務部長ハ毎年一回以上非常召集ノ演習ヲ行フヘシ

前項ニ依リ演習召集ヲ行ヒタルトキハ其ノ狀況ヲ民政長官ニ報告スヘシ

（別記様式）

第一號ノ甲 用紙淡紅色(以下做之)

非常召集令

警務部出張所
支署、支署出張所

- 一 警 部 何 名
- 一 巡 査 部 長 何 名
- 一 巡 査 何 名
- 一 巡 捕 何 名

但シ携帶品 何々

右連(明治何年何月何日午前何時何分迄)ニ何地へ參著セシムルヲ要ス

明治何年何月何日

民政長官(警務部長)(支署長)氏 名 印

- 一 本様式中○印ヲ付シタルモノノ外ハ不動文字トス (以下做之)
- 一 不動文字中不要ノモノハ發令ノ際之ヲ朱抹スヘシ (同上)

非常召集令封皮

表

何支署長(支署出張所主任警部)何 某 殿

非常召集令

遞傳ヲ受ケタル官署ニシテ宛名ノ地ニ電信電話ノ通スルトキハ直ニ開封シテ之ヲ傳送スヘシ

裏

民政長官(警務部長)(支署長) 何 某

此ノ封皮ニハ左ノ日時ヲ記入シ捺印ノ上郵便又ハ便宜ノ方法ニテ返付ヲ要ス

明治何年何月何日午前何時何分受領印——受領者印

第一號ノ乙

電信電話ノ一例

(非常召集令警部三巡查五〇巡捕三〇直ク)何月何日午前何時何分迄)ニ何地へ發着セシムルヲ要ス

民政長官(警務部長)(支署長)

支署長(支署出張所主任警部)宛

第二號ノ甲

應援要求書

- 一 警 部 何 名
- 一 巡 査 部 長 何 名
- 一 巡 査 何 名
- 一 巡 捕 何 名

右者何々ニ付事由ヲ簡明ニ記入スヘシ)速ニ何々地へ應援ヲ要求ス

明治何年何月何日

何支署長(支署出張所主任警部)何

何支署長(支署出張所主任警部)何

某 宛

某 印

應援要求書封皮

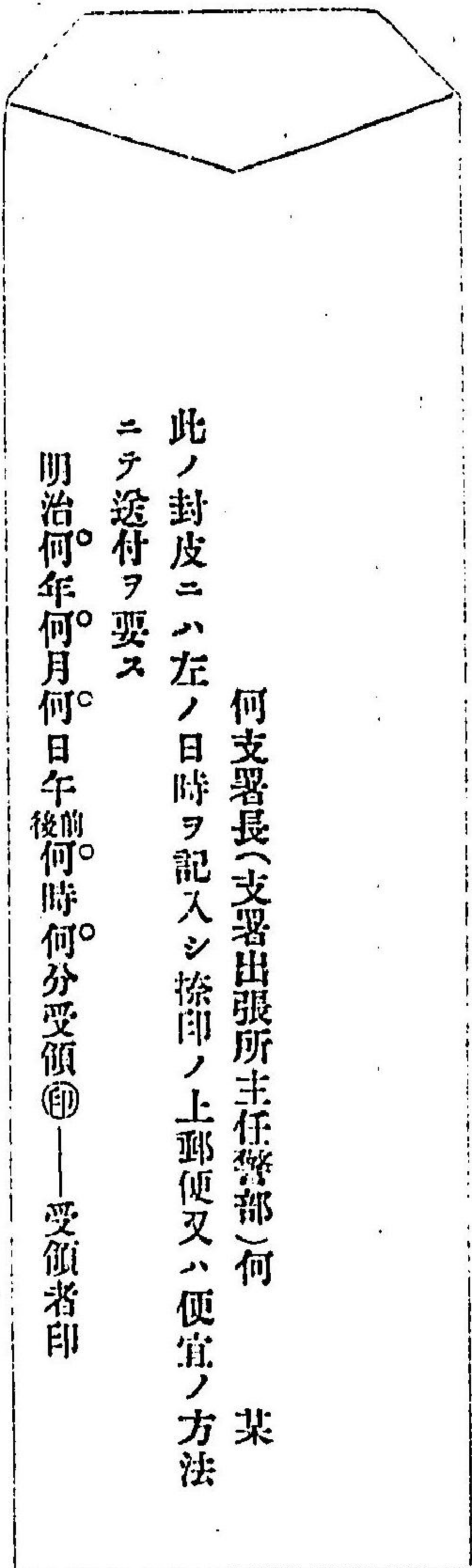
表

何支署長(支署出張所主任警部)何 某 殿

應援要求書

遞傳ヲ受ケタル官署ニシテ宛名ノ地ニ電信電話ノ通スルト
キハ直ニ閉封シテ之ヲ傳送スヘシ

裏



第二號ノ乙

電信電話案ノ一例

(應援要求) 馬賊何々ニ付警部三巡查三〇巡捕五〇直ク何地へ派遣ヲ請フ

何 支 署 長

何 支 署 長 宛

第三號

領報案一例

非常召集令(應援要求)ヲ領ス電話ニ依ルトキハ警部何人巡直ク送ル
普何人ト其ノ人員ヲ擧グヘシ直ク送ル

何 支 署 長

何 支 署 長 宛

第四號

表

川 下		州 令 集 召 (小)(大)	
應召者 官氏名	警部 (巡查部長) (巡查) 何 某	召集地	何々 但シ出發ノ際勤務場所ニ立寄ヲ要ス(セス)
召集地へ 召集日時	成ルヘク急速ヲ要ス 何月何日午前何時何分	服ノ他 其ノ他	裏面記載ノ通
發 令	明治三十何年何月何日午前何時何分	令狀受領	明治三十何年何月何日午前何時何分

裏

- 一 此ノ令狀ヲ受領シタルトキハ令狀及封皮ニ其ノ日時ヲ記入シ封皮ハ之ヲ使者ニ交付シ令狀ハ召集地へ携帶シ上官ニ差出スヘシ
疾病其ノ他ノ事故ニ因リ召集ニ應スルコト能ハサルトキハ封皮ニ其ノ事由ヲ簡明ニ記載シ尙他ノ者代テ應召スルトキハ其ノ氏名ヲ記載シ認印スヘシ
- 二 服裝及携帶品ハ左ノ如シ
 - (一) 制 服 常 裝 (夏衣) (草鞋脚絆)
 - (二) 携 帶 品 銃 器 彈 藥 (三十發以上) 何々何々
- 三 召集地へ參著ノ時刻ヲ遅延セサル爲ニハ馬車ノ便ヲ利用シ徒歩ノ場合ハ少クモ一時間一里半以上ノ速度ヲ以テ行進スヘシ

召集令狀封皮

表

巡查 何某 殿

朱印 非常召集命令

裏

明治三十何年何月何日午前何時何分受領印——受領者印

(召集ニ應ズルコト能ハサルトキハ其ノ事由
及他人代テ應召スルトキハ其ノ兵名並認印)

第三章 保安

門標掲出方

(明治三十八年十二月二十二日
告示 第三十六號)

大連市居住者ハ各戸ニ門標ヲ掲出ヘシ但シ其ノ雛形ハ左ノ如シ
第一號 雛形 (木札 縦七寸横三寸)

大連市 何町 何丁目

何番戸 (何番戸ノ一號又ハ二號等
ヲモ明記スルコト)

或ハ何番地 (何番地ノ一號又ハ二號等
ヲモ明記スルコト)

第二號 雛形 (實及寸法適宜)

氏

名

備考

- 一 第一號雛形ニ依ル標札ハ必ス楷書ヲ以テ墨書スヘシ
- 二 番號ハ從來ノ戸番ニ依ル但シ從來ノ戸番不明ノモノ及新築家屋ハ地番ニ依ル其ノ番號不明ノモノハ當署庶務部ニ就キ承合スヘシ
- 三 生計ヲ異ニスル數戸一家屋内ニ同居スル場合ニ於テハ各第二號雛形ニ依ル標札ヲ掲クヘシ
- 四 從來家屋ニ附著シアル番號札ハ其ノ儘ニ保存シ此ノ告示ニ依ル門標ヲ掲クルノ故ヲ以テ之ヲ取除クヘカラス

●關東州在留者取締規則

(明治三十九年九月一日 府令 第八號)

關東州在留者取締規則左ノ通相定ム

關東州在留者取締規則

- 第一條 本令ニ於テ在留者ト稱スルハ關東州ニ出入シ又ハ居住スル者ヲ云フ
- 第二條 關東州内ニ居住スル者ハ其ノ氏名族籍(外國人ニ在リテハ其ノ國籍)身分、職業、年齢及戸主、家族同居人、使用人ノ區別並居住場所ヲ具シ五日以内ニ所轄民政署又ハ其ノ支署ニ届出ツヘシ其ノ居住地ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 前項ノ届出ハ家族同居人使用人ニ在リテハ戸主、世帯主又ハ傭主ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 (刪除)(四〇、府一四號)
- 第四條 居住者ニシテ出生、死亡、轉出其ノ他戶籍又ハ届出ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ戸主世帯主、傭主又ハ家族ヨリ所轄民政署又ハ其ノ支署ニ届出ツヘシ
- 第五條 在留者ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄民政署長ハ一年以上三

年以内關東都府管内ニ在留ヲ禁止スルコトヲ得

第六條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ關東都府管轄外ニ退去スヘシ若シ期限内ニ退去シ難キ正當ノ理由アリト認ムルトキハ民政署長ハ相當ノ保證金ヲ出サシメ又ハ出サシメスシテ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第七條 前條ノ猶豫ヲ得タル者其ノ期限内再ヒ第五條ニ該當スル舉動アリタルトキハ其ノ猶豫ヲ取消シ仍保證金ヲ沒收スヘシ

第八條 在留禁止ノ命令ヲ受ケタル者改悛ノ狀顯著ナルトキハ所轄民政署長ハ何時ニテモ其ノ命令ヲ取消スコトヲ得

第九條 在留禁止ノ命令ヲ受ケタル者其ノ命令ニ對シ不服アルトキハ命令ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ所轄民政署長ヲ經テ關東都府ニ命令取消ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ命令ノ執行ヲ停止セシ

第十條 第二條第四條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十一條 退去期限内又ハ猶豫期限内ニ退去セサル者又ハ禁止期限ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル細則ハ民政署長之ヲ定ム

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年九月軍令大連灣出入船舶及關東州在留者取締規則及關東州在留者取締規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

● 戸口調査規程 (明治三十九年五月十九日) (警務部)

戸口調査規程左ノ通相定ム

戸口調査規程

第一條 戸口調査ハ各戸ニ就キ在籍者及現住者ノ身分、職業、氏名、生年月日ヲ調査シ且諸般ノ狀況ヲ視察スルモノトス

第二條 戸口調査ハ外勤巡查ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ其ノ受持區域ハ警察配置及勤務規程第九條ノ規定ニ依ル

第三條 戸口調査ハ甲乙丙ノ三種ニ區別シ之ヲ行フモノトス其ノ標準左ノ如シ

甲種 官吏、公吏其ノ他資産常職アリテ行狀疑ナキ者

乙種 甲種及丙種ニ屬セサル者

丙種 禁錮以上又ハ之ニ準スヘキ受刑者(改換ノ狀顯著ナル者ヲ除ク) 要視察人其ノ他警察上特ニ注意スヘキ者

第四條 戸口調査ノ回数ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

甲種 六箇月 一回以上

乙種 三箇月 一回以上

丙種 一箇月 一回以上

一戸内ニ乙種又ハ丙種ニ屬スル者アルトキハ其ノ全戸ヲ乙種又ハ丙種ニ準シ調査スヘシ

第五條 戸口調査ハ日勤者ハ勤務ノ日隔日勤務者ハ非番ノ日ヲ以テ之ヲ行ヒ其ノ他警邏又ハ交通等ノ際兼子行フヘシ

第六條 戸口調査ハ日出ヨリ日没マテノ間ニ於テ之ヲ行フモノトス

第七條 受持巡查止ヲ得サル事故ノ爲第四條ノ調査回数ニ達スルコト能ハサルトキハ他ノ巡查ヲシテ補助執行セシムヘシ

第八條 戸口調査ヲ行フトキハ戸口調査補助簿ヲ携帯シ之ニ其ノ異動ヲ記載シ歸署(所)後戸口調査簿ヲ加除訂正スヘシ

第九條 戸口ノ異動ハ人民ノ申告ヲ待タズ受持巡查進テ之ヲ認知スヘキモノトス

第十條 戸主世帯主又ハ本人ノ届出其ノ他ノ事由ニ因リ戸口ノ異動ヲ生シタルコトヲ認知シタルトキハ第四條ノ規定ニ拘ラス直ニ實地調査ノ上戸口調査簿ヲ加除訂正スヘシ

第十一條 丙種中特ニ注意ヲ要スル者他ノ受持區域内ニ移轉シタルトキハ受持巡查ハ便宜ノ方法ニ由リ速ニ其ノ移轉先ノ受持巡查ニ通報スヘシ其ノ所轄外ニ係ルモノハ警務部長又ハ支署長ニ報告スヘシ

第十二條 受持巡查ハ左ノ各號ノ一ニ該ル者アルヲ認メタルトキハ直ニ警務部長又ハ支署長ニ報告スヘシ

一 孝子、順孫、節婦、義僕其ノ他表彰スヘキ善行アル者

二 身分不相應ノ物品ヲ所持シ又ハ暴富ト爲リ若ハ頓ニ貧困ニ陥リタル者

三 其ノ他特ニ注意ヲ要スル者

第十三條 戸口調査簿ハ別記第一號様式戸口調査補助簿ハ別記第三號様式ニ依ルヘシ但シ戸口調査補助簿ハ從來ノ戸口調査簿ヲ以テ代用スルコトヲ得

第十四條 戸口調査簿及戸口調査補助簿ハ町村子毎ニ内地人、支那人、外國人(支那人ヲ除ク)ヲ各口坐別トシ一冊ニ編成スルヲ例トス但シ戸數二百未満ノモノハ數町村子ヲ合シテ一冊トシ其ノ戸數二百以上ノモノハ適宜數冊ニ分ツコトヲ得

第十五條 戸口調査ハ特種ノ番號ヲ附セス普通番戶ニ依ルモノトス其ノ一番戸内ニ數戸居住スルトキハ何番

戸ノ一(二)(三)ヲ以テ區別スヘシ

官署、學校、病院等ノ所屬宿舍ニシテ普通番戸ヲ有セサルモノアルトキハ適宜某宿舍第何號ト記載スヘシ
其ノ一號内ニ數戸居住スルトキハ前項ノ例ニ依ル

一定ノ住所ヲ有セサル者ハ其ノ常ニ徘徊スル町村子ノ末尾ニ編入シ不定住者タルコトヲ記載スヘシ

第十六條 同一番戸内ニ同居同籍ノ者ハ一戸トシ同居スルモ異籍ノ者ハ之ヲ別戸ト見做ス

第十七條 戸口調査簿ニ記載スヘキ事項ハ概テ左ノ如シ

- 一 本籍、現住所、族籍、職業、氏名、生年月日
- 二 加入除却及異動ノ事由並年月日
- 三 官公職、位勳、博士、學士、進士、舉人、秀才等ノ稱號
- 四 戸主ニ非サル者ハ戸主トシ續柄及附籍者、傭人、同居人等ノ名稱
- 五 戸主並家族ノ父ノ名
- 六 戸主又ハ家族ト爲リ又ハ退隱シタル事由及年月日但シ其ノ年月日ニシテ明瞭ナラサルモノハ推定年月日其ノ推定スルコト能ハサルモノハ單ニ開署以前相續又ハ何々ト記載スルモ妨ケナシ
- 七 後見人アル者ハ其ノ後見人ノ住所、氏名及其ノ就職並任務終了ノ年月日
- 八 棄兒ヲ引受ケタルトキハ發見ノ場所年月日時、棄兒出生ノ推定年月日、氏名、男女ノ別但シ其ノ氏名ハ引受人ニ於テ之ヲ命セシムルモノトス
- 九 本氏名ノ外普通ニ稱呼スル屋號、商號幼名又ハ異名ヲ有スル者ハ其ノ屋號、商號、幼名又ハ異名
- 十 甲種、乙種、丙種ノ區別但シ甲種ハ氏名ノ上ニ㊦乙種ハ同㊧丙種ハ同㊨ノ略符ヲ附スヘシ
- 十一 要視察人但シ第一種要視察人ハ㊩第二種要視察人ハ㊪ノ略符ヲ附スヘシ
- 十二 阿片吸食者但シ㊫ノ略符ヲ附スヘシ

十三 前各號ノ外必要ト認ムル事項

第十八條 戸口調査簿ノ記載順位ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ一旦記載シタル後ハ順位ニ拘ラス逐次列記シ全部改寫スル場合ニ於テ之ヲ訂正スルモノトス

- 一 戸主
 - 二 直系尊屬並其ノ配偶者
 - 三 戸主ノ配偶者
 - 四 直系卑屬並其ノ配偶者
 - 五 傍系尊屬並其ノ配偶者
 - 六 傍系卑屬並其ノ配偶者
 - 七 其ノ他ノ家族
 - 八 傭人
 - 九 同居人
- 第二號ハ親等ノ遠キ者其ノ他ハ親等ノ近キ者親等ノ同シキ者ハ年長者ヲ先キニシ其ノ血族ト姻族間ニ在リテハ血族ヲ先キニス但シ夫婦ハ年齢ニ拘ラス夫ヲ先キニス
- 第十九條 出寄留者ハ其ノ戸口調査簿ノ記事欄ニ付箋ヲ爲シ出寄留年月日寄留先及事由ヲ記載スヘシ
- 第二十條 戸口調査簿ノ記載方ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
- 一 加入ニ屬スル者ハ總テ墨書トス
 - 二 除却ニ屬スル者ハ其ノ年月日及事由ヲ朱書シ氏名ニ朱墨線二條ヲ劃スヘシ
 - 三 氏名、身分、職業、生年月日其ノ他ノ更改ハ其ノ新事實ヲ舊事實ノ右傍ニ墨書シ舊事實ニ朱墨線一條ヲ劃シ其ノ年月日及事由ヲ墨書スヘシ

- 四 前各號及時ニ定ムルモノノ外ハ總テ墨書トス
- 第二十一條 戸口調査簿ハ改製又ハ改寫スルコトヲ得ス但シ戸主代替ノ場合ニ於テハ之ヲ改寫スルヲ要ス
前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ認許ヲ受クヘシ
- 第二十二條 分家又ハ受持區外ヨリ移轉シタルトキハ相當番戶ニ編入シ絶家、廢家、又ハ全戸受持區外ニ轉
出シタルトキハ其ノ年月日、事由ヲ記載シ全面ニ朱線ヲ又劃シ除籍簿トシテ之ヲ保存スヘシ代替ニ因リ改
寫シタル舊戸口調査簿亦同シ受持區内ニ於ケル轉住ハ其ノ年月日、事由ヲ記載シ直ニ相當番戶ニ移スヘシ
- 第二十三條 戸口調査簿ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載シ文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ要
スルトキハ之ニ認印シ其ノ削除スヘキ者ハ朱線ヲ劃シ原文ノ字體ヲ存シ置クヘシ
- 第二十四條 受持調査ハ別記第二號様式ニ依リ戸口調査成績表ヲ調製シ戸口調査簿表紙ノ第二面ニ貼付シ毎
月五日限リ前月中調査シタル成績ヲ記載スヘシ
- 第二十五條 主任警部ハ三箇月毎ニ監視區監督ハ毎月各一回以上左ノ方法ニ依リ戸口調査ノ成績ヲ監査シ不
備又ハ錯誤アルヲ認メタルトキハ期間ヲ示シ補充又ハ修正ヲ爲サシメ更ニ之ヲ監査スヘシ
 - 一 實地監査 實地ニ就キ簿冊ト對照監査ス
 - 二 簿冊監査 簿冊ニ記載ノ適否及精粗ヲ監査ス
 - 三 試問監査 簿冊ニ記載ノ事項ヲ試問シ注意觀察ノ精粗ヲ監査ス
- 第二十六條 受持調査ハ毎年一月十五日マテニ別記第四號様式ニ依リ前年十二月末日現在ノ戸口調査表ヲ作
リ警務部長又ハ支署長ニ報告スヘシ
- 警務部長及支署長ハ前項ノ報告ニ依リ戸口統計表ヲ作り民政長官ニ報告スヘシ

別記第一號様式ノ一

<p>明治何年何月調</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">戸口調査簿</p> <p style="text-align: right;">何村</p>	<p style="text-align: right; font-size: 0.8em;">警務部出張所何警察官吏派出所 何支署何警察官吏駐在所</p>
---	--

別記第一號様式ノ二

戸口調査簿索引				種別	番	戸	摘要	戸主又ハ世帯主氏名	種別	番	戸	摘要	戸主又ハ世帯主氏名
				甲	二五三	會	長	何 某					
				乙	二五三ノ一			、 、 、 、 、					
				丙	二五四	何	亭	、 、 、 、 、					
				丙	二五四ノ甲	被	監人	、 、 、 、 、					

記載例

摘要欄ニハ業體屋號其ノ他目標トナル事項ヲ記入スヘシ

別記第一號様式ノ三(甲)

本籍		何府何市何郡町村番地		族稱		士旅(平民)	
現住所		大連市何町何丁目何番戸		前住所		韓國仁川港何町第何番戸	
屋號	何々	後砲伍長	勳八等	主	(主帶世)	父	父某長男
何々	何々	雜貨商		母		父	父某妻
何年何月何日相續	何年何月何日隱居	何年何月何日犯重禁錮	何ケ月ニ	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
處セラレ				某	某	某	某
何年何月何日何縣何郡何町士族何某何女入籍							

戶口調查簿

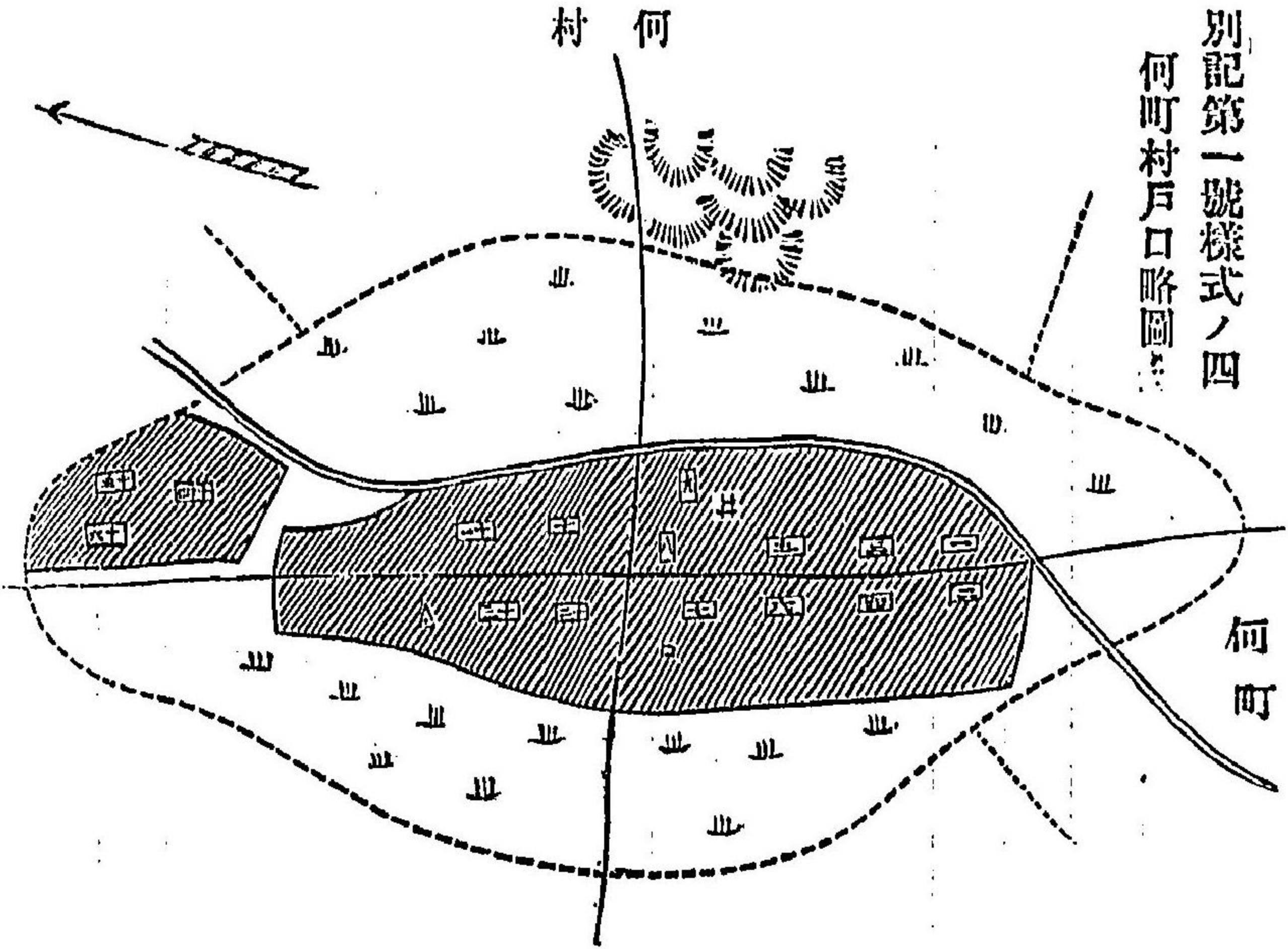
何年何月何日何縣何郡何村士族何某何女入籍⑩							
何年何月何日何縣何郡何村平民何某二女入籍⑩							
何年何月何日當時何々寄留何縣何郡何町何業士族何某妻ニ稼ス(朱書)⑩							
				何銀行書記			
				妻		何年何月何日生	
				長		何年何月何日生	
				男		何年何月何日生	
				婦		何年何月何日生	
				妹		何年何月何日生	
				父某長女		何年何月何日生	
				朱線.....某		何年何月何日生	

別記第一號様式ノ三(乙)

當時何々寄留何縣何郡何町何番戶平民何某二男商業見習ノ爲同居何年何月何日⑩							
何縣何郡何町何番戶平民何某三男傭人何年何月何日⑩		手代					
				同居		何年何月何日生	
				傭人		何年何月何日生	
				女傭		何年何月何日生	
				下女(店番)		何年何月何日生	

戶口調查簿

別記第一號樣式ノ四
何町村戸口略圖



- 記載例
- 凡 民 政 署
 - 出 張 所
 - 人 家
 - 郵便 局
 - 耕地 地
 - 道 路
 - 村 界
 - 兵 隊
 - 宇 治
 - 車 場
 - 山
 - 鐵 道
 - 神 社
 - 兵 營
 - 河 溝
 - 墓 地
 - 電 信 局
 - 井 水
 - 警察官吏 駐在所
 - 支 署
 - 凡

- 記載例
- 一 一町村ヲ一紙ニ縮圖スヘシ
 - 二 人家ニハ數字ニテ番戸ヲ記入スヘシ
 - 三 道路ハ朱河溝海ハ青山丘ハ萌黃ヲ以テ彩ルモノトス
 - 四 本圖ハ戸口調査簿ノ末尾ニ添付スヘシ

別記第二號樣式

明治何年中戸口調査成績表

警部 檢印	成	績	受持巡査 何 某印											
			月次			戸數			人			口		
① 調査不充分ニシテ實地ニ不適合ノ座多ク記載亦亂雜ナリ 巡査部長印			一月	二月	三月	甲	乙	丙	甲	乙	丙	甲	乙	丙
						五〇〇	一〇〇	二〇〇	八〇〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	三〇〇	二〇〇
			十二月	十一月	十月									
			九月	八月	七月									
			六月	五月	四月									
			三月	二月	一月									

記載例

一 戸口欄右行ハ黒書ヲ以テ當月末現在數ヲ掲ケ左行ハ朱書ヲ以テ當月中調査シタル延數ヲ記載スルモノトス

支那人以外ノ外國人ニ關シテハ前表記載例ニ準シ別ニ内譯表ヲ調製シテ添附スヘシ

●料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則

(明治三十八年十月二十二日)
警令 第四百二十二號

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則左ノ通相定ム

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則

第一條 料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ且軍票ニ基ク代價又ハ料金ヲ定メ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ第二號第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 氏名、族籍、住所、年齢及商號

二 營業場所ノ位置及營業ノ種類

三 營業用建物ノ平面圖出入口、窓、通路、間取、換氣法及暖氣法、階段ノ位置及階等ヲ詳記スヘシ

前項ノ出願者ニシテ未成年者、禁治産者ニ在リテハ法定代理人、準禁治産者ニ在リテハ保佐人妻ニ在リテハ夫ノ連署又ハ同意書ノ添付ヲ要ス

第二條 營業者自ラ營業ヲ管理シ能ハサル事情アルトキハ管理人ヲ定メ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 營業者ハ左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ツヘシ但シ死亡、失踪ノ場合ハ家族又ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 休業、廢業、死亡、失踪

二 氏名、族籍、住所、商號ヲ變更シ又ハ法定代理人、保佐人、夫、管理人ニ異動アリタルトキ

第四條 物價ノ高低ニ依リ飲食物ノ代價、宿料、席料、手數料ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 營業者ニシテ使用人ヲ雇入レタルトキハ其ノ氏名、族籍、住所、年齢ヲ具シ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ツヘシ解雇、死亡、失踪ノトキ亦同シ但シ藝妓、酌婦及雇婦女取締規則ニ依ルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 營業者ハ賭易キ場所ニ氏名又ハ商號及住所營業名ヲ明記シタル看板壁ニ尺五寸ハ八寸ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ點スヘシ

第七條 客室ノ入口ニハ番號ヲ標記シ飲食物ノ代價、宿料、席料、手數料ハ客ノ賭易キ場所ニ揭示スヘシ

第八條 結核病、癩病、微毒其ノ他傳染病ニ罹レル者ヲシテ飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲スヘキ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス

第九條 飲食物ノ取扱者ニ對シ本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十條 風俗若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ本署又ハ支署ハ營業者ニ對シ其ノ使用人ノ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 客ノ變死傷又ハ携帶品ノ紛失、盜難アリタルトキハ他客ノ出入ヲ止メ置キ速ニ警察官吏ニ届出ツヘシ傳染病ノ疑アル患者ヲ生シタルトキ亦同シ

第十二條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 客引ヲ出シ又ハ種々ノ手段ヲ設ケ強テ客ヲ誘引スヘカラス

二 不當ノ代料ヲ請求シ若ハ客ノ求メサル飲食物ヲ供シ又ハ遊興ヲ勸ムヘカラス

三 客ニ供スル飲食器具ハ常ニ清潔ナラシムヘシ

四 家屋ノ内外ハ常ニ清潔ニシ殊ニ便所其ノ他不潔ノ場所ハ毎月五回以上消毒的清潔法ヲ施行スヘシ

- 五 客室、廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾壺ヲ設置スヘシ
- 六 客ニ而會ヲ求ムル者アルトキハ故ナク之ヲ隱秘シ又ハ其ノ受次ヲ拒ムヘカラス
- 七 飲食物ノ代價、宿料、席料、手數料ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ取ラムトスルトキ又ハ客ノ依頼ニ依リ所持品ヲ入質又ハ賣却セムトスルトキハ本署又ハ支署若ハ警察官吏派出所ニ届出其ノ承認ヲ受クヘシ
- 八 身分不相應ノ金錢ヲ浪費シ又ハ舉動其ノ他ニ於テ不審ト認ムル客アルトキハ本署、支署又ハ警察官吏派出所若ハ巡行ノ警察官吏ニ申告スヘシ
- 九 料理店、飲食店、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業者ハ客ヲ宿泊セシムヘカラス下宿屋營業者ニシテ下宿人以外ノ客ニ對シテ亦同シ
- 十 料理店、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業者ハ午後十二時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲ演セシムルコトヲ得ス
- 十一 飲食店、宿屋、下宿屋營業者ハ客ヲシテ放歌詩吟又ハ歌舞音曲ヲ演シ他客ニ妨害ヲ與フヘキ行爲ヲ爲サシムヘカラス
- 十二 免許ナキ婦女ヲシテ藝妓、酌婦ノ稼業又ハ之ニ類スル所業ヲ爲サシムヘカラス
- 第十三條 宿屋營業者ハ別記様式ニ依リ宿泊人名簿ヲ調製シ且午後十二時前ノ投宿者ニ對シテハ午後十二時迄ニ午後十二時以後ノ投宿者ニ對シテハ翌日午前八時迄ニ本署、支署又ハ警察官吏派出所ニ宿泊人名簿ト同一事項ヲ記載シタル投宿届ヲ爲スヘシ
- 第十四條 下宿屋營業者ハ下宿人ノ氏名、族籍、住所、職業、年齢ヲ記載シタル下宿人名簿ヲ調製シ其ノ異動ヲ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ツヘシ
- 第十五條 營業取締上視察ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏ハ隨時營業場所ニ臨檢スルコトアルヘシ
- 第十六條 營業許可ノ後正當ノ理由ナクシテ六十日以上開業セサルトキ又ハ開業後百八十日以上休業シタル

トキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 第十七條 營業者ニシテ公安、風俗又ハ衛生ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十八條 營業上ニ關シテハ家族、同居人及雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス
 第十九條 各營業者ニシテ組合規約ヲ設ケムトスルトキハ役員選舉ノ方法及組合費ノ收支其ノ他組合事務ニ關スル事項ヲ具シ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 組合規約ハ認可ノ後ト雖之カ取消又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ
 第二十條 本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ十日以内ノ拘留又ハ一四九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第二十一條 前條ノ規定ハ十二歳未滿ノ者及禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附則

第二十二條 本令ハ明治三十八年十一月一日ヨリ施行ス

別記様式

客室番號	投宿月日	出發月日	前夜宿泊場所	行先地	用件	本籍及現住所	職業	氏名	生年月日

備考

- 一 日順ニ依リ記入スヘシ
- 一 文字ハ明瞭ナルヲ要ス
- 一 投宿届ハ宿泊人名簿ト同一様式ヲ用ユヘシ

●料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則

施行心得 (明治三十八年十月二十五日) (警務部) (訓令 第十四號) (支署)

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則施行ニ付左ノ通心得ヘシ

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則施行心得

第一條 別記様式ニ依リ規則第一條ノ種類ニ基テ營業者名簿ヲ備ヘ開廢其ノ他異動アル毎ニ加除訂正スヘシ
前項ノ名簿ハ便宜之ヲ一冊ニ編綴スルコトヲ得

第二條 警察官吏ハ毎月一回以上各營業場所ニ臨檢シ規則第二條乃至第七條ニ規定スル事項ノ異動又ハ第八條第十二條乃至第十四條ニ規定スル事項ニ違背ナキヤ否ヲ視察シ其ノ概況ヲ營業者名簿備考欄ニ摘記スヘシ

第三條 支署ニ於テ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消シタルトキハ其ノ狀ヲ具シ民政長官ニ報告スヘシ
第四條 營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消シタルトキハ本署ハ支署ニ支署ハ他ノ支署ニ通知スヘシ

第五條 支署ニ於テ規則第十九條ノ組合規約ヲ認可シ又ハ取消變更ヲ爲サントスルトキハ民政長官ニ稟申シ其ノ認可ヲ受クヘシ
(別記様式)

考	備	營業種別	△旅人宿	營業者原籍、身分、住所、氏名、生年月日
		營業場所	△大連市與町通 △二丁目何番地	△何縣何郡何町何番地平民 大連市何町何丁目何番地居住
		商號又ハ家號	△朝日屋	何 某
		客室數及坪數	△八室、二十五坪	明治何年何月何日生
		管理人、法定代理人、 補佐人、夫ノ住所氏名	△管理人	大連市何町何丁目何番地居住 何 某

考 備	營業種別	營業者原籍、身分、住所、氏名、生年月日
	營業場所	
	商號又ハ家號	
	客室數及坪數	
	管理人、法定代理人、補佐人、夫ノ住所氏名	

△印ハ記入ノ例ヲ示シタルモノナリ

●藝妓、酌婦及雇婦女取締規則 (明治三十八年十月十七日 警令 第二二七號)

藝妓、酌婦及雇婦女取締規則左ノ通相定ム

藝妓、酌婦及雇婦女取締規則

第一條 藝妓又ハ酌婦ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ且戶籍謄本及本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ本署又ハ支署ニ願出許可證ヲ受クヘシ

一 氏名、族籍、住所、身分、年齢

二 藝名ヲ有スル者ハ其ノ名稱

三 前居住地、職業、雇主アリタル者ハ其ノ氏名、住所、職業及解雇年月日

四 抱主アルトキハ其ノ氏名、住所、職業及抱主トノ契約上ノ關係

未成年者又ハ有夫ノ婦ニ在リテハ前項ニ記載スル事項ノ外親權者、後見人又ハ夫ノ同意書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、待合茶屋、貸席、貸座敷、引手茶屋、遊技場營業者ニシテ客ヲ接待セシムル目的ヲ以テ藝妓酌婦以外ノ婦女ヲ雇入レムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ且本人ノ戶籍謄本及本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ連署ヲ以テ本署又ハ支署ニ届出認可證ヲ受クヘシ其ノ未成年者ニ在リテハ身元保證書ノ添付ヲ要ス

一 前條第一項第一號及第三號ニ記載シタル事項

二 口入人アルトキハ其ノ氏名、住所、職業

三 雇傭期間及雇傭賃金

第三條 藝妓、酌婦及前條ニ規定スル雇婦女ニシテ左ノ一ニ該當スルトキハ三日以内ニ藝妓、酌婦ニ在リテハ本人ヨリ雇婦女ニ在リテハ雇主ヨリ本署又ハ支署ニ届出第一號ノ場合ニ於テハ許可證又ハ認可證ノ書換ヲ第二號ノ場合ニ於テハ其ノ再下付ヲ請求シ第三號ノ場合ニ於テハ其ノ返納ヲ爲スヘシ但シ藝妓酌婦ノ死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テハ抱主又ハ家族若ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 許可證又ハ認可證而の異動
 - 二 許可證又ハ認可證ノ毀損、亡失
 - 三 廢業、死亡、失踪
- 第四條 藝妓、酌婦又ハ第二條ニ規定スル雇婦女ハ從業中許可證若ハ認可證ヲ携帶スヘシ
許可證又ハ認可證ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ス
- 第五條 警察官吏ハ藝妓、酌婦ノ許可證及雇婦女ノ認可證ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 第六條 藝妓、酌婦ハ從業中左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 遊技ニ托シ賭博ニ類スル所業ヲ爲スヘカラス
 - 二 異様ノ扮装又ハ醜體ヲ爲スヘカラス
 - 三 猥褻ナル放歌又ハ舞踊ヲ爲シ若ハ之ヲ爲サシムヘカラス
- 第七條 藝妓ハ午後十二時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲ演スルコトヲ得ス
- 第八條 藝妓、酌婦ニシテ他家ニ宿泊セムトスルトキハ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 藝妓、酌婦及第二條ニ規定スル雇婦女又ハ風俗衛生上取締ヲ要スル場所ニ同居若ハ出入スル婦女ニシテ傳染性疾患ノ虞アリト認ムル者ニ對シ當該吏員ハ其ノ健康診斷ヲ行フコトヲ得
- 第十條 前條ノ婦女ニシテ傳染性疾患又ハ其ノ疑似症ニ罹リタルトキハ病院ニ收容シ治療ヲ受ケシムヘシ其ノ入院費用ハ抱主、雇主又ハ本人ヨリ之ヲ徵收ス
- 第十一條 本署又ハ支署ニ於テ風俗若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ藝妓、酌婦ノ抱主又ハ雇婦女ノ雇主ニ對シ藝妓、酌婦又ハ雇婦女ノ員數ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第十二條 藝妓、酌婦及第二條ニ規定スル雇婦女ニシテ風俗若ハ衛生ニ害ヲ及ホス者ト認ムルトキハ其ノ從業ヲ停止シ又ハ其ノ許可若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ從業ヲ停止セラレタルトキハ停止期間中許可證又ハ認可證ヲ提供シ其ノ許可又ハ認可ヲ取消サレタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第十三條 此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ十日以内ノ拘留又ハ一四九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ規則ハ之ヲ娼妓ニ適用セス

附 則

第十五條 本令ハ明治三十八年十月二十日ヨリ施行ス

第十六條 本令施行前ニ於テ第一條ノ營業ニ從事スル者及第二條ノ雇入ヲ爲シタル者ハ明治三十八年十月三十一日迄ニ第一條又ハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

●藝妓酌婦及雇婦女取締規則施行心得 (明治三十八年十月十八日) (警務部) 支署

藝妓酌婦及雇婦女取締規則施行ニ付左ノ通心得ヘシ

藝妓酌婦及雇婦女取締規則施行心得

第一條 藝妓酌婦ノ營業許可又ハ規則第二條ノ雇婦女ノ認可ヲ願出タルトキハ規則第一條及第二條ノ各事項ヲ具備シ且左ノ各號ニ牴觸セサル者ニ限リ別記第一號第二號ノ様式ニ基キ許可證又ハ認可證ヲ下付スヘシ

- 一 居住届ヲ爲ササル者
- 二 公安風俗及衛生ニ害アリト認ムル者
- 三 藝妓ノ從業事實アルモノニシテ酌婦ノ出願ヲ爲シ又ハ酌婦ノ從業事實アルモノニシテ雇婦女ノ願出ヲ爲シタル者

第二條 前條ニ依リ許可認可ヲ與ヘントスルトキハ別記第三號様式ニ依ル藝妓酌婦及雇婦女名簿ニ登載シ許

可證又ハ認可證ト契印ヲ爲シ異動アル毎ニ名簿ノ加除訂正ヲ爲スヘシ

藝妓酌婦及雇婦女ノ願届ニ關スル書類ハ別ニ編冊シ置クヘシ

第三條 規則第一條第一項ノ健康診断書ヲ作成スル醫師ハ本署又ハ支署ニ勤務スル醫師又ハ囑託醫タルコトヲ要ス

第四條 規則第九條ノ健康診断ヲ行ヒタルトキハ診断名簿ニ其ノ住所氏名年齢及職業ヲ登載シ診断毎ニ其ノ狀況ヲ記載シ經過ヲ明ニスヘシ

第五條 規則第十一條又ハ第十二條第一項ノ處分ヲ爲シタルトキハ本署ハ支署ニ支署ハ他ノ支署ニ通知スヘシ

第六條 支署ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ狀ヲ具シ民政長官ニ報告スヘシ

(別記) 第一號様式 (用紙鳥ノ子) 二寸五分

面	表	裏
二寸	二寸	二寸
<p>民警第 號</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>藝妓營業許可證</p> <p>(酌婦)</p> <p>姓名</p> <p>住所</p> <p>年 月 日生</p>	<p>民警第 號</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>藝妓營業許可證</p> <p>(酌婦)</p> <p>姓名</p> <p>住所</p> <p>年 月 日生</p>	<p>一 此ノ許可證ハ從業中必ス携帯スヘシ</p> <p>一 此ノ許可證ハ他人ニ貸與スヘカラス</p> <p>一 此ノ許可證面ニ異動ヲ生シタルトキハ書換ヲ請フヘシ</p> <p>一 此ノ許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ再下付ヲ請フヘシ</p> <p>一 廢業シタルトキハ此ノ許可證ヲ返納スヘシ</p>

備考 藝妓營業許可證ノ表面ヲ赤色トナシ酌婦ノ分ヲ青色トナス

第二號様式 (用紙鳥ノ子) 二寸五分

面	表	裏
二寸	二寸	二寸
<p>民警第 號</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>雇婦女認可證</p> <p>住所</p> <p>年 月 日生</p>	<p>民警第 號</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>雇婦女認可證</p> <p>住所</p> <p>年 月 日生</p>	<p>一 此ノ認可證ハ從業中必ス携帯スヘシ</p> <p>一 此ノ認可證ハ他人ニ貸與スヘカラス</p> <p>一 此ノ認可證面ニ異動ヲ生シタルトキハ雇主ニ申出テ書換ヲ請フヘシ</p> <p>一 此ノ認可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ雇主ニ申出テ再下付ヲ請フヘシ</p> <p>一 解雇セラレタルトキハ此ノ認可證ヲ雇主ニ渡スヘシ</p>

第三號様式 (用紙美濃紙)

第	許可證下付	明治 年 月 日	原籍
異動			
現住所	氏名	年齢	身分
	姓名	名	名
		年 月 日生	

號		第			號	
廢業、死亡、失踪	記事	異動	許可證下附	廢業、死亡、失踪	記事	
明治 年 月 日			明治 年 月 日	明治 年 月 日		
抱主		氏名	現住所	抱主		
屋號	氏名	住所	身分 姓名	屋號	氏名	住所
			年月日生			

●貸座敷取締規則

(明治三十八年十二月三十日 警令 第十二號)

貸座敷取締規則左ノ通相定ム

第一條 貸座敷營業ハ特ニ指定シタル地域内ニ限り之ヲ許可ス

第二條 貸座敷營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ營業場所ヲ移轉セムトスルトキ若ハ支店ヲ設置セムトスルトキ亦同シ

- 一 氏名、族籍、住所、年齢
- 二 屋號
- 三 營業ノ場所
- 四 營業家屋ノ圖面間取、坪數、階子ノ幅員、個數、位置ヲ記スルヲ要ス

前項ノ出願者ニシテ未成年者、禁治產者ニ在リテハ法定代理人準禁治產者ニ在リテハ保佐人妻ニ在リテハ夫ノ連署又ハ同意書ノ添付ヲ要ス

第三條 營業者自ラ營業ヲ管理シ能ハサルトキハ管理人ヲ定メ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 營業者ハ左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ヘシ但シ死亡、失踪ノ場合ハ家族又ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 休業、復業、廢業
- 二 死亡、失踪
- 三 氏名、族籍、住所、屋號ノ變更
- 四 法定代理人、保佐人、夫、管理人ノ異動

第五條 營業者ハ營業名、氏名及屋號ヲ記載シタル看板壁二尺五寸、七寸ヲ店頭ニ掲ケ仍夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第六條 客室ノ入口ニハ番號ヲ標記シ飲食物、揚代其ノ他ノ代價料金ハ客ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條 營業者ハ娼妓ニシテ娼妓取締規則ニ違背シタルトキハ其ノ事實ヲ速ニ本署又ハ支署若ハ警察官吏派出所ニ届出ヘシ

第八條 營業者ニシテ使用人ヲ雇入レタルトキハ其ノ氏名、族籍、住所、年齢ヲ具シ三日以内ニ本署又ハ支

署ニ届出ヘシ解雇死亡失踪ノトキ亦同シ但シ藝妓酌婦及雇婦女取締規則ニ依ルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス
第九條 結核病、癩病其ノ他傳染性疾患ニ罹レル者ヲシテ食物若ハ其ノ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取
扱ヲ爲スヘキ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス

第十條 食物ノ取扱者ニ對シ本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診断ヲ受ケシムルコトアルヘシ
第十一條 風俗若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ本署又ハ支署ハ營業者ニ對シ其ノ使用人ノ解雇ヲ命スルコト
アルヘシ

第十二條 營業者ハ其ノ家族娼妓若ハ使用人ニ非サル婦女ヲ宿泊セシメ三日ヲ經過シタルトキハ直ニ本署又
ハ支署若ハ警察官吏派出所ニ届出ヘシ

第十三條 營業者ハ別記様式ニ依リ遊客人名簿ヲ調製シ各事項ヲ詳記スヘシ
遊客人名簿ハ最後記入ノ日ヨリ起算シ一箇年保存スヘシ若シ毀損亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ
具シテ本署又ハ支署ニ届出ヘシ

第十四條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 店頭其ノ他屋外ニ於テ通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ種々ノ手段ヲ設ケ客ヲ誘引シ若ハ廣告ヲ爲シテ遊興ノ
勸誘ヲ爲スヘカラス

二 不當ノ代價料金ヲ請求シ又ハ客ノ求メサル食物ヲ供スルコトヲ得ス
三 十七歳未満ノ者ニ遊興ヲ爲サシムヘカラス
四 客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ故ナク之ヲ隠秘シ又ハ其ノ取次ヲ拒ムヘカラス

五 容ニ供スル飲食器具ハ常ニ清潔ナラシムヘシ
六 家屋ノ内外ハ常ニ清潔ニシ便所其ノ他不潔ノ場所ハ毎月五回以上消毒的清潔法ヲ施行スヘシ
七 客室、廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾壺ヲ設置スヘシ

八 家屋内一定ノ場所ニ輕便消火器ヲ備ヘ置クヘシ
九 遊興費ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ受取ラムトスルトキ又ハ客ノ依頼ニ依リ他ニ入質又ハ賣却セムトス
ルトキハ本署、支署又ハ警察官吏派出所ニ届出其ノ承認ヲ受クヘシ

十 金錢ヲ浪費シ又ハ身分不相應ノ金錢物品ヲ所持シ若ハ舉動其ノ他ニ於テ不審ト認ムル客アルトキハ速
ニ警察官吏ニ申告スヘシ

十一 娼妓ニ娼妓取締規則ヲ遵守セシムルコトヲ努ムヘシ
十二 健康診断ヲ受ケサル娼妓ヲシテ稼業ヲ爲サシムヘカラス

十三 免許ナキ婦女ヲシテ藝妓、酌婦ノ稼業又ハ之ニ類スル所業ヲ爲サシムヘカラス (四一、府九號改正)
第十五條 營業取締上視察ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏ハ隨時營業場所ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條 營業ノ許可ヲ得タル後正當ノ事由ナク六十日以上開業セザルトキ又ハ開業後百八十日以上休業シ
タルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十七條 營業者ニシテ公安風俗又ハ衛生ヲ害スル虞アリト認ムルトキ又ハ徵稅ノ規則ニ背キ納金セザルト
キハ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十八條 營業上ニ關シテハ家族同居人、雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス
第十九條 營業者ハ遊廓地域毎ニ組合ヲ設ケ規約ヲ定メ本署又ハ支署ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ改正
變更セムトスルトキ亦同シ

組合規約ニハ役員選舉ノ方法役員ノ職務權限及組合費ノ收支其ノ他組合事務ニ關スル事項ヲ具備スヘシ
第二十條 組合ニ加入セザル者ハ貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ス
第二十一條 組合ハ貸座敷營業者中ヨリ取締一名副取締一名若ハ二名ヲ選舉シ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘ

シ但シ認可後ト雖不適當ト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消シ再選ヲ命スルコトアルヘシ
第二十二條 取締ハ貸座敷及娼妓ニ關スル規則ノ發布改正其ノ他官ノ命令アリタルトキハ其ノ事項ヲ貸座敷
營業者及娼妓ニ告知スヘシ

第二十三條 取締ハ貸座敷營業者及娼妓ノ名簿ヲ調製シ異同アル毎ニ加除訂正スヘシ
第二十四條 本署又ハ支署ハ組合事務ヲ監視スル爲メ當該官吏ヲシテ組合ニ關スル文書及共有財産ノ檢閲ヲ
爲サシムルコトアルヘシ

第二十五條 此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第二十六條 前條ノ規定ハ十二歳未滿ノ者又ハ禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附則

第二十八條 此ノ規則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式) (用紙美濃紙)

遊興年月日	族籍住所	職業	氏名	娼妓	藝妓
自何月何日午前何時至何月何日午後何時何日何時間	何府縣平民又士族何府縣何郡何村何番地	何職	何ノ誰	何	何
			特 年 何 年 痘 痕 ア リ		

●貸座敷取締規則施行手續 (明治三十九年二月十一日) (警務部)

貸座敷取締規則施行手續左ノ通相定ム

貸座敷取締規則施行手續

第一條 貸座敷取締規則第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ許可ノ指
令ヲ下付シ別記様式ノ臺帳ニ記載シ支署ニ在リテハ之ヲ報告スヘシ

第二條 左ニ掲クル者ハ貸座敷營業ヲ許可スヘカラス
一 強竊盜、詐欺取財、贓物ニ關スル罪、幼者ヲ略取誘拐スル罪ノ前科アル者及此等ノ者ト同居スル配偶
者
二 他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認ムル者

第三條 貸座敷取締規則第三條ニ依リ管理人認可ノ申請アリタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ差支ナシト認メタ
ルトキハ認可ノ指令ヲ下付シ臺帳ニ記載スヘシ
前條第一號ニ該當スル者ハ管理人タルコトヲ認可スヘカラス

第四條 貸座敷取締規則第四條ノ届出ヲ受理シタルトキハ臺帳ヲ加除訂正シ支署ニ在リテハ其ノ旨報告スヘシ

第五條 貸座敷取締規則第八條ニ依リ使用人雇入ノ届出ヲ受理シタルトキハ身元ヲ調査シ第二條第一號ニ該當シ未タ改悛ノ狀ナキ者及素行不良ノ者ナルトキハ解雇セシムヘシ

第六條 遊客人名簿ハ其ノ調製ノ始ニ於テ檢印シ濫ニ變改スルコトヲ得サラシムヘシ

第七條 貸座敷ニハ隨時警察官ヲシテ臨檢セシメ主トシテ左ノ事項ヲ視察セシムヘシ

- 一 娼妓取締規則及貸座敷取締規則ニ違反スル者ノ有無
- 二 娼妓ニシテ體質又ハ疾病等ニ因リ稼業ニ耐ヘサル者若ハ他人ノ虐待ヲ受クル者ノ有無
- 三 娼妓衛生上ノ設備及注意ノ周否
- 四 遊客人名簿ノ記載事項

第八條 支署ニ於テ貸座敷取締規則第十六條及第十七條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ報告スヘシ

第九條 貸座敷營業者組合規約ノ届出アリタルトキハ其ノ條項ヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ認可ノ指令ヲ下付スヘシ

支署ニ於テ前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ規約書寫ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ其ノ取消又ハ變更ヲ命シタルトキ亦同シ

第十條 組合取締副取締認可ノ申請アリタルトキハ人物ヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ認可ノ指令ヲ下付スヘシ
支署ニ於テ前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨報告スヘシ其ノ再選ヲ命シタルトキ亦同シ

(別記様式) (用紙美濃白紙)

考 備	許 可 番 號	許 可 年 月 日	廢 業 年 月 日	屋 號	住 氏 生		族 籍
					所 年 月 名	所 年 月 名	
					營 業 場 所	生 氏 生	族 籍

●娼妓取締規則 (明治三十八年十二月三十日 警令第十一號)

娼妓取締規則左ノ通相定ム

娼妓取締規則

第一條 娼妓稼業ヲ爲サムトスル者ハ自ラ本署又ハ支署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シタル願書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

- 一 氏名、族籍、住所、身分
 - 二 生年月
 - 三 姓名
 - 四 娼妓トナル事由
 - 五 娼妓稼業ノ年限
 - 六 貸座敷營業者ト契約上ノ關係
 - 七 未成年者ニ在リテハ同一戸籍内ニ在ル最近尊族親尊族親ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト若承諾ヲ與フル者ナキトキハ其ノ事實
 - 八 娼妓稼業ヲ爲スヘキ場所及住居
 - 九 現在ノ生業但シ他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實
 - 十 娼妓タリシ事實ノ有無就管テ娼妓タリシ者ハ其ノ稼業ノ開始廢止年月日場所及稼業廢止ノ事由
- 前項ノ願出ニハ戸籍謄本及本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ添付スヘシ仍未成年者ニ在リテハ前項第七號ノ承諾書ヲ添付スルヲ要ス
- 本署又ハ支署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外市區町村長ノ作リタル承諾者ノ印鑑證明書ヲ提出セシムルコトアルヘシ
- 第二條 左ノ事項ニ該當スル者ハ娼妓タルコトヲ得ス
- 一 十七歳未満ノ者
 - 二 有夫ノ婦
 - 三 竊盜、詐偽取財ノ前科アル者
- 第三條 娼妓ハ本署又ハ支署ノ指定シタル遊廓地域外ニ住居スルコトヲ得ヌ又官廳ノ命令ニ依リ若ハ本署又

- ハ支署ニ出頭スル場合ノ外本署又ハ支署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ遊廓地域外ニ出ツルコトヲ得ヌ
- 第四條 娼妓ハ本署又ハ支署ノ許可シタル貸座敷内ニ非サレハ稼業ヲ爲スコトヲ得ヌ
- 第五條 娼妓ハ別ニ定ムル所ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ其ノ健康診斷ヲ受ケサル者ハ稼業ヲ爲スコトヲ得ヌ
- 第六條 本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アルモノト診斷シタル娼妓ハ治療ノ上健康診斷ヲ受クルニ非サレハ稼業ニ就クコトヲ得ヌ
- 第七條 娼妓ハ其ノ稼業中本署又ハ支署ノ交付シタル許可證ヲ携帯スヘシ許可證ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ヌ
- 第八條 娼妓第一條第一項第五號第六號又ハ第八號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ本署又ハ支署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 娼妓稼業ヲ休止シタルトキ又ハ停止セラレタルトキハ本署又ハ支署ニ許可證ヲ提供シ復業ノトキ其ノ下付ヲ受クヘシ其ノ許可ヲ取消サレタルトキハ之ヲ返納スヘシ
- 第十條 娼妓ハ左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出第一號ノ場合ニ在リテハ許可證ノ書換ヲ第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ再下付ヲ第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ返納ヲ爲スヘシ但シ死亡又ハ失踪ノ場合ニ在リテハ契約上ノ關係ヲ有スル貸座敷營業者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 許可證面ニ異動ヲ生シタルトキ
 - 一 許可證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ
 - 三 廢業死亡又ハ失踪ノトキ
- 第十一條 娼妓廢業セムトスルトキハ自ら本署又ハ支署ニ出頭シ書面又ハ口頭ヲ以テ届出ツヘシ但シ自ら出頭スル能ハサル事由アリト認ムルトキハ代人ニ依ル届出ヲ受理スルコトアルヘシ
- 前項ノ届出ハ娼妓未成年者ナルトキハ第一條第一項第七號ニ記載スル者亦之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 本署又ハ支署ニ於テ取締上必要ト認ムルトキハ娼妓稼業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 支那人ニシテ娼妓稼業ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ第一條ニ規定スル各項中其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第十四條 此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ爲ス處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十五條 此ノ規則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●娼妓取締規則施行手續 (明治三十九年一月十一日) (警務部) (訓令 第一一號)

娼妓取締規則施行手續左ノ通相定ム

娼妓取締規則施行手續

第一條 娼妓稼業ノ願書ヲ受理シタルトキハ娼妓取締規則第一條ノ各項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ別記第一號様式ノ娼妓稼業許可證ヲ下付シ別記第二號様式ノ臺帳ニ記載スヘシ

第二條 娼妓取締規則第三條ニ依リ娼妓ノ遊廓地域外ニ出行ヲ許可スルトキハ別記第三號様式ノ娼妓外出許可證ヲ交付シ歸廓シタルトキハ返納セシムヘシ

第三條 娼妓取締規則第八條ノ届出ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ差支ナキモノハ認可ノ指令ヲ下付シ臺帳ヲ訂正スヘシ

第四條 娼妓取締規則第十條第一號及第二號ノ届出ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ許可證ノ書換又ハ再下付ヲ爲シ其ノ旨臺帳ニ記載シ第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ旨ヲ朱記シテ臺帳ヲ削除スヘシ

第五條 娼妓稼業ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ確メ臺帳ヲ削除スヘシ
口頭ニ依ル届出アリタルトキハ事實ヲ聞取り調査ヲ作成シ之ヲ讀聞カセタル上臺帳ヲ削除スヘシ代人ニ依ル届出ハ本人ノ自由意思ニ出テタルコトヲ確メタル上ニ非サレハ受理スヘカラス

娼妓取締規則第十一條第二項ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ旨娼妓ニ通告スヘシ

第六條 支署ニ於テ娼妓取締規則第十二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ報告スヘシ

第七條 支那人ニシテ娼妓稼業ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ娼妓取締規則第一條第一項第四號第五號第六號第七號第九號第十號ヲ省略スルコトヲ得

(別記)

第一號様式 (用紙鳥ノ子)

二寸五分

民警第	號
明治	年 月 日
娼妓稼業許可證	
族籍	氏 名
住所	氏 名
年 月 日 生	
姓 名	

裏

一此ノ許可證ハ稼業中必ス携帯スヘシ
一此ノ許可證ハ他人ニ貸與スヘカラス
一此ノ許可證ニ異動ヲ生シタルトキハ書換ヲ請フヘシ
一此ノ許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ再下付ヲ請フヘシ
一廢業シタルトキハ此ノ許可證ヲ返納スヘシ

表 二 寸

第二號樣式 (用紙美濃白紙)

許可 番號	許可 年月日	廢業 年月日	稼業 年限	姓名	備考
住身住族 年名分所籍			稼業 場所及 居		

第三號樣式 (木札)

一寸五分

表
面
一寸八分

娼妓外出許可證

關東州民政署

裏
面

一 此許可證ハ外出中必ス携帯スヘシ

一 此許可證ハ他人ニ貸與スヘカラス

一 歸廓シタルトキハ此許可證ヲ自ラ返納スヘシ

●人力車營業取締規則

(明治三十九年七月三十一日 密令 第二十五號)

人力車營業取締規則左ノ通相定ム

人力車營業取締規則

第一章 通則

第一條 此ノ規則ニ於テ人力車營業者ト稱スルハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 人力車ヲ販賣スル者
 - 二 人力車ヲ貸貸スル者
 - 三 人ヲ使用シ人力車ヲ挽カシムルヲ以テ營業ト爲ス者
 - 四 人力車ノ所有者自ラ人力車ヲ挽クヲ以テ營業ト爲ス者
 - 五 第二號ニ該當スル者ヨリ賃借シタル人力車ヲ挽クヲ以テ營業ト爲ス者
 - 六 第三號ニ該當スル者ニ雇ハレ人力車ヲ挽クヲ以テ營業ト爲ス者
- 前項第一號ニ該當スル者ヲ人力車販賣營業者、第二號ニ該當スル者ヲ人力車貸貸營業者、第三號ニ該當スル者ヲ人力車帳場營業者、第四號ニ該當スル者ヲ甲種車夫ト稱シ第五號及第六號ニ該當スル者ヲ乙種車夫ト謂フ

第二條 人力車營業ヲ爲サムトスル者ハ原籍、住所、氏名、年齢、營業ノ種別、營業ノ場所、居住届出年月日及屋號ヲ有スル者ハ其ノ屋號、車體ヲ有スル者ハ其ノ數量ヲ具シ乙種車夫ニ在リテハ其ノ雇主又ハ人力車ノ貸主ト連署ノ上本署又ハ支署ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ兼業、轉業ノ場合モ亦同シ

第三條 人力車營業者ハ左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ本署又ハ支署ニ届出且第一號ノ場合ニ於テハ認可證又ハ車體検査證ノ再下附ヲ第二號及第七號ノ場合ニ於テハ認可證ノ書換ヲ第三號ノ場合ニ於テハ車體検査證

ノ下附ヲ申請シ第四號ノ場合ニ於テハ車體検査證ヲ第五號及第六號ノ場合ニ於テハ認可證ヲ返納スヘシ但シ認可證又ハ車體検査證ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ説明スヘシ

一 認可證又ハ車體検査證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ

二 原籍居住所氏名營業ノ場所又ハ屋號ヲ變更シタルトキ

三 人力車販賣營業者ニ非サル者車體ヲ輸入シ又ハ買入レ若ハ讓受ケタルトキ

四 車體ヲ賣渡シ若ハ讓渡シ又ハ車體ヲ廢棄シ若ハ其ノ使用ヲ廢止シタルトキ

五 廢業シタルトキ

六 死亡シ又ハ行衛不明トナリタルトキ

七 乙種車夫ニシテ其ノ雇主又ハ人力車ノ貸主ヲ變更シタルトキ

前項第一號乃至第五號ノ場合ニ在リテハ各本人ヨリ第六號ノ場合ニ在リテハ家族雇主又ハ組合取締人ヨリ

第七號ノ場合ニ在リテハ其ノ新雇主又ハ人力車ノ新貸主ト連署ノ上其ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 認可證又ハ車體検査證ハ貸借、讓渡又ハ轉用スルコトヲ得ス

第五條 乘車貸錢ハ組合ニ於テ其ノ額ヲ定メ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 人力車駐車場ハ本署又ハ支署之ヲ定ム

第七條 人力車營業者ニシテ此ノ規則ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムルトキハ本署

又ハ支署ハ營業ノ認可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第二章 車體及屬具

第八條 左ノ構造ニ係ル車體ニ非サレハ營業ノ爲輸入、賣買、賃借又ハ使用ヲ爲スコトヲ得ス

一 車體 (黒色ノ漆塗)

二 倚靠 (高サハ數下ヨリ一尺五寸以上幅ハ上部ニ於テ内方一尺六寸以上左右中張間一尺四寸以上トシ其ノ傾斜ハ數率ニ對シ百三度乃至百十度ノ角度ヲ保タシムヘシ)

三 腰掛 (高サハ九寸三分以上奥行ハ一尺一寸以上)

四 踏板 (奥行一尺七寸以上幅前後兩部共一尺五寸以上)

五 泥除 (長サ三尺幅三寸以上)

六 母衣 (高サハ腰掛ノ前ヨリ三尺五寸以上深サハ三尺二寸以上且シ夏季ハ半母衣ヲ用ユルヲ妨ケス)

七 前合羽 (長サ四尺以上幅三尺五寸以上)

八 中張及敷蒲團 (他ニ汚染ノ虞ナキ羅紗又ハ天蔴絨ノ類)

母衣及前合羽ハ黒色ノ護謨引又ハ桐油製ト爲スヘシ但シ半母衣ハ白布ヲ用ユルヲ妨ケス

第九條 人力車貸營業者、人力車帳場營業及甲種車夫ハ營業用ノ人力車ニ左ノ屬具ヲ備フヘシ

一 膝掛 (清潔ニシテ赤色ニアラサル毛布又ハ「スコッチ」ノ類)

二 提燈 (白地ニ組合名及車體検査證ノ番號ヲ黒記シタル球形ノ月張)

第十條 車體及屬具ハ其ノ使用前本署又ハ支署ノ検査ヲ受クヘシ其ノ修理ヲ加ヘタルトキ亦同シ

警察官吏ハ検査済ノ車體又ハ屬具ト雖モ毀損シ又ハ汚染シタルモノト認ムルトキハ其ノ使用ヲ禁止シ又ハ

修繕若ハ洗濯ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 車體検査證ハ車體ノ蹴込ニ釘付スヘシ

第十二條 車體、屬具、服裝認可證及検査證ハ本署又ハ支署ノ指定シタル日時場所ニ於テ其ノ検査ヲ受クヘシ

第三章 車夫心得

第十三條 車夫ハ就業中左ノ服裝ヲ爲スヘシ

一 上衣 (紺色又ハ黒色ノ法被又ハ袴類ニシテ兩襟ニ組合ノ名稱背部ニ許可證ノ番號ヲ白記ス)

二 下衣 (上衣ト同色ノ股引半股引若ハ褲)

三 帽 (紺色又ハ黒色ノ布ヲ被ヒタル禮頭笠若ハ大黒帽)

前項各號ノ色合ハ夏時ニ在リテハ白地又ハ淺黄地ト爲シ且帽ハ麥藁製ヲ用ユルコトヲ得但シ警察官署ハ其ノ時期ヲ指定シ又ハ同一組合員ニ同一ノ服裝ヲ命スルコトアルヘシ

雨天ノ際ハ黒色ノ護謨引又ハ桐油製ノ雨合羽ヲ着用スヘシ

風雪又ハ寒天ノ際ハ黒色ノ外套ヲ着用スルコトヲ得

第十四條 警察官更ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ車夫ノ服裝ヲ検査シ又ハ其ノ修繕洗濯新調ヲ命シ若ハ著用ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十五條 車夫就業中ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 人力車ノ母衣ハ車體ニ裝置シ濫リニ取離スコトヲ得ス
- 二 人力車ノ前合羽車體ノ屬具及雨合羽ヲ携帶スヘシ
- 三 乗客ノ拒絶アル場合ノ外ハ膝掛ヲ乗客ノ脚部ニ纏フヘシ
- 四 認可證及貸錢表ヲ携帶シ警察官更又ハ乗客ノ求メアルトキハ之ヲ示スヘシ
- 五 濫リニ乗車ヲ勸メ又ハ故ナク乗車ヲ拒ムコトヲ得ス
- 六 濫リニ乗車ノ前後ヲ爭ヒ又ハ競爭喧噪ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
- 七 乗客ノ指定セサル場所ニ車ヲ輓入レ又ハ下車セシメ又ハ乗客ノ意ニ反シテ乗替ヲ求メ若ハ濫リニ進行ヲ停止スルコトヲ得ス
- 八 街角又ハ橋上其ノ他行人ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客人ヲ乗降セシムルコトヲ得ス
- 九 客人ヲ乗降セシムルトキハ道路ノ傍ニ於テ爲スヘシ
- 十 駐車場ノ外街路ニ人力車ヲ置クコトヲ得ス但シ乗客ノ下車用辦中行人ノ妨害トナラサル場所ニ駐車スルハ此ノ限ニ在ラス

十一 人力車ヲ駐車場ニ置クトキハ正シク整列スヘシ

十二 二人以上駐車場ニ客待スル場合ハ到着順ニ出車スヘシ但シ乗客ノ特ニ指定シタル場合又ハ先著者ノ同意アルトキハ此ノ限ニ在ラス

十三 夜間ハ點燈スヘシ

十四 車馬道ノ設ケアル街路ハ人道ヲ挽クコトヲ得ス

十五 二人以上ノ客ヲ乗車セシムルコトヲ得ス

但シ十歳未満ノ小兒二人以下ヲ保護者ト同車セシムルハ此ノ限ニ在ラス

十六 何等ノ名義ヲ問ハズ定額外ノ賃錢又ハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條 車夫ハ警察官更ノ承認ヲ受クルニ非サレハ左ニ掲クル人又ハ物件ヲ乗載スルコトヲ得ス

- 一 傳染病患者、同死者又ハ傳染病毒ニ汚染シタル物件
- 二 車體ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ遺スノ虞アル物件
- 三 行人ノ妨害トナルヘキ長大ノ物件
- 四 爆發質其ノ他危險ノ虞アル物件

第四章 營業組合

第十七條 人力車貸賃營業者、人力車帳場營業者及車夫ハ本署又ハ支署ノ指定シタル區域方法ニ限リ組合ヲ

組織シ規約ヲ定メ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更シタルトキ亦同シ

組合區域内ニ於ケル營業者ハ組合ニ加入スルニ非サレハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ定ムヘシ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 取締人ノ任期及業務ニ關スル事項

三 駐車場掃除ノ方法

四 人力車ノ貸賃料

五 雇車夫ノ給料又ハ賃銀配當ノ歩合

六 組合費用ノ徴收及支辨ノ方法

七 前各號ノ外必要ノ事項

第十九條 組合員ハ正副取締人各一名ヲ互選シ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ

本署又ハ支署ニ於テ前項ノ取締人ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ再選ヲ命ジ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ
取締人ハ互選ニ依ラス民政署長又ハ支署長ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十條 組合取締人ハ組合員ノ名簿ヲ調製シ其ノ異動ヲ加除訂正スヘシ

第二十一條 組合ハ其ノ區域内ニ於ケル人力車駐車場ヲ掃除スヘシ

第五章 罰則

第二十二條 此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第二十三條 此ノ規則ハ明治三十九年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 此ノ規則發布ノ際現ニ許可ヲ得テ人力車營業ニ従事スル者ハ更ニ出願ヲ要セス此ノ規則ニ依リ
營業許可ヲ得タル者ト見做ス

既ニ検査證ヲ有スル車體ニシテ第八條ノ構造ニ適合セサルモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ六ヶ月間之ヲ使用
スルコトヲ得

第二十五條 第十五條第八號乃至第十號、第十三號乃至第十五號及第十六條ノ規定ハ營業者ニ非ラサル車夫
ニ適用ス

●營業取締規則 (明治三十九年十月二十六日 府令第二十七號)

營業取締規則左ノ通相定ム

營業取締規則

第一條 左ノ營業ヲ爲サントスル者ハ營業ノ種類、商號、營業ノ場所ヲ具シ甲種營業者ニ在リテハ所轄民政
署長ヲ經テ關東都督ニ乙種營業者ニ在リテハ所轄民政署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ特別ノ規定アルモ
ノハ其ノ手續ニ依ルヘシ

甲種

一 新聞雜誌ノ發行

二 電氣、瓦斯、流機、汽機及石油發動機ヲ使用スル諸營業

三 銃砲火藥其ノ他爆發物ノ輸出入製造及販賣業

四 鐵道輸送業

五 削除 (四一、府三九號)

六 削除 (同上)

七 賣藥部外藥劑製造業

八 屠獸場營業

九 化成場營業

十 其ノ他特ニ規定シタルモノ

乙種

一 煙火業

- 二 石油輸出入及販賣業
- 三 黃燐摺附木製造業
- 四 鍛冶鑄物製造業
- 五 質屋
- 六 古物商
- 七 印刷業
- 八 印版彫刻業
- 九 運送業
- 十 回漕業
- 十一 水先案内業
- 十二 曳船業
- 十三 舢舨業
- 十四 渡船業
- 十五 水上行商
- 十六 潛水業
- 十七 狩獵
- 十八 代書業
- 十九 案内業
- 二十 雇人口入業
- 二十一 演劇、寄席其ノ他諸興業

- 二十二 勸商場、觀物場及遊覽場、遊戲場
- 二十三 宿屋、下宿屋、料理店、飲食店、貸席待合茶屋、引手茶屋、芝居茶屋、遊船宿掛茶屋
- 二十四 貸座敷、藝妓檢番
- 二十五 藝妓、娼妓、酌婦稼業
- 二十六 俳優、相撲、遊藝師匠稼業
- 二十七 人力車、乘合馬車營業
- 二十八 醫術開業
- 二十九 削除 (四一、府三九號)
- 三十 獸醫開業
- 三十一 踏鐵工開業
- 三十二 產婆業
- 三十三 鍼治業
- 三十四 灸治業
- 三十五 按摩業
- 三十六 理髮業
- 三十七 清涼飲料水製造業
- 三十八 牛乳搾取業
- 三十九 乳製品製造業
- 四十 製氷、氷雪貯藏及販賣業
- 四十一 罐詰製造業

四十二 削除 (四一、府三九號)

四十三 掃除業

四十四 古著、襪襪、古綿、古紙營業

四十五 湯屋業

四十六 給水業

四十七 私立病院ノ設置

四十八 鑛泉浴場業

四十九 療養場設置

五十 市場開設

五十一 牧畜業

五十二 阿片販賣及阿片煙營業

五十三 其ノ他特ニ規定シタルモノ

第二條 營業ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ甲種營業ニ在リテハ所轄民政署長ヲ經テ關東都督ニ乙種營業ニ在リテハ所轄民政署長ニ届出ツヘシ但シ許可證又ハ鑑札ハ廢業届出ノ際返納スヘシ

第三條 營業者ハ其ノ營業上ニ關シ命令セラレタル事項ヲ遵守スヘシ

第四條 所轄民政署長ハ公安、風俗又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ營業場ニ臨檢セシムルコトヲ得

第五條 所轄民政署長ハ販賣又ハ營業ノ用ニ供スル飲食物、飲食物具、割烹具其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スル處アリト認ムルトキハ其ノ製造、販賣、授受、若ハ使用ヲ禁止シ又ハ停止シ若ハ其ノ物品ヲ廢棄セシメ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六條 營業者ニシテ公安、風俗又ハ衛生ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ禁止シ若ハ營業許可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條 本規則又ハ本規則ニ基ク命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ其ノ情狀ニ依リ五十圓以内ノ罰金又ハ拘留科料ニ處ス

附則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●代書業取締規則 (明治四十一年十一月十二日 府令第 六十五號)

代書業取締規則左ノ通相定ム

代書業取締規則

第一條 本令ニ於テ代書業ト稱スルハ他人ノ委託ヲ受ケ報酬ヲ得テ文書ノ代書ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 代書業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ自筆ノ履歷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 原籍、住所、氏名、年齢

二 業務所及出張所ノ位置

第三條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

一 業務所若ハ出張所ヲ變更シ又ハ出張所ヲ新設廢止シタルトキ

二 住所氏名ヲ變更シタルトキ

三 廢業シタルトキ

第四條 代書業ノ許可ヲ受ケサル者ヲシテ其ノ業務ヲ幫助セシメムトスルトキハ其ノ族籍、住所、氏名ヲ記シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 前條代書業ニ關スル補助者ノ行爲ニ就テハ使用者タル本人其ノ責ニ任スヘシ
但シ補助者ノ使用ヲ罷メ又ハ其ノ住所名氏ヲ變更シタルトキハ其ノ使用者ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第六條 代書業者ハ左記雛形ノ看板ヲ業務所及出張所ノ門戸ニ掲クヘシ

八	尺
寸	〇
第	代書業
號	氏名
住	所
所	氏名
氏	名
名	

第七條 代書料ノ定率ハ字數及行數ニ依リ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ代書料ノ定率ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第八條 代書料ハ業務所又ハ出張所ノ賭場キ場所ニ揭示スヘシ

第九條 代書業者ハ代書事件簿ヲ調製シ代書シタル文書ノ要領、年月日、紙數代書料委託者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

前項ノ代書事件簿ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ破棄スルコトヲ得ス

第十條 代書業者ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
一 訴訟ノ勸誘、鑑定又ハ紹介ヲ爲シ其ノ他法令ノ規定ニ依リ特ニ權能ヲ有スル場合ノ外他人ノ紛議ニ干與スルコト

二 名義ノ如何ヲ問ハス許可ヲ受ケタル代書料ノ外報酬ヲ請求シ又ハ之ヲ受クルコト

三 代書委託者ノ印形又ハ其ノ署名又ハ檢印若ハ捺印シタル白紙ヲ預ルコト

四 同一事件ニ就キ當事者雙方ノ委託ヲ受ケ代書スルコト

五 受託事件ニ關シ事實ノ虛構ヲ教唆シ若ハ委託ニ反スル代書ヲ爲スコト

六 他人ヲシテ代書ノ業務ヲ取扱ハシムルコト

七 業務所又ハ出張所ニ他人ノ訴訟事務取扱ノ場所ニ供シ若ハ他人ノ訴訟事務取扱所内ニ業務所又ハ出張所ヲ設クルコト

八 業務所又ハ出張所外ニ於テ業務ヲ取扱フコト

九 正當ノ理由ナクシテ代書ノ委託ヲ拒ミ又ハ文書圖面ノ作製ヲ遅延スルコト

第十一條 代書業者ハ其ノ代書シタル文書ノ末尾又ハ欄外ニ署名捺印スヘシ但シ他ノ法令ニ於テ別ニ書式ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 警察官吏ハ代書事件簿ノ檢閲ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條 代書業者本令ニ違背シ又ハ不正ノ所業アリト認ムルトキハ所轄警察官署ハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條 前條ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ代書業ヲ爲シ又ハ本令ノ規定ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

本令施行ノ際現ニ代書業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本令ノ手續ヲ爲スヘシ
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●代書業取締規則取扱手續

(明治四十一年十二月二十四日) (民政部)
訓令第四百二十四號

代書業取締規則取扱手續

代書業取締規則取扱手續

第一條 規則第二條ニ依リ代書業ヲ許可シタルトキハ別記第一號様式ノ許可書ヲ交付シ第二號様式ノ草帳ニ記入スヘシ

規則第四條ニ依リ業務補助者ヲ許可シタルトキ亦同シ

第二條 規則第九條ノ代書事件簿ハ別紙第三號様式ニ依リ調製セシメ使用前表紙ノ裏面ニ紙數ヲ記シ檢印スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式)

第二號様式(用紙鳥ノ子)

第 號

住本 所籍

姓 名

生年月日

代書人許可證

明治 年 月 日 付

官署 名 圖

寸 四

願書
契印
スト
ヘシ

五 寸

第二號様式(代書業草帳)用紙美濃紙

者助幫		經 歴	年許	年廢	年許	許 可 番 號
年氏	住本		月 可	月 業	月 可	
齡名	所籍		日 消	日 業	日 可	第 號
			明 治	明 治	明 治	
			年 月 日	年 月 日	年 月 日	
異日解	年許	考 備	張又業	年 氏	住 本	本 籍
助其職	月 可					
他年ノ	日 可		出 所			

●銃砲火藥取締法 (明治三十九年八月二十七日 關東總督府令第十六號)

當府管内銃砲火藥取締法左ノ通定ム

關東總督府管内銃砲火藥取締法

第一條 銃砲火藥(彈藥、火藥、其他)ハ民政署又ハ民政支署ノ免許ヲ經ルニ非ラサレハ之レカ輸入、製造、販賣、貯藏、若クハ所有ヲ爲スコトヲ得ス但シ廢品ト認ムヘキ遺棄兵器及日本人又ハ外國人(支那人)ニシテ護身ノ爲メニ所持スル銃器彈藥ハ此ノ限リニアラス

第二條 支那人ニシテ現ニ銃砲火藥ヲ所有スル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ民政署又ハ民政支署ニ願出テ免許ヲ受クヘシ

第三條 本令ニ違フ者ハ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其物件ヲ沒收ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●銃器彈藥取扱規程 (明治四十年九月二十九日 關令第八十八號) (民政部、民政署、警務署)

銃器彈藥取扱規程左ノ通相定ム

銃器彈藥取扱規程

第一條 銃器彈藥ノ取扱ハ總テ此ノ規程ニ依ル

第二條 銃器彈藥ハ左ノ官署ニ配備ス (四二、訓六四號改正)

- 一 民政部
- 二 監獄署

三 民政署及民政支署

四 警務署

第三條 配備シタル銃器彈藥ノ出納ハ課署長其ノ責ニ任ス

第四條 第二條ノ官署長ハ物品會計官吏ノ下ニ銃器彈藥取扱主任ヲ置キ物品會計官吏ノ指揮ヲ受ケ銃器彈藥ノ出納保管及修理ノ事務ヲ掌ラシムヘシ

第五條 警察官吏教習所又ハ警務支署ニ必要アル場合ハ民政部又ハ警務署ヨリ更ニ配備スルコトヲ得 (四二、訓六四號改正)

非常豫防ノ爲必要アル場合ハ部下ノ官吏並會勇又ハ團練壯丁ニ携帶セシムルコトヲ得但シ會勇又ハ團練壯丁ニ携帶セシムル場合ハ其ノ會長又ハ村長ニ貸與スルモノトス

第六條 彈藥ハ一人三十發ヲ標準トシテ貸與スルモノトス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニアラス

第七條 貸與シタル銃器彈藥ヲ被貸與者ニ於テ亡失毀損又ハ發射シタルトキハ貸與官署ニ其ノ事由ヲ具シ修理又ハ補充ヲ求ムヘシ

第八條 銃器ノ小破ニ係ルモノハ第二條ノ官署長ニ於テ直ニ修理ヲ加ヘ大破ニ係ルモノハ民政部ニ返納スヘシ

第九條 發射シタル彈藥ノ藥莖ハ洗滌ノ上之ヲ返納セシムヘシ其ノ亡失ニ係ルモノハ第十三條第十四條ニ依ル

第十條 貸與セサル銃器彈藥ハ危險ノ虞ナキ場所ニ藏置シ毎月一回以上手入ヲ爲スヘシ

第十一條 貸與シタル銃器ハ絶ヘス手入ヲナスヘシ若シ雨露其ノ他水氣ニ觸レタル場合ハ損傷ヲ防止スル爲メ銃身ト銃床トヲ分離シテ各手入ヲ爲シ革具ハ日陰ニ於テ之ヲ乾シ革油又ハ鯨油ヲ塗布スヘシ

第十二條 第二條ノ官署間ニ於テ銃器彈藥ノ讓受ヲ了シタルトキハ直ニ其ノ種類員數ヲ記シ雙方ノ官署長ヨ

備考	三十年式步兵銃	彈倉發條	擊莖發條	擊莖	擊莖駐螺	蹴子	駐筒子	豫備器囊	油壺	彈藥盒帶革	彈負藥盒付
右報告候也											
明治											
年											
月											
日											

銃器彈藥取扱規程第十三條ニ依ル辨償價格 (明治四十一年二月七日) (民政部、民政署、警務部、警務支署)

明治四十年九月訓令第八十八號銃器彈藥取扱規程第十三條ニ依ル辨償價格左ノ通相定ム

銃器及附屬品辨償價格表
三十年式步兵銃

銃 槊 銃洗 掃 轉 負 豫 駐 蹴 擊 擊 擊 彈

杖 蓋 管 器 器 革 囊 子 子 螺 莖 莖 莖 倉 發 條

價 格
二二・六九〇
一〇・五〇〇
一四〇〇
〇八〇〇
〇四〇〇
一五〇〇
六〇〇〇
〇五〇〇
一〇〇〇
一一〇〇
一一〇〇
二五〇〇
〇六〇〇
〇八〇〇

實 包 〇四〇

三十年式騎銃

價 格

品 目

二・五〇〇

彈 藥 盒 帶 革

二〇〇

油 壺

一四〇

露國小銃

〇四〇

實 包 〇四〇

●關東州租借地稅關兵器彈藥輸入規則 (第九類六) (章三收ム)

●消防組規則 (明治四十二年九月二日) (府令第十一號)

消防組規則左ノ通定ム

消防組規則

第一條 民政署長ハ火災警戒防禦ノ爲必要ト認ムルトキハ消防組ヲ設置スルコトヲ得

第二條 消防組ノ設置區域ハ民政署長之ヲ定ム

第三條 消防組ハ頭取一人小頭及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

民政署長ハ前項ノ外必要ニ應シ機關手及調馬手ヲ置クコトヲ得

第四條 頭取ハ警察官吏ノ命ヲ承ケ小頭以下ノ指揮取締ニ任シ庶務ヲ掌理ス

小頭ハ頭取ヲ補佐シ頭取差支アルトキハ小頭中高級故參ノ者其ノ職務ヲ代理ス

第五條 消防組員ハ民政署長之ヲ命免ス

第六條 消防組員ハ左ノ各號ニ適合スル者ヨリ之ヲ採用ス

一 消防組設置區域内ニ居住スル者

二 年齡十八歲以上ニシテ身體強壯ナル者

三 平素ノ行爲粗暴ナラサル者

四 禁錮以上ノ刑ヲ受ケタルコトナキ者

第七條 消防組ハ火災警防ノ場合、民政署長ニ於テ儀式訓練其ノ他特ニ命シタル場合又ハ民政署長ノ許可ヲ

受ケタル場合ノ外集合又ハ運動スルコトヲ得ス

第八條 民政署長ハ必要アリト認ムルトキハ消防組ヲシテ其ノ區域以外ニ於ケル火災ノ消防ニ應援セシムル

コトヲ得

第九條 消防組員ハ消防又ハ警戒等ノ爲出場シタルトキハ警察官吏ノ點檢ヲ受ケタル後ニ非サレハ解散スル

コトヲ得ス

第十條 消防組員ハ如何ナル場合ト雖警察官吏ノ指揮アルニ非サレハ建造物ノ破壊又ハ栽植物ヲ截折スルコ

トヲ得ス

第十一條 民政署長ハ消防組ノ舉動治安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ解散ヲ命スルコトヲ得

第十二條 出火、鎮火又ハ演習召集ノ場合ニ於ケル警報ハ民政署長之ヲ定ム

第十三條 民政署長ハ消防組員ニ對シ第一表ニ掲ケル月給ヲ支給スルコトヲ得

第十四條 民政署長必要アリト認ムルトキハ小頭以下ノ者若干人ヲ消防專務員ト爲スコトヲ得

消防專務員ニ對シテハ月額金三十五圓以内ノ日給ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ給料ヲ受クル者働働シタルトキハ日割ヲ以テ其ノ給額ヲ減ス但シ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 民政署長ハ消防組員消防ノ爲出場シ又ハ警戒若ハ演習等ニ從事シタルトキハ第二表ニ掲クル出場手當ヲ給與スルコトヲ得但シ第十四條ノ給與ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 消防組員ニ貸與スヘキ被服ノ品目、員數及保存期限等ハ民政署長之ヲ定ム

第十七條 消防組員職務ノ爲死歿シタルトキハ第三表ノ祭祀料及遺族扶助料ヲ給シ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ退職シタルトキハ第三表ノ退職給助料及其ノ治療費ヲ給與ス其ノ退職ニ至ラサル者ニ對シテハ第三表ノ休業手當放其ノ治療費ヲ給與ス

第十八條 祭祀料及遺族扶助料ハ遺族ノ請求ニ依リ之ヲ給與ス但シ祭祀料ハ遺族ニ非サルモ死者ノ爲祭祀ヲ行フ者ニ給與スルコトアルヘシ

第十九條 休業手當ハ休業日數ニ應シ之ヲ給與ス但シ消防事務員ニハ之ヲ給セス

第二十條 祭祀料、遺族扶助料、退職給助料ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ事實ヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添へ所轄民政署長ヲ經山シ關東都督ニ請求シ休業手當ハ所轄民政署長ニ之ヲ請求スヘシ

第二十一條 民政署長ハ消防組員ニシテ職務上功勞特ニ顯著ナル者ニ適宜金品ヲ賞與シ又ハ賞狀ヲ授與スルコトヲ得

第二十二條 民政署長ハ消防組員ニシテ法規又ハ指揮命令ニ違反シ若ハ怠慢過失ノ行爲アリタルトキハ其ノ情狀ニ依リ免職又ハ懲戒ノ懲戒處分ヲ行フコトヲ得

第二十三條 懲戒ニ因リ免職セラレタル者ハ一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ消防組員ニ採用スルコトヲ得ス

第二十四條 民政署長ハ頭取ヲシテ消防組ニ必要ナル簿冊ヲ備ヘシムヘシ

第二十五條 民政署長ハ關東都督ノ認可ヲ受ケ本令ノ施行ニ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一表

頭取	小	頭	消防手、機關手、調馬手
金 二十圓 以內	金 十二圓 以內	金 三圓 以內	

第二表

職名	消 防 出 場			手 當
	二時間以內	四時間以內	六時間以內	
頭取	一圓以內	二圓以內	三圓以內	十二時間以內 一晝夜
小頭	七十錢以內	一圓五十錢以內	二圓以內	一晝夜 當一日又ハ一夜
消防機關手	五十錢以內	一圓以內	一圓五十錢以內	
調馬手			二圓以內	三圓以內
			七十錢以內	

第三表

職名	祭祀料	遺族扶助料	休業手當日額	退職給助料
頭取	金 五十圓 以內	金 三百圓 以內	金 一圓 以內	金 三百圓 以內
小頭	金 三十圓 以內	金 二百圓 以內	金 八十錢 以內	金 二百圓 以內

消機調
防關馬
手手

金二十四以内

金百五十圓以内

金五十錢以内

金百五十圓以内

警察犯處罰令

(明治四十一年十月一日 府令第五十八號)

警察犯處罰令左ノ通相定ム

左ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 警察取締上ノ制止ヲ背セタル者
- 二 正當ノ理由ナクシテ官署ノ召喚ニ應セタル者
- 三 水火其ノ他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキ求メヲ受ケ之ニ應セタル者
- 四 許可ヲ受ケスシテ左ノ行爲ヲナシタル者
 - 一 工場、湯屋、其ノ他營業ノ用ニ供スル蒸汽、器械、煙筒火竈ヲ建設修理シタル者
 - 一 劇場其ノ他ノ觀物場ヲ開キタル者
 - 一 煙火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
 - 一 火藥類ヲ運搬シタル者
- 五 濫リニ人家稠密ノ場所ニ於テ煙火其ノ他ノ火器ヲ玩ヒタル者
- 六 濫リニ人家ノ近傍又ハ山林原野ニ於テ火ヲ焚ク者
- 七 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セムトスル家屋其ノ他ノ建造物ノ修理ヲ爲ササル者
- 八 官署ノ命令ヲ受ケテ煙筒ノ掃除ヲ爲ササル者
- 九 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

- 十 妄リニ吉兇禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒ヲ爲シ利ヲ圖ル者
- 十一 人ノ看守セサル建造物内ニ潜伏シタル者
- 十二 物品ヲ強賣シ又ハ強テ技藝ヲ演シテ報酬ヲ求ムル者
- 十三 許可ヲ受ケスシテ金錢物品ノ寄附惠與ヲ勸誘募集スル者
- 十四 購讀申込ミナキ出版物ヲ配布シ又ハ掲載ノ申込ミナキ廣告ヲ掲載シテ其ノ代價ヲ要求シ又ハ強テ廣告ノ依頼ヲ要求シタル者
- 十五 祠廟佛堂其ノ他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 十六 一定ノ生業ナク諸方ニ徘徊スル者
- 十七 宿屋、下宿屋ニ於テ氏名ヲ詐稱シタル者
- 十八 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十九 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ制止ヲ背セタル者
- 二十 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
- 二十一 市街又ハ曠見シ得ヘキ場所ニ於テ醜體ヲ露ハシタル者
- 二十二 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合容止ヲナシタル者
- 二十三 道路ニ於テ車馬ノ練習若ハ遊戯ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 二十四 許可ヲ受ケスシテ道路ニ露店又ハ小屋掛ヲ爲シタル者
- 二十五 諸車、商品其ノ他ノ物件ヲ横タヘ通行ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二十六 交通ノ妨害トナルヘキ井溝凹所又ハ木石其ノ他ノ堆積物ニ防圍ヲ設ケヌ又ハ夜間點燈ヲ爲ササル者
- 二十七 犬其ノ他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメタル者

- 二十八 濫リニ鐵道線路ヲ通行シタル者
- 二十九 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 三十 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三十一 瓦礫ヲ道路、家屋、汽車、圍圍ニ投擲シタル者
- 三十二 制止ヲ肯セシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽入レタル者
- 三十三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ使用シタル者
- 三十四 人道ニ車馬ヲ牽入レタル者
- 三十五 濫リニ街燈ヲ消シタル者
- 三十六 通行禁止其ノ他榜示ノ禁條ヲ犯シタル者
- 三十七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 三十八 許可ヲ受ケヌシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 三十九 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官ニ申告セヌ又ハ他所ニ移シタル者
- 四十 許可ヲ受ケヌシテ死屍ヲ埋葬シ又ハ改葬シタル者
- 四十一 濫リニ瓦礫、塵芥、汚物又ハ禽獸死屍ヲ投棄シタル者
- 四十二 飲用ヲ禁シタル水ヲ飲料ニ販賣シタル者
- 四十三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四十四 市街ニ於テ便所外ニ尿管ヲ爲シタル者又ハ爲サシメタル者
- 四十五 官署ノ督促ヲ受ケ掃除ヲ爲ササル者
- 四十六 他人ノ繫キタル牛馬其ノ他ノ獸類若クハ船舶ヲ解放シタル者
- 四十七 電柱、橋梁、掲示場、樹木、圍柵、其ノ他公共用ノ建造物ニ牛馬ヲ繫キタル者

- 四十八 禁示標、境界標、指導標及看板、標札、廣告札等ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 四十九 渡船、橋梁、其ノ他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍政署違警罪目ハ之ヲ廢止ス

●拘留科料處分規則 (明治四十年四月二十七日 府令第二十五號)

拘留科料處分規則左ノ通相定ム

拘留科料處分規則

- 第一條 民政署長、民政支署長、警務署長、警務支署長又ハ其ノ代理タル官吏ハ其ノ所轄内ニ於テ拘留科料ニ該當スル所爲アル者ニ對シ其ノ處分ヲ爲スヘシ
- 第二條 拘留科料ノ處分ハ本人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ其ノ言渡ヲ爲スヘシ但シ本人ヲ呼出ス必要ナシト認ムルトキ又ハ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人若ハ其ノ住所ニ送達スルコトヲ得
- 第三條 處分言渡書ニハ本人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所違犯ノ事實ニ適用シタル法條及言渡タル拘留又ハ科料並言渡ヲ爲シタル官署、年月日、官氏名ヲ記載シ所屬官署ノ印ヲ押捺スヘシ
- 第四條 處分言渡ヲ受タル者ハ其ノ言渡アリタル日又ハ言渡書謄本ノ送達アリタル日ヨリ三日以内ニ其ノ言渡ヲ爲シタル官署ヲ經由シ關東都督ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得但シ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ハ一日ヲ一圓ニ計算シタル金額科料ノ言渡ヲ受ケタル者ハ科料金ニ該當スル金額ヲ保證トシテ其ノ官署ニ供託スルコトヲ要ス
- 第五條 處分言渡ヲ爲シタル官署ニ於テ不服申立ヲ受ケタルトキハ前條ノ期間ヲ經過シタルモノハ之ヲ却下

シ其ノ期間内ニ係ルモノハ意見ヲ付シ關係記録ト共ニ速ニ關東都督ニ進達スヘシ
第六條 關東都督ハ不服申立カ理由ナシト認ムルトキハ其ノ申立ヲ却下シ理由アリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ其ノ變更ノ言渡ヲ爲スヘシ

前項ノ取調ニ必要ト認ムルトキハ本人又ハ關係人ヲ喚問スルコトアルヘシ

第七條 前條ノ不服ノ申立アリタルトキハ其ノ處分ノ執行ヲ停止ス

第八條 拘留處分ノ執行ハ之ヲ強制ス但シ一日ヲ一圓ニ折算シ保證金ヲ以テ之ニ換フルコトヲ得
科料處分ヲ受ケ完納セザルトキハ保證金ヲ以テ之ニ換ヘ若ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ留置ス其ノ一圓ニ充テサルトキト雖一日ニ計算ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●犯罪特報規程 (明治四十一年一月十五日) (民政部、警務署)

犯罪特報規程左ノ通相定ム

犯罪特報規程

第一條 本規程ニ於テ特報スヘキ事故左ノ如シ但シ別ニ報告ノ規定アル事項ハ該規定ニ依ルヘシ

一 謀殺、放火、強盜其ノ他ノ重罪

二 竊盜、詐欺取財等贓額百圓以上ノ犯罪

三 前三項ノ外公衆ノ耳目ヲ惹クヘキ重要ナル犯罪

四 以上各號ノ犯人ヲ逮捕シタルトキ

第二條 特報ハ事件ノ大小緩急ニ依リ、電信、熊夫、郵便等ノ別アリト雖總テ速達ニ勉ムヘシ

第三條 特報事件ニシテ被告人ノ捜査上秘密ヲ要スルモノハ暗號電報又ハ親展トスヘシ

第四條 報告書ノ宛名ハ都督名トスヘキモ封皮ハ特ニ警務課長名トスヘシ但シ電報報告ノ場合ハ警務課長宛發電スヘシ

前項親展書ノ封皮ニハ犯罪特報ノ四字ヲ朱記スヘシ

第五條 特報ハ民政部警務課並民政部同支署及警務署同支署又ハ發見上必要ト認メタル内地府縣ニ通報スヘシ但シ重要ナル犯罪ニシテ直ニ逮捕シタル時ト雖特ニ民政部警務課ヘ通報スヘシ

第六條 民政部警務課ニハ前條ノ特報後更ニ詳細ナル報告ヲ爲スヘシ

第七條 民政署同支署及警務署同支署ヨリ所轄警察官吏派出所ニ、又派出所ヨリ所屬署ニ通報スヘキ手續ハ本規程ニ準據スヘシ

第八條 第一條第一號乃至第三號ノ報告ハ別紙甲號書式ニ第四號報告ハ乙號書式ニ依ルヘシ

(甲號書式)

明治 月 日 年	何々犯罪特報	署 名
被害者及被告人ノ氏名、 年齢若シ知レサル時ハ 其ノ旨		
犯罪年月日時		
犯罪ノ場所		

考 備	犯罪事實ノ概要
	犯罪者又ハ嫌疑者ノ住所氏名年齢相貌
被害金品價格	
右及特報候也	
都 督 宛	官 氏 名

- (乙號書式)
- 一 第一欄ニ記入スヘキ年齢ハ必要アルモノニ限り記入スヘシ
 - 一 第二欄ノ日時ヲ確知シ得サルトキハ見込ヲ記入シ其ノ旨附記スヘシ
 - 一 被害品ハ其ノ種類員數ヲ記入シ殺傷ニ係ル創傷ノ模様等ハ第四欄ニ記入スヘシ
 - 一 種別ノ各欄ニ記入シ難キモノ及事實ノ參考トナルヘキモノハ備考欄ニ記入スヘシ

明治 月 日 年	何々犯罪逮捕特報	署 名
犯罪特報ノ年月日 又ハ通知ノ年月日		
逮捕ノ年月日 時 場 所		
被告ノ住所 氏 名 年 齡		
被害者ノ住所 氏 名		
逮捕ノ理由		
未逮捕氏名 者ノ氏名		
考 備		
右及特報候也		

官 氏 名

都 督 宛

- 一 第一欄ニハ犯罪特報ヲ發セシ署名ヲ明記スヘシ
- 一 種別ノ各欄ニ記入シ難キモノ及事實參考トナルヘキモノハ備考欄ニ記入スヘシ

官 氏 名

都 督 宛

- 第一欄ニハ犯罪特報ヲ發セシ署名ヲ明記スヘシ
- 種別ノ各欄ニ記入シ難キモノ及事實參考トナルヘキモノハ備考欄ニ記入スヘシ

第七類 衛生

第七類 衛生

第一章 保健

●塵芥掃除規則 (明治三十九年二月七日 醫令第四號)

塵芥掃除規則左ノ通相定ム

塵芥掃除規則

第一條 邸宅及其ノ地先道路ハ常ニ清潔ニ保持シ塵芥ヲ散亂セシムヘカラス

降雪ノ際ハ其ノ都度之ヲ掃除シ交通ノ妨害ト爲ラサル場所ニ集積シ置クヘシ

第二條 邸宅及其地先道路ノ塵芥ヲ掃除セントスル場合ニ於テ地面乾燥シ土砂飛揚ノ虞アルトキハ適量ノ撒水ヲ爲シタル後ニ之ヲ行フヘシ

第三條 各戸又ハ數戸協同シ別記圖式ニ據リ構造セル塵芥箱ヲ設備スヘシ

塵芥ハ塵芥箱以外ニ之ヲ投棄スヘカラス

第四條 本令ノ規定ニ依ル責任者ハ居住者アル邸宅ニ在リテハ居住者又居住者ナキ邸宅ニ在リテハ其ノ管理
者トス

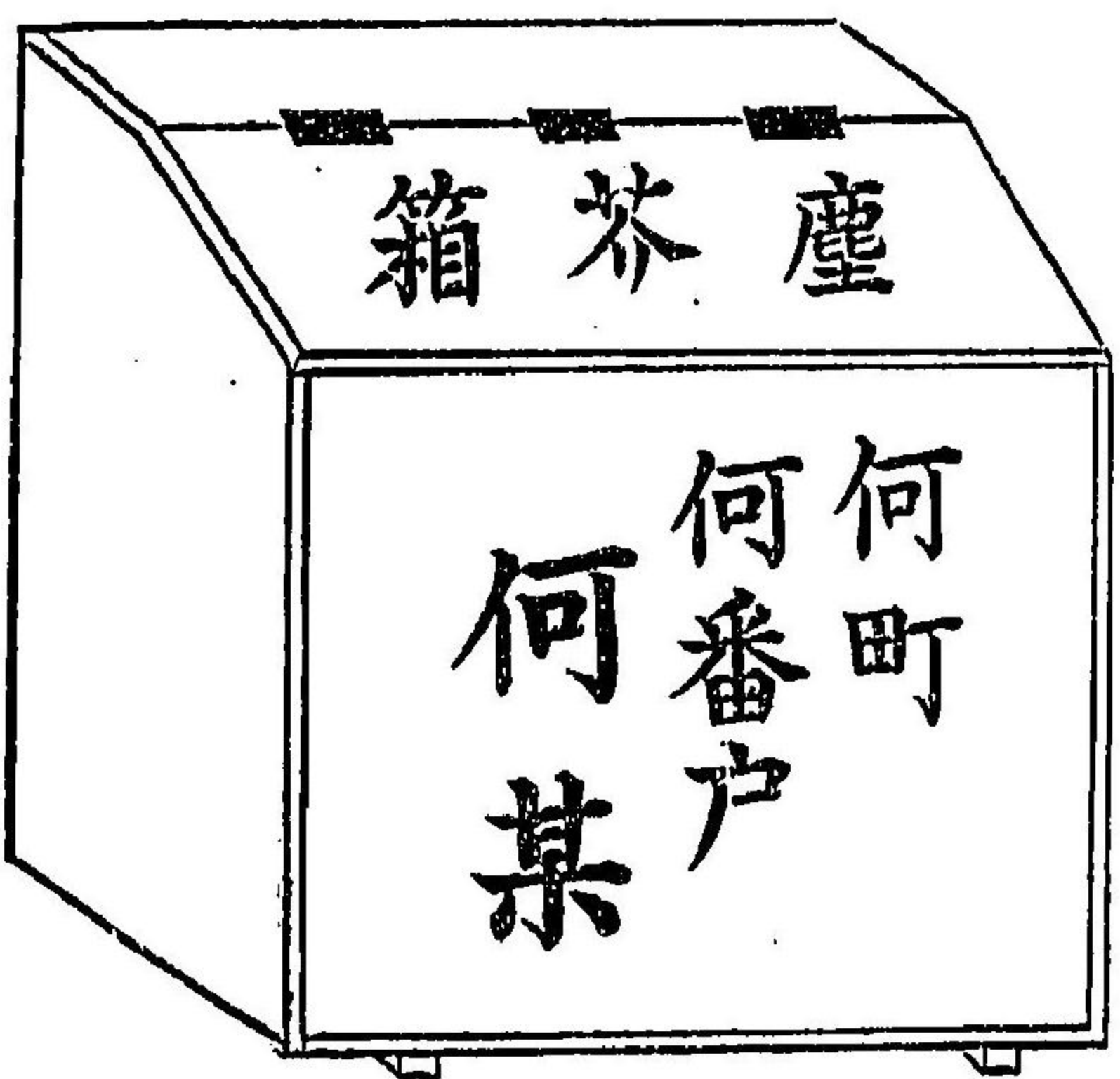
第五條 本令ハ大連、旅順、金州、柳樹屯、貔子窩ノ市街地ニ之ヲ適用ス

第六條 本令ニ違フ者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第七條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第八條 本令ニ規定セル塵芥箱ハ明治三十九年三月三十一日迄ニ之ヲ設備スヘシ但シ既設ノ塵芥箱ニシテ本署又ハ支署ノ認可ヲ得タルモノハ明治三十九年六月三十日迄之ヲ代用スルコトヲ得
(別記圖式)



- 一 約二日間ニ生スル塵芥ヲ容ルルニ足ルヘキ大サタルヲ要ス但シ小ナルモ曲尺長サ二尺五寸幅一尺三寸高サ二尺板ノ厚サ七分以下ナルヲ得ス
- 一 内外トモ黒ペンキ又ハコールター塗トシ塵芥箱、町名、番戸、氏名ハ白ペンキニテ成ルヘク大書スヘシ

●汚物掃除規則

第一條 掃除ヲ要スル汚物ハ左ノ三種類トス

- 一 尿
- 一 下水
- 一 塵 芥

第二條 以上汚物ノ掃除ハ請負人ヲシテ之ヲ實行セシム

第三條 大小便ハ毎朝未明一回之ヲ搬出シ指定ノ場所ニ運搬ス

第四條 下水竝ニ塵芥ハ毎朝一回之ヲ搬出ス

第五條 汚物ヲ溜メ置ク爲メ適當ノ裝置ヲ爲スハ各家主ノ責務タルヘシ假令下水溜塵溜大小便ノ裝置ナク猥

リニ堆積若クハ散布シアル汚物ハ請負人之ヲ掃除スルノ義務ナシ

第六條 掃除人ハ汚物ヲ取リタル後ニ石灰ヲ撒布スヘシ

第七條 各家ノ便所ニハ大便ト小便トニ對スル別々ニ裝置アルヲ要ス又大小便ト下水トヲ一所ニ溜メサル様ニスヘシ

第八條 各家ノ下水溜ニハ可成塵芥ノ混入ヲ防ク様處置スルヲ要ス

第九條 塵芥箱ハ必ス各家ノ戸口前ニ置キ街上ノ掃溜モ亦之ニ投シ置ケハ請負人毎日一回之ヲ搬出ス

第十條 共同便所ハ毎日若クハ夜間ニ一回之ヲ搬出ス共同便所ニ撒布スル消毒材料ハ量ヲ定メテ軍政署ヨリ之ヲ支給ス

第十一條 軍政署ヨリ指定セラレタル場所ニ糞貯藏所ヲ置キ以テ附近農家ノ需用ニ應スルコトヲ得

第十二條 塵芥ハ之ヲ軍政署ヨリ指定セラレタル塵芥捨場ニ運搬シ之ヲ燒棄スルモノトス

- 第十三條 下水及尿ハ軍政署ヨリ指定セラレタル海岸ニ運搬シテ海中ニ投棄ス此ノ下水捨場ノ裝置ハ別ニ指定ヲ仰クヘシ
- 第十四條 大小便竝ニ下水ハ密閉シ不浸透性トナシタル木製ノ箱ヲ裝置シタル馬車ニテ運搬ス
- 第十五條 塵芥運搬ノ爲メニハ有蓋ノ箱若クハ無蓋ナレハ麻布ヲ覆ヒ風ニ吹飛ハサル様ニシテ運搬スルモノトス
- 第十六條 汚物運搬用ノ箱及車ハ毎日一回洗滌シテ常ニ清潔ニ保存スルモノトス
- 第十七條 馬匹車輛ノ置場竝ニ掃除人夫ノ宿舍ハ市街附近ノ地ニ之ヲ定ム
- 第十八條 請負人ハ市街便宜ノ位置ニ事務所ヲ設ケ掃除不行届ノ通知ヲ受ケ次第迅速ニ人夫ヲ派遣スルモノトス
- 第十九條 請負人ハ掃除不行届ノ通知ニ接シタルヨリ遅クモ十二時間内ニ必ス掃除シ終ルヲ要ス
- 第二十條 請負人ハ各家便所下水溜ノ裝置不完全又ハ定マリタル戸主ナキ家等其他衛生上ノ欠缺ヲ發見シタルトキハ猶豫ナク之ヲ軍政署ニ報告スヘシ
- 第二十一條 市中ニ斃死シタル家畜アル場合ニハ其家畜主若クハ軍政署ノ要求ニ依リ請負人之ヲ家畜埋葬處ニ運搬埋葬ス可シ
- 第二十二條 市街道路掃除ノ爲メ若干ノ人夫ヲ要スルトキハ請負人之ヲ供用シ相當ノ日給ヲ請求スルヲ得ルモノトス
- 第二十三條 市街道路ノ撒水用トシテ請負人ハ別ニ若干ノ車輛ヲ設備シ毎日指定セラレタル道路ニ回数ヲ定メテ撒水スヘシ

●旅順及大連水道給水規則 (第十二類 第一章 散水)

●旅順及大連水道公設共用栓規則 (同上)

●關東州下水規則 (同上)

●下水規則施行地域 (同上)

●衛生組合規則 (明治四十年二月八日 府令第九號)

衛生組合規則左ノ通相定ム

衛生組合規則

- 第一條 民政署長ハ汚物ノ掃除及清潔方法消毒方法其ノ他傳染病豫防救治ニ關スル方法施行ノ爲必要ト認メタルトキハ區域ヲ定メ衛生組合ヲ設クルコトヲ得
- 衛生組合ハ規約ヲ設ケ前項ノ事務ヲ施行ス
- 第二條 民政署長ノ指定シタル區域内ノ居住者ハ當然衛生組合員トス
- 第三條 衛生組合ノ經費ハ其ノ組合ノ負擔トス
- 經費ノ收支方法ハ組合之ヲ定メ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 衛生組合規約ハ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 衛生組合ニハ組合長一名副組合長二名ヲ置クヘシ
- 前項ノ外衛生組合ニハ衛生上ノ技能アル顧問一名ヲ置クコトヲ得
- 第六條 組合長ハ組合ヲ代表シ規約ニ基キ其ノ事務ヲ掌理ス
- 第七條 副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
- 第八條 土地ノ狀況ニ依リ一衛生組合ノ地區ヲ小區域ニ區別スルノ必要アルトキハ各區ニ衛生委員及副衛生

委員各一名若ハ衛生委員二名ヲ置キ其ノ區域内ニ於ケル衛生事務ヲ補佐セシムルコトヲ得(四一府一號改正)
第九條 前條小區域多數ナルトキハ衛生委員中ヨリ十名以上十五名以内ノ常議員ヲ置キ事業ノ視察及急施事項ヲ議セシムルコトヲ得(同上)

第十條 衛生組長副組長ハ衛生委員、副衛生委員ノ豫選ニ依リ民政署長之ヲ命ス(同上)

第十一條 顧問ハ衛生組長ノ推薦ニ依リ民政署長之ヲ命ス(同上)

第十二條 衛生委員副衛生委員常議員ハ民政署長之ヲ選任ス但シ衛生委員副衛生委員ハ其ノ區域内居住ノ組合員ヲシテ選舉セシメ常議員ハ衛生委員ヲシテ互選セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當選者ハ衛生組長ヨリ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ(同上)

第十三條 衛生組長副組長顧問衛生委員副衛生委員常議員ノ任期ハ一箇年トス(同上)

第十四條 本則施行ノ爲必要ナル規程ハ民政署長之ヲ定ム

●中央試験所試験規程(第八類二)(章ニ收ム)

●中央試験所ノ保證又ハ試験濟等ノ文字記入ニ關スル件(同上)

●賣肉取締規則(明治三十九年二月九日)(警令第五號)

賣肉取締規則左ノ通相定ム

賣肉取締規則

第一條 食用ニ供スル牛馬羊豚ノ肉ハ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ檢印アルモノニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス
野獸ハ狩獵捕獲ノモノニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 獸肉ヲ販賣セントスル者ハ族籍、住所、氏名、賣肉區別(牛馬羊豚野獸)ヲ記シ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ廢業、轉居、改氏名若ハ賣肉ノ種類ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ヘシ
第三條 馬肉販賣業ト他ノ獸肉販賣業トハ兼業スルコトヲ得ス
第四條 獸肉販賣業者ハ店頭ニ左ノ看板ヲ掲クヘシ
曲尺三尺

寸八尺曲
牛(馬羊豚野獸)肉販賣營業
住 所
氏 名

第五條 獸肉販賣業者ニ於テ獸肉配達人ヲ使用スルトキハ左ノ標札ヲ携帯セシムヘシ
曲尺三寸

表 寸二尺曲
獸肉配達人
氏 名
裏
牛(馬羊豚野獸)肉販賣業者
住 所
氏 名

第六條 獸肉置場ハ洗滌シ易キ様下部ハ不透透質ノ材料ヲ以テ築造シ周圍ハペンキ塗ト爲シ空氣ノ流通シ易

キ様四方ニ窓ヲ設ケ之ヲ金網張ト爲シ蚊蠅ノ侵入ヲ防クヘシ

第七條 獸肉ハ清潔ノ麻布若ハ綿布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第八條 獸肉ノ運搬ハ蓋付ノ容器ヲ用ヒ其ノ下部ニ血受ヲ備フヘシ

第九條 獸肉置場使用器具竝運搬容器ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第十條 腐敗シタル獸肉又ハ諸獸ノ肉ヲ混合シ或ハ獸名ヲ詐稱シテ販賣スルコトヲ得ス

第十一條 當該官吏ハ臨時獸肉ヲ検査シ不良ト認ムルトキハ販賣ヲ禁止シ又廢棄セシムルコトヲ得

第十二條 本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ處分ヲ受ケタルモノニシテ其ノ情狀重キモノハ營業許可ヲ取消スコトアルヘシ

附則

本令ハ明治三十九年二月二十日ヨリ施行ス

●生河豚販賣及時藏禁止

(明治三十九年五月十七日 署令 第十九號)

生河豚ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏スルコトヲ得ス

生河豚ハ食用ニ供スルコトヲ得ス

本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●炭酸瓦斯中毒ニ關スル注意

(明治三十八年十一月二日 告諭 第一號)

防寒ノ爲室内ニ於テ多量ノ木炭ヲ燃焼シ炭酸瓦斯中毒ノ爲人事不省ニ陥リ甚タシキニ至リテハ一命ヲ失ヒタ

ル例抄カラス今ヤ五寒ノ候ニ向ヒ防寒ノ必要迫ルト雖モ塙壁障戸ヲ修理シ衣服被具ニ意ヲ用ヒ適宜ノ燃料ヲ使用シ且時々障戸ヲ開キ換氣法ヲ行ヒ室内ヲ密閉シテ多量ノ木炭ヲ燃焼スルカ如キ危險ヲ避クルヲ要ス然ニ就眠中ニ於テハ其ノ危險一層怖ルヘキモノアリ是等不測ノ禍害ヲ蒙ラサル様各自注意スヘシ

●炭酸瓦斯中毒ニ關スル再注意

(明治三十八年十二月十九日 告諭 第四號)

木炭ヲ用キ室内保温ノ場合ニ於ケル注意方ニ付テハ本年十一月一日告諭第一號ヲ以テ告諭ノ次第モ有之候處爾來尙炭酸瓦斯中毒ニ罹ル者頗々ニシテ危險抄カラサルヲ以テ此ノ際一層該告諭ノ趣旨ニ留意シ且置炭爐又ハ火鉢ヲ用キントスルトキハ先ツ室外ニ於テ充分木炭ヲ赤化セシメタル後ニ非サレハ室内ニ入レサル様各自注意スヘシ

●阿片販賣業及煙館營業稅規則

(第九類二 章ニ收ム)

●理髮營業者取締規則

(明治三十九年七月二十八日 署令 第二十四號)

理髮營業者取締規則左ノ通相定ム

理髮營業者取締規則

第一條 本則ニ於テ理髮營業ト稱スルハ頭髮鬚髭ヲ修剪シ又ハ頭髮ヲ結束スル營業ヲ云フ

第二條 理髮營業ヲ爲サムトスル者ハ本籍、住所、氏名、年齢及營業ノ場所ヲ記シ理髮料ノ價格ヲ定メ本署

又ハ支署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第三條 二箇所以上ノ營業場ヲ設ケムトスルトキハ管理人ヲ定メ其ノ本籍、住所、氏名、年齢及營業ノ場所

ヲ記シ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

- 第四條 營業場ハ光線ノ射入空氣ノ流通ヲ宜シクシ地盤ハ漆喰敷キ又ハ石、煉瓦、厚板ヲ以テ布設スヘシ但シ女髪結營業場ニ對シテハ地盤ノ制限ヲ適用セス
- 第五條 營業場ハ開業前ニ當該官吏ノ臨檢ヲ受クルニアラサレハ營業ニ使用スルコトヲ得ス
- 第六條 營業場ニ於テ薪、石炭等ヲ燃焼セムトスル場合ハ屋外ニ通スル烟筒ヲ設クヘシ
- 第七條 營業場ヨリ流出スル汚水ハ不滲透質ノ溝渠ヲ以テ屋外ニ導キ不滲透質有蓋汚水溜ニ流入セシムヘシ
- 第八條 精神病、癩痢者又ハ傳染性ノ疾患アル者ハ業務ニ從事スルコトヲ得ス
- 第九條 就業中ハ身體及衣服ヲ清潔ニシ白上衣ヲ着用スヘシ
- 第十條 就業ハ一人ノ理髪ヲ終ル毎ニ石鹼ヲ以テ手ヲ洗滌シ使用シタル器具ハ石炭酸水石炭酸五分水九十四分鹽酸一分ヲ混シタルモノ
- 第十一條 常業場ニハ其ノ廣狹ニ應シ消毒藥液ヲ容レタル適當箇數ノ唾壺ヲ備フヘシ
- 第十二條 營業用ノ被服、被布、手拭、頸卷ノ類、營業用流シ場、椅子、手洗鉢其ノ他ノ器具ハ常ニ清潔ニスヘシ
- 第十三條 營業場ハ常ニ清潔ナラシメ剪除シタル毛髮ハ飛散セサル様一定ノ容器ニ收容スヘシ
- 第十四條 皮膚ニ疾患アル客ヲ理髪シタルトキハ第九條ニ掲クル消毒藥ヲ以テ其ノ都度被服、被布、手拭、頸卷ノ類ヲ消毒スヘシ
- 第十五條 本則第二條第三條ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ヘシ
- 第十六條 營業者ハ營業場内見易キ場所ニ理髪料ノ價格ヲ揭示スヘシ
- 第十七條 當該官吏ハ隨時營業場ニ臨檢スルコトアルヘシ
- 第十八條 當該官廳ハ營業場ノ設備不完全ト認ムルトキハ改築又ハ修繕ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十九條 本則第二條第二項ニ掲クル者ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任スヘシ

第二十條 本則第二條乃至第十六條ニ違背シ又ハ第十七條ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ第十八條ノ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ其ノ情狀重キ者ハ一定ノ期間營業ヲ停止シ若ハ營業許可ヲ取消スコトアルヘシ

附則

本則ハ明治三十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

娼妓健康診斷施行規則

(明治三十九年二月一日 警令第二二號)

娼妓健康診斷施行規則左ノ通相定ム

娼妓健康診斷施行規則

- 第一條 娼妓ハ本署又ハ支署ノ指定シタル日時場所ニ出頭シ検査醫ノ定期健康診斷ヲ受クヘシ
- 第二條 検査醫ニ於テ特ニ必要ト認ムル娼妓ニ對シテハ本署又ハ支署ノ指定シタル場所ニ出頭セシメ臨時健康診斷ヲ受ケシムルコトアルヘシ
- 第三條 傳染性疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シタル娼妓ハ本署又ハ支署ニ届出テ検査醫ノ臨時健康診斷ヲ受クヘシ
- 第四條 寄寓貸座敷ニ在ル者ハ休業中ト雖本則ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ
- 第五條 疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ健康診斷ヲ受クヘキ當日出頭スルコト能ハサルトキハ疾病ノ場合ニ在リテハ診斷其ノ他ノ場合ニ在リテハ其ノ事由書ヲ添ヘ即日検査所ニ届出ヘシ
- 第六條 検査醫ノ前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ往診スルコトアルヘシ
- 第六條 娼妓ハ受檢ノ都度本署又ハ支署ノ下付シタル受檢證書ニ検査醫ノ健康證印ヲ受クヘシ

第七條 傳染性疾患アリト認めラレタル者ハ直ニ本署又ハ支署ノ指定シタル病院ニ入院スヘシ但シ第五條ノ受檢者ニシテ直ニ入院スルコト能ハスト認めラレタル者ハ其ノ輕快ヲ俟テ入院スヘシ
前項ノ入院費用ハ契約上ノ關係ヲ有スル貸座敷營業者ヨリ之ヲ徵收ス
第八條 本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●大連火葬場設置

(明治三十九年二月二十三日) 告示 第十號

大連火葬場ヲ老虎灘會大嶺前村(元大連兵站司令部火葬場附近)ニ置キ明治三十九年三月一日ヨリ開場ス但シ其ノ事務ハ當分ノ内本署警務部衛生係ニ於テ之ヲ行フ

●大連火葬場規程

(明治三十九年二月二十三日) 告示 第十三號

大連火葬場規程左ノ通相定ム

大連火葬場規程

第一條 屍體ヲ火葬セントスル者ハ本署ニ火葬料ヲ納付シ其ノ受領證ニ埋葬認可證ヲ添ヘ大連火葬場事務所ニ願出屍體受領證ヲ受クヘシ
第二條 屍體ハ日出前日没後ハ之ヲ受領セシ
第三條 遺骨ヲ拾納セントスルトキハ屍體受領證ヲ大連火葬場事務所ニ差出シ事務員ノ指揮ヲ受クヘシ
第四條 遺骨ハ屍體受領證ヲ受ケタル翌日出ヨリ正午迄ノ間ニ拾納スヘシ
前項ノ時間ニ拾納セサルトキハ火葬場事務員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第五條 火葬料ハ左ノ等級ニ依リ之ヲ徵收ス但シ官廳公署ニ勤務スル者又ハ軍人軍屬及其ノ家族タルノ證明アル者ハ二割ヲ減ス

前項ノ證明ハ所屬長官又ハ部隊長ノ證明書ヲ以テスヘシ

- 一等 銀二十四
- 二等 銀十五圓
- 三等 銀十圓

●大連火葬場火葬取扱手續

(明治三十九年二月十五日) 訓令 第三號

(警務部)

大連火葬場火葬取扱手續左ノ通相定ム

大連火葬場火葬取扱手續

第一條 屍體ノ火葬ヲ願出タル者アルトキハ火葬認許證及火葬料受領證ヲ檢査シ屍體受領書ヲ交付スヘシ
死者軍人軍屬ナルトキハ其ノ證明書ヲ併セ檢査スヘシ
第二條 火葬ハ屍體受領シタル當日日没後日出前ニ之ヲ行フヘシ
第三條 遺骨ヲ拾納セントスル者アルトキハ屍體受領證ヲ檢査シ拾納セシムヘシ
火葬出願人ニ於テ大連火葬場規程第四條ノ時間ニ遺骨ヲ收納セサルトキハ之ヲ納骨器ニ納メ死者ノ氏名、火葬出願人ノ住所氏名、火葬ノ日時等ヲ明記シ納骨所ニ保存スヘシ
前項ノ遺骨ハ納骨ノ日ヨリ起算シ三十日以内ニ交付ヲ請フ者ナキトキハ合葬ノ手續ヲ爲スヘシ
第四條 屍體又ハ遺骨ハ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ
第五條 火葬場事務所ニハ別記様式ノ火葬簿ヲ備ヘ必要ノ事項ヲ記入整理スヘシ

(別記様式)

火葬

原籍
現住所

職業 死亡者 氏名
年 月 日 生

右火葬任度火葬認許證並火葬料領收證相添へ此段奉願候也

明治 年 月 日

原籍
現住所

火葬願出者

氏

名

備考 關東州民政署大連火葬場事務所御中
軍人軍屬ニアリテハ「火葬料領收證」ノ次ニ「軍人(又ハ軍屬)ノ證明書」ヲ加フヘシ

●屍體取扱方 (明治三十八年十月十七日 府令第四十七號)

屍體ハ醫師ノ診断書又ハ檢案書ヲ添へ本署又ハ支署ニ届出認許ヲ受クルニアラサレハ埋葬スルコトヲ得ス犯
スモノハ拘留又ハ科料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二章 防疫

●傳染病豫防規則 (明治四十一年九月三日 府令第四十七號)

傳染病豫防規則左ノ通相定ム

傳染病豫防規則

第一條 本令ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布埤利亞格
布ヲ「ベスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル疾病ノ外本令ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病アルトキハ別ニ之ヲ指定ス

第二條 醫師傳染病又ハ其ノ疑似症患者ヲ診断シ若ハ其ノ屍體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指
示シ且直ニ患者若ハ屍體所在地ノ警察官吏ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第三條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診断若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直
ニ其ノ所在地ノ警察官吏ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校、病院、
製造所又ハ會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ其ノ代理
者トス

第四條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者アリタル家又ハ其ノ病室ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ
當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒方法ヲ行フヘシ

第五條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病又ハ其ノ疑似症患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ
收容スヘシ

第六條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ一定ノ期間傳染病又ハ其ノ疑似症患者アリタル家屋、
場所其ノ他傳染病又ハ其ノ疑アル病室ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家屋、場所ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病室感染
ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離シ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第七條 本令ニ於テ船舶及汽車ハ家屋ト看做ス

第八條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者及其ノ屍體ハ當該吏員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス
第九條 傳染病又ハ其ノ疑アル病者ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ使
用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者ノ屍體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ
埋葬スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者ノ屍體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限
ニ在ラス

傳染病患者ノ屍體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ所轄警察
官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ戸主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ家宅其ノ
他ノ場所ニ立入又ハ無償ニテ船舶、汽車ニ乗込ムコトヲ得但シ當該吏員タル證票ヲ示スヘシ

第十三條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ民政署長ハ關東都督ノ認可ヲ經テ檢疫委員ヲ設置シ傳染病
豫防事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

檢疫委員ノ設置ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 民政署長ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ關東都督ノ認可ヲ經テ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施
行スルコトヲ得

- 一 船舶、汽車、旅客等ノ檢疫ヲ行フコト
- 二 健康診断又ハ屍體檢案ヲ行フコト
- 三 市街、村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ其ノ居住者ヲ隔離スルコト
- 四 祭禮、供養、興行、集會等ノ如キ群集ヲ制限シ若ハ禁止スルコト

五 古著、襤褸、古綿其ノ他病源汚染ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト

六 傳染病傳播ノ媒介ト爲ルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

七 船舶、汽車、製造所若ハ多人數ノ集會スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

八 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、下水、溝渠、芥溜、厠間ノ新設、改築、修繕、變更若ハ廢
止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

九 必要ノ期間一定ノ場所ヲ限リ漁撈、游泳又ハ水ノ使用ヲ制限シ若ハ停止スルコト

十 鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

第十五條 傳染病汚染シタル建物ニシテ完全ニ消毒方法ヲ施行シ得スト認ムルトキハ民政署長ハ關東都
督ノ認可ヲ經テ其ノ建物ニ對シ特別ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ所有者又ハ管理人ニ告知シ處分ヲ行ヒタル上民政署長ハ相當ト認ムル手
當金ヲ交付スルコトアルヘシ

第十六條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スル
モ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ期間ニ施爲シ得スト認ムルトキハ民政署長ハ官費ヲ以テ之ヲ施爲シ
其ノ費用ヲ私人ヨリ追徴スルコトヲ得

前項ノ費用ノ徵收ニ關シテハ租稅其ノ他ノ公課徵收ニ關スル規程ニ據ル

第十七條 本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セ
サル者ハ科料ニ處ス

第十八條 醫師ニシテ十二時間以内ニ第二條ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ科料又ハ五十四

以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第三條第四條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者交通遮斷ヲ犯シタル者當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ成サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者醫師ニ請託シテ第二條ノ届出ヲ爲サシメヌ又ハ虛偽ノ届出ヲ爲サシメ若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二十四以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十條 關東州外ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル
第二十一條 民政署長ハ關東都督ノ認可ヲ經テ本令ヲ施行スル爲必要ナル規程ヲ定ムルコトヲ得
第二十二條 本令ニ依リ民政署長ニ屬スル職權ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ警務署長之ヲ行フ
第二十三條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病豫防手續

(明治四十一年九月三日) (民政部、民政署、警務署、警務支署)

傳染病豫防手續左ノ通相定ム

傳染病豫防手續

第一條 民政署長、民政支署長、警務署長、警務支署長ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防規則第一條ニ掲クル傳染病ノ外同規則ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ詳記シ速ニ關東都督ニ報告スヘシ

第二條 警察官吏傳染病豫防規則第二條ノ届出若ハ傳染病又ハ其ノ疑似症患者死者アルカ又ハ其ノ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルコトヲ認知シタルトキハ直ニ應急ノ處置ヲ施シ民政署長、民政支署長、警務署長又ハ警務支署長ニ急報スヘシ

第三條 民政署長、民政支署長、警務署長、警務支署長前條ノ報告ヲ受ケ若ハ前條ノ事實アルコトヲ認知シ

必要ト認ムルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシメ傳染病又ハ其ノ疑似症患者ナルトキハ直ニ關東都督ニ報告シ尙民政署、民政支署、警務署、警務支署、最寄陸海軍官衙兵營軍艦、南滿洲鐵道株式會社及管内各警察官吏派出所、南滿洲鐵道株式會社出張所、同派出所、衛生組合ニ通報スヘシ

第四條 警察官吏ハ傳染病又ハ其ノ疑似症患者若ハ其ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ認知シ豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ患者ヲ傳染病院隔離病舎又ハ相當ノ設備アル病院ニ收容シ尙速ニ其ノ家屋、場所其ノ他病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家屋、場所ニ消毒方法ヲ施行セシメ「ベスト」病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ

第五條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防規則第六條ニ依リ虎列刺、赤痢、發疹瘰癧私「ベスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

- 一 患者又ハ屍體アル間及患者ヲ入院若ハ入舎セシメ又ハ患者治愈若ハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家屋場所ノ交通ヲ遮斷スルコト
- 二 前號ノ外病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家屋、場所ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト
- 三 前各號家屋ノ居住者其ノ他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ期間隔離所若ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家屋其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト
 - 虎列刺、赤痢 滿五日間
 - 發疹瘰癧私 滿七日間
 - 「ベスト」 滿十日間

四 交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者發生シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト
傳染病豫防規則第十四條第三號ニ依ル交通遮斷及隔離ハ特ニ民政署長、警務署長ノ命アル場合ニ限り警察官吏、檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ

第六條 傳染病豫防規則第八條ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル當該吏員ヨリ患者又ハ屍體ヲ移スヘキ地ノ當該吏員ニ通報スヘシ

第七條 當該吏員ハ傳染病豫防規則第九條ノ場合ニ於テ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルトキ及第十一條第一項ノ場合ニ於テ土葬ヲ許可シ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ改葬ヲ許可シタルトキハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第八條 傳染病豫防規則第十一條第一項ニ依リ土葬ヲ許可スルハ國風ノ土葬ノ慣習ナキモノニ限ル

第九條 傳染病豫防規則第十二條ニ依リ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルニハ成ルヘク日出後日没前ニ於テスヘシ

● 檢疫委員設置規程 (明治四十二年八月十七日 訓令第五十五號)

傳染病豫防規則第十三條ニ依リ檢疫委員設置規程左ノ通定ム

檢疫委員設置規程

第一條 檢疫委員ハ民政署、同支署、警務署、同支署ノ官吏及醫師、藥劑師其ノ他ニ就キ民政署長、警務署長之ヲ命ス

第二條 檢疫委員ヲ設置シタルトキハ檢疫委員長一人ヲ置ク但シ必要アルトキハ檢疫委員副長一人又ハ數人ヲ置ク

檢疫委員長ハ民政署長、警務署長ヲ以テ之ニ充テ副長ハ委員中ニ就キ民政署長、警務署長之ヲ命ス

第三條 民政署長、警務署長ハ其ノ支署又ハ警察官吏派出所ニ檢疫委員出張所ヲ置キ其ノ管内ニ於ケル傳染病豫防事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 檢疫委員出張所ニハ所長一人ヲ置ク

檢疫委員出張所長ハ委員中ニ就キ民政署長、警務署長之ヲ命ス

第五條 檢疫委員ノ職務章程ハ民政署長警務署長之ヲ定ム

● 港灣出入船舶取締規則 (第十四類三) (章二收ム)

第三章 醫事

● 醫院官制 (第一類一) (章二收ム)

● 醫院位置 (第一類二) (章二收ム)

● 醫院職員タル陸軍現役將校相當官ハ陸軍部ノ定員外トス (第二類一) (章二收ム)

● 明治四十年勅令第七十五號及第七十六號ハ醫院職員ニ準用ス (第二類一) (章二收ム)

● 醫院職員ニ任セラレタル陸軍將校相當官ニハ乘馬ノ飼養停止 (第十類六) (章二收ム)

● 醫院收入取扱規程 (第九類五) (章二收ム)

● 關東州公醫規則 (明治四十年十月十五日 府令第五十七號)

關東州公醫規則左ノ通相定ム

關東州公醫規則

第一條 關東州ニ公醫ヲ置ク

第七類 衛生 第三章 醫事

公醫ハ其ノ職務ニ關シテハ囑託員ノ待遇トス

第二條 公醫配置ノ場所、受持區域及其ノ人員ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 公醫ハ所轄民政署長之ヲ指揮監督ス

第四條 公醫ハ其ノ受持區域内ニ於テ左ノ事項ヲ擔任スヘシ

- 一 貧民患者ノ施療ニ關スル事項
 - 二 藝妓、娼妓、酌婦等ノ健康診斷及治療ニ關スル事項
 - 三 種痘普及ニ關スル事項
 - 四 傳染病ノ流行及地方病ノ發生ニ注意シ之カ檢疫、豫防ニ關スル事項
 - 五 検屍檢證ニ關スル事項
 - 六 飲料水、家屋、下水、道路、溝渠等ノ清潔方法ニ關スル事項
 - 七 衛生及醫事統計ニ關スル事項
 - 八 前各號ノ外特ニ命セラレタル事項
- 第五條 公醫ハ前條ノ外左ノ事項ニ注意スヘシ
- 一 醫師、産婆其ノ他ノ療丁ノ業務ニ關スル事項
 - 二 藥劑師、藥種商、製藥者、賣藥營業者ノ業務藥品ノ良否及賣藥ニ關スル事項
 - 三 飲食物、飲食器具、繪具、著色料等ノ中毒ニ關スル事項
 - 四 前各號ノ外受持區域内ニ於ケル公衆衛生ニ關スル事項
- 第六條 公醫ハ非常事變ニ因リ人命救助ヲ要スルトキハ速ニ現場ニ出張シ所在地警察官吏ト協議シ其ノ救護ニ從事スヘシ
- 第七條 公醫ハ所轄民政署長ノ指揮ニ依リ健康診斷及汽車船舶ノ檢疫ニ從事スヘシ

第八條 公醫ハ常ニ受持區域内ニ於ケル公衆衛生及醫事ノ狀況ヲ查察シ意見ヲ具シテ之ヲ所轄民政署長ニ報告スヘシ

第九條 公醫ハ左記事項ニ關シ每一箇月分ヲ翌月五日迄ニ所轄民政署長ヲ經由シ民政長官ニ報告スヘシ但シ事ノ緊急ヲ要スルモノハ臨時即報スヘシ

- 一 第四條各號ニ關スル事項
 - 二 開業醫トシテ診療シタル患者ノ病類別
- 第十條 公醫ニハ土地ノ狀況ニ依リ左記範圍内ニ於テ手當、施療藥餌料、舍宅料ヲ給ス其ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム
- 但シ家屋ヲ貸與スル場合ニ於テハ舍宅料ヲ支給セス
- 一 手當一箇月金五十圓以内
 - 一 施療藥餌料一箇月金三十圓以内
 - 一 舍宅料一箇月金三十圓以内

第十一條 公醫ニハ品目員數ヲ限リ治療用機械器具等ヲ貸與スルコトアルヘシ

第十二條 公醫職務ノ爲受持區域内出張ノ場合ニ於テハ日額金二圓ノ旅費ヲ支給シ其ノ他ノ場合ニ於テハ囑託員ノ例ニ依ル

第十三條 公醫ハ民政署、支署、警察官吏駐在所又ハ警察官吏派出所ノ認定交付シタル施療券ヲ携行シタル者ニハ施療ヲ爲スヘシ

第十四條 公醫ハ第十一條貸與品ノ外普通治療用機械器具及藥品ヲ常備スヘシ

第十五條 公醫ハ所轄民政署長ノ指揮アルトキハ受持區域外ノ事務ニ從事スヘシ

第十六條 公醫及其ノ家族ハ藥種商、賣藥業其ノ他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 公醫ハ診察料、手術料、藥價等ヲ定メ所轄民政署長ヲ經山シ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ更改セムトスルトキ亦同シ

第十八條 公醫ハ左ニ掲クル事項ニ關シテハ所轄民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 受持區域内ニ於テ開業ノ場所ヲ移轉セムトスルトキ
- 二 病院又ハ出張所ヲ設置セムトスルトキ
- 三 私事ノ爲旅行セムトスルトキ
- 四 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ其ノ業務ヲ休止セムトスルトキ

●公醫配置ノ場所及受持區域 (明治四十一年七月十一日 告示第七十一號)

明治四十年十月告示第六十九號關東州公醫配置ノ場所及受持區域左ノ通改正ス

公醫配置ノ場所及受持區域

配置ノ場所 受 持 區 域

旅順民政署管内 胡家屯 羊頭窪、山頭村、山潤堡各警察官吏派出所管内一圓

大連民政署管内 老虎灘 老虎灘警察官吏派出所管内一圓

小平島 小平島警察官吏派出所管内一圓 (四一、告七七號改正)

金州民政署管内 金州 金州民政署直轄、西馬橋子、大孤山、董家溝、劉家店、前半拉山、金州驛、北三里庄、大魏家屯、七頂山各警察官吏派出所管内一圓

柳樹屯 柳樹屯、南關嶺、大房身、後革鎮堡各警察官吏派出所管内一圓

金州民政署管内 普蘭店 普蘭店支署直轄、三十里堡、石河照、長山寺、快馬廠、朝陽寺各警察官吏派出所管内一圓

魏子窩支署直轄、清水河西崖、唐家房、小楊樹房、大譚家屯、楊樹底、鄉家窩、大宗家屯、孫家屯、夾心子、吳家屯、大芦家屯各警察官吏派出所管内一圓

姜家堡子、姜家堡子、姜家堡子、粉皮牆、林家屯、臥龍屯、三家子、山咀屯、亮甲店、上江家屯、黃嘴子廟、大李家屯各警察官吏派出所管内一圓

●藥品營業並藥品取締規則 (明治四十一年六月二十六日 府令第三十八號)

藥品營業並藥品取締規則左ノ通定ム

藥品營業並藥品取締規則

第一條 藥劑師トハ醫師ノ處方箋ニ依リ調劑スル者ヲ謂フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

賣藥商トハ賣藥ヲ調製シ之ヲ販賣スル者ヲ謂フ

賣藥請賣商トハ賣藥商ノ調製シタル賣藥又ハ輸入賣藥ヲ販賣スル者ヲ謂フ

第二條 藥劑師開業セムトスルトキハ藥劑師免狀及履歷書ヲ添ヘ所轄民政署ヲ經由シ關東都督府ニ願出許可ヲ受クヘシ

藥種商開業セムトスルトキハ履歷書ヲ添ヘ所轄民政署ニ願出許可ヲ受クヘシ

賣藥ヲ調製販賣セムトスル者ハ藥名、分量、用法、効能ヲ詳記シ現品ヲ添ヘ所轄民政署ヲ經由シ關東都督府ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ藥名、分量、用法、効能ヲ改正セムトスルトキ亦同シ

賣藥ヲ請賣セムトスル者ハ賣藥名及其ノ調製者ノ住所氏名ヲ具シ所轄民政署ニ願出許可ヲ受クヘシ但シ輸入

入賣藥ナルトキハ現品ヲ添付スヘシ

第三條 藥劑師、賣藥商廢業又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ所轄民政署ヲ經由シ關東都督府ニ届出ヘシ
藥種商、賣藥請賣商廢業又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ所轄民政署ニ届出ヘシ

第四條 藥品ハ日本藥局方ニ記載セルモノハ其ノ所定ニ適合シ日本藥局方ニ記載セサルモノハ其ノ據ル所ノ外國藥局方ニ適合シ且關東都督府中央試驗所ノ検査ヲ經其ノ封緘アルモノニ非サレハ貯藏、販賣、授與スルコトヲ得ス

傳染病研究所ニ於テ製造シタル血清類及衛生試驗所ノ検査ヲ經其ノ封緘アル藥品ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ關東都督府中央試驗所ノ検査ヲ經其ノ成績書ノ全文ヲ記載シ且其ノ封緘アルモノニ非サレハ貯藏、販賣、授與スルコトヲ得ス

第六條 日本藥局方及外國藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタル藥品ハ其ノ所定ニ從フヘシ
毒藥、劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第七條 毒藥、劇藥ノ品目ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 工業用藥品ニハ第四條及第五條ノ規定ヲ適用セズ但シ工業用藥品ノ容器ニハ工業用ノ文字ヲ記シ且他ノ藥品ト置場ヲ異ニシ貯藏スヘシ

第九條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ其ノ藥名及販賣者ノ住所氏名ヲ記入スヘシ
毒藥、劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ前項ノ外毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ朱記スヘシ

第十條 毒藥、劇藥ハ藥劑師ニ非サレハ封緘ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第十一條 毒藥、劇藥ハ學術、工業又ハ防疫上必要ト認メタル者ヨリ其ノ藥名、數量、使用ノ目的、年月日、住所、職業、氏名ヲ記シ捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣、授與スルコトヲ得ス但シ醫師、獸

醫、藥劑師、藥種商間ニ於テ毒藥、劇藥ヲ販賣、授與スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
第十二條 醫師ハ自ら診療スル患者ノ處方ニ限リ第四條乃至第六條ノ規定ニ從ヒ藥劑ヲ調合シ販賣、授與スルコトヲ得

獸醫ノ自ら診療スル患者ニ關シテハ前項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 許可ヲ受ケスシテ藥品ノ營業ヲ爲シタル者又ハ第四條第五條第十條第十一條ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第三條第六條第八條第九條ニ違反シタル者ハ二十四以下ノ罰金ニ處ス

附則
本令ハ明治四十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際藥品ノ營業ヲ爲ス者引續キ其ノ營業ヲ爲サムトスルトキハ本令施行ノ日ヨリ十日以内ニ本令ニ依リ許可ヲ受クヘシ

●藥品營業並藥品取締規則ニ依ル藥品目 (明治四十一年六月二十七日 告示第六十一號)

明治四十一年六月府令第三十八號藥品營業並藥品取締規則第七號ニ依ル毒藥、劇藥品目ハ明治三十九年七月內務省令第二十一號及同年十二月同省令第三十六號ニ依ル (參照)

●日本藥局方 (三九、內務省令第二十一號)

●同方第二表第三表ニ掲グルモノ及本令掲載ノ毒藥、劇藥 (三九、內務省令第三十六號)

●清國以外ノ醫師等ニシテ「モルヒ子」及其ノ注射器ヲ清國內地ニ輸入セ

ムトスルトキハ大連海關告示遵守方 (第九類六章ニ收ム)

第四章 獸畜

●屠獸取締規則 (明治三十九年二月十一日 醫令第六六號)

屠獸取締規則左ノ通相定ム

屠獸取締規則

- 第一條 食用ニ供スル牛馬羊豚ハ自家用ト販賣用トヲ問ハス官立公立ノ屠獸場若ハ本署又ハ支署ノ許可ヲ得タル私立ノ屠獸場以外ニ於テ屠殺スルコトヲ得ス
- 第二條 屠獸場ヲ新設セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ變更改修若ハ増設セントスルトキ亦同シ
 - 一 屠獸場ノ位置坪數及圖面
 - 二 構造仕様書及圖面
 - 三 落成期日
 - 四 屠獸場所用器具ノ品目及員數
- 第三條 屠獸場ノ位置ハ道路鐵道飲料ニ供スル井戸、河川、公園、人家等ヨリ六十間以上ノ距離ヲ有スル場所タルヘシ
- 第四條 屠獸場ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ數ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第五條 屠獸場ノ構造及其ノ備品ハ左ノ各號ニ從フヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ斟酌スルコトアルヘシ
 - 一 屠獸場ノ周圍ニハ土手又ハ塙塙ヲ設ケ閉鎖シ得ヘキ門戸ヲ付スヘシ

- 二 屠獸場内ニ繋留所、生體検査所、屠室、屠肉貯藏室、汚水溜、内容物溜、廢棄所及検査官室ヲ設ケ別ニ隔離所ヲ附設スヘシ
 - 三 繋留所ノ地盤及溝ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ一頭毎ニ區割ヲ設ケ之ニ番號ヲ付スヘシ
 - 四 生體検査所ノ地盤及之ニ附屬スル糞尿溜並溝ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ獸畜保定戒具、體尺及生體秤量器ヲ備フヘシ
 - 五 屠室ハ生體、屠肉、内臓ノ出入口ヲ各別ニ設ケ地盤ヲ石ニテ築造シ勾配ヲ付シ固定ノ装置ヲ爲シ血液等ヲ排除スヘキ溝ヲ設ケ周壁ニハ金屬又ハ石板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲ爲シ用水壺、内臓検査壺、屠肉懸昇器、屠肉秤量器、洗具、洗料及屠肉拭布ヲ備フヘシ
 - 六 屠肉貯藏室ハ地盤ヲ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ周壁ハ漆喰又ハベンキ塗ト爲シ空氣ノ流通シ易キ様四方ニ窓ヲ設ケ之ヲ金網張ト爲スヘシ
 - 七 汚水溜ハ屠室外二間以上ノ距離ヲ有スル地ニ設ケ屠室ヨリ通スル溝ト共ニ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ雨水ノ流入ヲ防クヘキ蓋ヲ設クヘシ
 - 八 内容物溜ハ屠室外二間以上ノ距離ヲ有スル地ニ設ケ屠室ヘノ通路ハ幅三尺以上トシ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造スヘシ
 - 九 廢棄所ハ屠獸場ノ邊隅ニ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ適當ノ蓋ヲ設クヘシ
 - 十 検査官室ハ場内適當ノ位置ニ設ケ検査臺、消毒藥品其ノ他検査上必要ナル器具ヲ備フヘシ
 - 十一 隔離所ノ周圍ニハ土手又ハ塙塙ヲ設ケ地盤及之ニ附屬スル糞尿溜並溝ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ周壁ハベンキ塗ト爲シ四方ニ窓ヲ設ケ飼料器具、消毒器械及消毒藥品等ヲ備フヘシ
- 第六條 屠獸場ノ新設又ハ變更、改修、増設工事落成シタルトキハ本署又ハ支署ニ届出検査ヲ受クヘシ検査済ノ認證ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第七條 正當ノ事由ナクシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ

一 許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ工事ニ著手セサルトキ

二 期日ヲ經過シ落成セサルトキ

三 休業三ヶ月以上ニ及ヒタルトキ

第八條 屠獸場積破或ハ土地ノ狀況變遷ニ依リ危險若ハ衛生上有害ト認ムルトキハ改修又ハ廢場ヲ命スルコトアルヘシ

本署又ハ支署ニ於テ必要ト認ムルトキハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 休業若ハ廢業セントスルトキハ其ノ前日迄ニ又住所氏名ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ヘシ

第十條 屠獸場ヲ賣買讓與又ハ貸借セントスルトキハ双方連署シ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十一條 屠獸場ノ管理者ハ獸畜ノ種別ニ依リ屠獸場使用料屠殺料隔離所使用料ヲ定メ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十二條 正當ノ事由ナクシテ屠獸場ノ使用、屠殺若ハ隔離所ノ使用ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第十三條 屠獸場ハ毎日掃除シ屠室及滯ハ屠殺ヲ終ル毎ニ之ヲ洗滌スヘシ

第十四條 臟、皮、骨、血液、汚水ノ類ハ毎日之ヲ取除キ停滯セシムヘカラス

第十五條 屠殺スヘキ獸畜ハ當該官吏ノ検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ受ケサルモノハ屠室ニ牽入ルコトヲ得ス

第十六條 疾病ノ疑アル獸畜ハ屠獸場内ニ牽入ルコトヲ得ス

第十七條 屠獸場内ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸畜ヲ發見シタルトキハ屠獸場ノ管理者ハ當該官吏ノ指揮ヲ受ケ消毒ヲ行フヘシ

第十八條 獸畜ハ繋留所ニ置キ受檢準備ヲ爲シ當該官吏ノ指揮ニ從ヒ順次生體検査所ニ牽入ルヘシ

第十九條 屠殺ノ許可ヲ得タルモノハ順次屠室ニ牽入ルヘシ其ノ不良ニシテ許可ヲ得サルモノハ角蹄又ハ脛部ニ禁止又ハ停止ノ烙印ヲ受ケ直ニ場外ニ牽出スヘシ

第二十條 前條ノ屠殺禁止又ハ停止ニ係ル病獸ノ處置ハ左ノ各號ニ從フヘシ

一 病獸ノ角蹄又ハ脛部ノ烙印ハ其ノ病獸健康ニ復シ當該官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消滅スルコトヲ得ス

二 病獸ヲ讓渡シ若ハ其ノ飼養地ヲ轉セントスルトキハ前日中ニ本署又ハ支署ニ届出ヘシ

第二十一條 屠殺ヲ終リタルトキハ内臟及肉ノ検査ヲ受クヘシ其ノ不良ト認ムルモノハ廢棄若ハ焼却ヲ命シ又ハ用途ヲ限リ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十二條 屠殺時間内ハ屠獸場ノ門戸ヲ閉鎖シ當該官吏ノ許可ヲ得タルモノノ外猥ニ屠獸場ニ出入セシムヘカラス

第二十三條 屠獸場内ニハ現ニ屠殺セントスルモノノ外猥ニ獸畜ヲ牽入ルヘカラス

第二十四條 屠殺ヲ爲サントスルモノハ前日中ニ獸畜ノ產地、種別、牝牡、毛色、年齢、頭數ヲ本署又ハ支署ニ届出ヘシ

第二十五條 屠肉運搬容器ハ左ノ各號ニ依リ構造シ本署又ハ支署ノ檢印ヲ受クヘシ但シ自家用ノ屠肉運搬容器ハ此ノ限ニアラス

一 屠肉運搬容器ハ木製ノ箱車トシ内部ヲ金屬板ニテ張り其ノ下部ニ血受ヲ備ヘ蚊蠅及塵芥ノ附著セサル様蓋ヲ設クヘシ

二 内臟、頭、骨、皮類ノ運搬器ハ木製ノ箱車トシ滲出物ノ漏洩ヲ防キ人目ニ觸レサル様蓋ヲ設クヘシ

第二十六條 運搬容器ハ使用後直ニ熱湯ヲ以テ清潔ニ洗滌スヘシ當該官吏ニ於テ不潔ト認ムルトキハ一時其ノ使用ヲ禁スルコトアルヘシ

第七類 衛生 第四章 獸畜

四六九

第二十七條 屠殺時間ハ本署又ハ支署ノ指定スル所ニ依ルヘシ

第二十八條 大祀、禮節、國際ノ日ハ屠殺ヲ行フコトヲ得ス

第二十九條 屠夫ハ本署又ハ支署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ屠夫タルコトヲ得ス

一 傳染性皮膚病又ハ結核病者

二 獸畜ノ獸殺法ヲ熟知セザル者

三 斃獸ヲ取扱フ者

第三十一條 屠夫ニシテ鑑札而ニ異動ヲ生シ又ハ鑑札ヲ毀損紛失シタルトキハ五日以内ニ書換若ハ再下付ヲ謂フヘシ廢業シタルトキハ五日以内ニ鑑札ヲ返納スヘシ

第三十二條 屠夫ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 就業中ハ鑑札ヲ携帶スヘシ

二 正當ノ理由ナクシテ屠獸ノ求ヲ拒ムコトヲ得ス

三 屠獸ノ方法ハ當該官吏ノ指示ニ從フヘシ

四 屠獸場内ニ於テハ一定ノ屠服ヲ着用シ毎週二回以上洗濯スヘシ但シ屠服ハ屠獸場以外ニ於テ着用スルコトヲ得ス

五 屠獸ニ從事スルトキハ長靴ヲ穿ツヘシ

六 衣服及用器ハ毎日屠殺著手前當該官吏ノ點檢ヲ受クヘシ

第三十三條 此ノ規則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ其ノ情狀重キモノハ營業許可ノ指令ヲ取消シ又ハ鑑札ヲ返納セシムルコトアルヘシ

附則

第三十四條 本令ハ明治三十九年二月二十日ヨリ施行ス

第三十五條 本令施行以前ニ於テ設置セル屠獸場ニシテ第五條ノ規則ニ適合セザルモノハ本署又ハ支署ニ届出明治三十九年九月三十日迄ニ其ノ設備ヲ爲スヘシ

● 獸類取扱規則

(明治三十九年二月五日 署令第三號)

獸類取扱規則左ノ通相定ム

獸類取扱規則

第一條 牛馬羊豚ノ所有者又ハ管理人ハ左記ノ場合ニ於テハ其ノ產地、種類、牝牡、毛色、年齢、頭數ヲ記載シ即時本署又ハ支署ニ届出ツヘシ第四號及第五號ノ場合ニ於テハ仍其ノ指揮ヲ受クヘシ

一 牛馬羊豚ヲ輸入シタルトキ

二 牛馬羊豚ヲ賣買讓與シタルトキ

三 牛馬羊豚ノ繋留所ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキ

四 牛馬羊豚ノ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタルトキ

五 牛馬羊豚斃死シタルトキ

第二條 疾病ニ罹リ又ハ斃死シタル牛馬羊豚ヲ遺棄スルコトヲ得ス

第三條 本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年署令第九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●畜犬取締規則 (明治三十九年八月二十三日 醫令 第二十六號)

畜犬取締規則左ノ通相定ム

畜犬取締規則

- 第一條 飼犬ニハ頸環又ハ金屬製ノ牌子ヲ附シ之ニ飼主ノ住所氏名ヲ記入スヘシ
- 第二條 前條ノ頸環又ハ牌子ヲ附セサル犬ハ野犬ト見做シ撲殺スルコトアルヘシ
- 第三條 獠惡ニシテ人畜ヲ咬傷スル虞アル飼犬ハ之ヲ放飼スヘカラス
- 第四條 畜犬ニシテ狂犬病又ハ其疑アル疾患ニ罹レルコトヲ發見シタル者ハ之ヲ拘束シ即時本署、支署、警察官吏派出所又ハ警察官吏駐在所ニ届出ツヘシ
- 第五條 第三條及第四條ノ畜犬ハ警察官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ撲殺スルコトアルヘシ
- 第六條 人畜ニシテ畜犬ニ咬傷セラレタルトキハ即時本署、支署、警察官吏派出所又ハ警察官吏駐在所ニ届出ツヘシ
- 第七條 第三條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●畜牛斃死ノ場合届出方 (明治三十八年十月二十一日 醫令 第九號)

畜牛斃死シタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ即時本署又ハ支署若ハ警察官吏派出所ニ届出ヘシ違フモノハ十日以内ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢ノ科料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●清國牛疫地ノ獸皮革ハ病毒傳播ノ虞アルニ付輸入國へ注意

(明治四十二年五月十七日 告示 第四十八號)

清國江蘇省北部山東省ノ南部並安徽省北部一帶ニ牛疫發生シ益蔓延ノ模様アリ之カ爲獸皮革ハ市場ニ充滿シ將來右病屍ノ皮革ヲ外國ニ輸出スルニ至ラハ皮革輸入國ニ於テ十分ノ注意ヲ爲ササレハ該皮革ヨリ病毒ヲ傳播スルノ虞アル旨南京駐在帝國領事ヨリ外務省ニ報告アリタリ

●旅順屠獸場屠畜手數料 (第九類三章ニ收ム)

第八類 產業

第八類 産業

第一章 通則

- 中央試験所規程 (第一類一) (章二收ム)
- 農事試験場規程 (同上)
- 農事試験場名稱、位置 (第一類二) (章二收ム)
- 苗圃事務所設置並名稱、位置 (同上)
- 水産試験場規程 (第一類一) (章二收ム)
- 水産試験場處務規程 (第一類三) (章二收ム)

第二章 勸業

● 關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權意匠權等ノ保護ニ關スル件 (明治四十二年八月十三日勅令第二百一號)

關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國臣民又ハ韓國臣民カ帝國ニ於テ享有スル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ及フモノトス

第二條 特許法、意匠法、商標法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

第三條 日韓兩國以外ノ國ノ臣民又ハ人民カ帝國ニ於テ享有スル工業所有權及著作權ニ付テハ其ノ所屬國カ治外法權ヲ有スル外國ニ於テ日韓兩國ノ臣民ニ對シ工業所有權及著作權ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ工業所有權及著作權ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル場合ニ限リ前二項ノ規定ヲ適用ス

附則

第四條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令施行ノ際本令ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スル商標ヲ不正ニ附シタル商品ヲ販賣ノ爲所藏スル者ハ本令施行後六月内ニ其ノ商標ヲ除去若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨリ撤去スルコトヲ要ス

第六條 日本國臣民、韓國臣民及米國人民カ帝國又ハ米國內ニ於テ著作權ヲ享有スル著作物ヲ本令施行前清國ニ於テ著作權者ノ承諾ナクシテ複製シタル者、翻譯シタル者若ハ興行シタル者又ハ複製、翻譯、興行ニ著手シタル者ハ本令施行後一年間ハ之ヲ完成シテ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得

●清國ニ於ケル發明、意匠權等ノ相互保護ニ關スル日米條約

(明治四十一年八月十二日條約 第五號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ日米兩國全權委員ノ記名調印シタル清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及亞米利加合衆國大統領ハ清國ニ於テ其ノ臣民又ハ人民ノ發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ヲ確保セシムルヲ欲シ之カ爲條約ヲ締結スルヲ決シ日本國皇帝陛下ハ亞米利加合衆國駐劄特命全權大使正三位勳一等男爵高平小五郎ヲ亞米利加合衆國大統領ハ其ノ國務大臣代理ロバート、ペーコンヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ他ノ一方ノ當該官衙ニ於テ特許ヲ受ケタル發明又ハ登録ヲ受ケタル意匠若ハ商標ハ清國各地ニ於テ右他ノ一方ノ臣民又ハ人民ノ侵害ニ對シ右他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第二條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ文學及美術ノ著作物並寫眞ノ著作權ニ付清國內ニ於テ他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一ノ程度ノ保護ヲ享受スヘシ

第三條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ特許發明、登録意匠、登録商標又ハ著作權ヲ侵害シタルトキハ被害者ハ加害者所屬國ノ當該裁判所又ハ領事館ニ於テ其ノ國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ權利及保護ヲ享受スヘシ

第四條

兩締約國ハ商號ノ保護ニ付千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印セラレタル萬國工業所有權同盟條約ニ依リ其ノ版圖内ニ於テ對手國ノ臣民又ハ人民カ受クルト同一ノ取扱ヲ清國內ニ於テ右對手國ノ臣民又ハ人民ニ付與スヘキコトヲ約ス
行名ハ本條約ノ適用上之ヲ商號ト看做スヘシ

第五條 本條約ノ適用上韓國臣民ハ日本國臣民ト、亞米利加合衆國ノ所屬地ノ人民ハ米國人民ト清國內ニ於テ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

第六條

兩締約國ハ其ノ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル他國ニ關シ成ルヘク本條約ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ約ス
本條約ヨリ生スル一切ノ權利ハ兩締約國ノ所屬地及租借地ニ於テモ尊重セラルヘク右權利ノ侵害ニ對スル法律上ノ救済ハ加害者所屬國ノ當該裁判所ニ於テ之ヲ與フルモノトス

第七條

本條約實施ノ際本條約ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スルモノヲ不正ニ附シタル商品ヲ有スル者ハ右實施後六月ヲ限リ其ノ商標ヲ除去シ若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨリ撤去スルコトヲ要ス

第八條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ明治三十九年五月十日以後公ニシタル文學及美術ノ著作物竝寫眞ニシテ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキモノヲ本條約實施前清國內ニ於テ許可ナクシテ複製シタル他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ右實施後一年ヲ限リ該複製物ノ發賣又ハ頒布ヲ廢止スヘキモノトス

第九條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換セラルヘシ本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ十日ヲ經タル後韓國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ保護ニ關スル條約ト共ニ實施セラルヘシ
右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治四十一年五月十九日即西曆千九百八年五月十九日華頓盛ニ於テ本書ニ通ヲ作ル

高平 小五郎 印

ロバート、ペーコン 印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕明治四十一年五月十九日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ帝國全權委員カ亞米利加合衆國全權委員ト共ニ記名調印シタル清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百六十八年明治四十一年八月六日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣 子爵 寺内正毅

●中央試驗所試驗規程 (明治四十一年六月二十六日 府令第三十六號)

關東都督府中央試驗所試驗規程左ノ通相定ム

關東都督府中央試驗所試驗規程

第一條 殖産、工業及衛生ニ關スル物質ノ分析、試驗又ハ鑑定ヲ依頼セムトスル者ハ別記甲號書式ノ依頼書

ニ供試品ヲ添ヘ之ヲ關東都督府中央試驗所ニ提出スヘシ

期日ヲ限リ分析、試驗又ハ鑑定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ依頼書ニ明記スヘシ

第二條 供試品ノ分量ハ左ノ區別ニ依ル但シ必要ノ場合ニ於テハ増量セシムルコトアルヘシ

一 乳汁 脂肪檢定又ハ飲用適否試驗

一定量分析 一合以上五人乳ハ
三合以上一人乳ハ

二 酒、酢、醬油類 衛生適否試驗

一定量分析 五合以上
一升以上

三 肉類、肉製品、罐詰類

酒精分定量分析

衛生適否試験

貯藏適否試験又ハ定性分析

定量分析

五合以上

半斤、一罐又ハ三合以上

半斤、一罐又ハ三合以上

一斤、二罐又ハ五合以上

一斤又ハ二罐以上

半斤又ハ一罐以上

一斤又ハ二罐以上

四 茶、珈琲類、菓子、餡類、味噌、砂糖、蜜類

衛生適否試験

定性分析

定量分析

一斤又ハ二罐以上

半斤又ハ一罐以上

一斤又ハ二罐以上

五 果實、蔬菜、穀類

衛生適否試験

定性分析

定量分析

二百匁又ハ五合以上

百匁又ハ三合以上

二百匁又ハ五合以上

五十匁、二箇又ハ二箇以上

二十匁、一箇又ハ一箇以上

五十匁、二箇又ハ二箇以上

六 石鹼、化粧品

衛生適否試験

定性分析

定量分析

五十匁、二箇又ハ二箇以上

二十匁、一箇又ハ一箇以上

五十匁、二箇又ハ二箇以上

七 飲食物用器具

衛生適否試験

定性分析

定量分析

一箇以上

一箇以上

二箇以上

一升以上

一升以上

三升以上

八 水

衛生適否試験

汽罐用適否試験

定性分析

一升以上

一升以上

三升以上

九 氷

定量分析
固形物定量分析

硬度檢定

衛生適否試験

定性分析

定量分析

三斤以上

三斤以上

十斤以上

三合以上

三合以上

一升以上

三升以上

五升以上

十匁以上

十 鐵泉

療養泉適否試験

一成分ノ定性分析

一成分ノ定量分析

定性分析

定量分析

三合以上

三合以上

一升以上

三升以上

五升以上

十匁以上

十一 礦物、鐵產物、土壤、肥料

定性分析 每一成分

定量分析 每一成分

定量分析 每一成分

十匁以上

二十匁以上

五十匁以上

二十匁以上

十二 金屬ノ乾式

定量分析 每一成分

定量分析 每一成分

定量分析 每一成分

二十匁以上

五十匁以上

二十匁以上

十三 石炭、コークス等ノ各種檢定試験

每一成分

每一成分

每一成分

每一件 二斤以上

每一件 二斤以上

每一件 二斤以上

十四 粘土、耐火煉瓦ノ耐火度、吸水量又ハ收縮度ノ檢定試験

及粘土、土壤ノ器械分析(四一府六二號追加)

耐火煉瓦ノ耐火度、吸水量又ハ收縮度ノ檢定試験

耐火煉瓦ノ耐火度、吸水量又ハ收縮度ノ檢定試験

每一件 一斤以上又ハ二箇以上

每一件 八箇以上

每一件 八箇以上

十五 建築用石材、煉瓦、瓦ノ各種檢定試験

灰製出量ノ檢定試験(四一府六二號追加)

灰製出量ノ檢定試験(四一府六二號追加)

灰製出量ノ檢定試験(四一府六二號追加)

每一件 一斤以上又ハ二箇以上

每一件 八箇以上

每一件 八箇以上

十六 セメントノ比重、凝結度、粉末細度、膨脹又ハ龜裂及石

灰製出量ノ檢定試験(四一府六二號追加)

灰製出量ノ檢定試験(四一府六二號追加)

灰製出量ノ檢定試験(四一府六二號追加)

每一件 一斤以上又ハ二箇以上

每一件 八箇以上

每一件 八箇以上

- セメントノ耐壓強、耐伸強ノ檢定試驗
 - 十七 紙類ノ各種檢定試驗
 - 十八 絹絲類ノ各種檢定試驗
 - 十九 棉絲、麻絲、毛絲類ノ各種檢定試驗
 - 二十 織布ノ各種檢定試驗
 - 二十一 脂肪、蠟、油類ノ各種檢定試驗
 - 二十二 染料、塗料ノ各種檢定試驗
- 前項ニ掲ケタル供試品ノ分量ハ關東都督府中央試驗所長之ヲ指定ス
- 第三條 分析、試驗又ハ鑑定ノ手數料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ
- 一 飲食物、飲食物用器具、嗜好品、化粧品ノ定性分析
 - 二 同上定量分析
 - 三 飲食物、飲食物用器具、嗜好品、化粧品ノ衛生適否試驗
 - 四 水、氷ノ衛生適否試驗
 - 五 水ノ硬度、汽罐用適否、試驗及鐵泉適否試驗
 - 六 水、飲食物、土壤及排泄物等ノ細菌學的試驗
 - 七 藥品ノ藥用適否試驗
 - 八 何レノ藥局方ニモ記載ナキ新規藥品ノ性質試驗
 - 九 水、氷、鐵泉、鐵物、鐵產物、粘土、土壤、肥料、飼料ノ定性分析 (四一、府六一號追加)
 - 十 同上定量分析
- 一成分金一圓 一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ
 - 一成分金二圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金三圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金四圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金五圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ

- 十 金屬ノ乾式定量分析
 - 十一 石炭、コークス等ノ比重、水分、灰分、骸炭分、揮發成分、硫黃全量、發熱量ノ檢定試驗
 - 十二 粘土、煉瓦、建築用石材類ノ吸水量、耐火度、收縮度、耐伸強、耐壓強又ハ凍寒ニ於ケル變化ノ檢定試驗及粘土、土壤ノ器械分析 (四一、府六一號追加)
 - 十三 セメントノ比重、凝結度、粉末細度、耐伸強、耐壓強、膨脹又ハ龜裂及石灰製出量ノ檢定試驗 (同上)
 - 十四 紙類、絲類、織布類ノ練減、強力、伸度、染色、脫色等ノ檢定試驗
 - 十五 脂肪、蠟、油類ノ比重、粘度、凝點、引火點、光度ノ檢定試驗
 - 十六 染料、塗料ノ比重、粘度、乾燥度、色澤、染色度、固著度等ノ檢定試驗
 - 十七 特ニ試驗ヲ要セサル鑑定
- 前項各號ニ掲ケタル工業製品、農產物、水產物、衛生材料等ノ分析、試驗、鑑定、各種原料ノ應用試驗手數料ハ其ノ難易ニ依リ關東都督府中央試驗所長之ヲ定ム
- 第一條第二項ノ場合ニ於ケル手數料ハ本條第一項ニ定ムル手數料ノ倍額トス
- 關東都督府中央試驗所檢査證ノ貼付ヲ請フモノハ一箇ニ付金二錢ヲ納付スヘシ (四一、府六一號追加)
- 第四條 分析、試驗又ハ鑑定ノ爲メ吏員ノ出張ヲ要スルトキハ乙號書式ノ依頼書ヲ提出シ依頼者ハ官職相當
- 一成分金二圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金三圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金四圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金五圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金六圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金七圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金八圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金九圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十一圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十二圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十三圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十四圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十五圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十六圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十七圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十八圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金十九圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
 - 一成分金二十圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ

ノ旅費及試験器具運搬費等ヲ負擔スヘシ

第五條 本所ニ入場シ機械、器具等ヲ使用セムトスル者ハ丙號書式ニ依リ依頼書ヲ提出シ一件ニ付一週間金

一圓以上金十圓以下ノ使用料ヲ納付スヘシ

第六條 分析、試験又ハ鑑定ノ依頼者ハ其ノ成績書ノ復本又ハ譯文ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ復

本ハ一枚ニ付金二十錢譯文ハ一枚ニ付金五十錢乃至金五圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

第七條 關東都督府中央試驗所ニ於テ貼付スル検査證ハ別記雛形ニ依ル

附則

本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

(甲號書式)

分析(試験又ハ鑑定)依頼書

- 一 供試品
- 二 產地若ハ製造地名及製造人名
- 三 供用目的
- 四 分析ヲ要スル成分(又ハ試験、鑑定ノ項目)
- 一 何々
- 一 何々

右分析(試験又ハ鑑定)依頼候也

年 月 日

關東都督府中央試驗場宛

現住所職業 氏

名 ㊟

(乙號書式)

依頼書

何々ノ爲何々地ハ貴所員御出張相成度候也

年 月 日

關東都督府中央試驗場宛

現住所職業 氏

名 ㊟

(丙號書式)

依頼書

一 機械器具ノ名稱

一 使用ノ目的

右何日間試験ノ爲使用仕度此段依頼候也

年 月 日

關東都督府中央試驗所宛

現住所職業 氏

名 ㊟

(別記雛形)

検査證

紅 色



検査證種類

- 第一號 輪廓 縱六寸五分 横一寸五分
- 第二號 同 同四寸九分五厘 同一寸二分
- 第三號 同 同三寸三分五厘 同九分
- 第四號 同 同二寸五分 同八分
- 第五號 同 同一寸五分 同五分五厘

●中央試験所ノ保證又ハ試験濟等ノ文字記入ニ關スル件

(明治四十一年六月二十六日 府令第三十七號)

關東都督府中央試験所ノ保證又ハ試験濟等ノ文字記入ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 關東都督府中央試験所ノ検査印紙ヲ貼付シタル藥品ノ外物品ノ廣告、揭示、印刷物又ハ其ノ容器、包紙ニ關東都督府中央試験所ノ保證又ハ試験濟其ノ他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス

關東都督府中央試験所ノ試験成績ヲ表示セムトスル者ハ其ノ成績書ノ全文ヲ記載スヘシ

第二條 本令ニ違反シタル者又ハ關東都督府中央試験所ノ検査ヲ詐稱シタル者ハ十四以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州石材採掘規則 (明治四十年十月十二日 府令第五十六號)

關東州石材採掘規則左ノ通相定ム

關東州石材採掘規則

第一條 關東州内ニ於テ石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ本令ニ依リ所轄民政署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ其ノ本人又ハ代理人カ關東州内ニ住居スルコトヲ要ス但シ法人ニ在

テハ關東州内ニ事務所ヲ有シ又ハ代表者カ住所ヲ有スルコトヲ要ス

第三條 營業ノ爲メ石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ別記書式ニ準シタル書面ニ各事業設計明細書、借區ノ位

置、形狀及坪數ヲ記載セル圖面ヲ添ヘ所轄民政署長ニ願出ツヘシ

借區地カ他人ノ採掘地ト隣接セルトキハ六間以上ノ間隔ヲ存スヘシ

第四條 城壕、軍港、要港、火藥庫、火藥製造所及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所竝要塞地帯内ハ石材ノ採

掘ヲ爲シ又ハ使用スルコトヲ得ス但所轄官憲ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 鐵道、公道、社寺境内、公園及墓地内ニ於テ石材ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ官ノ許可及關係人ノ

承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 官有地ニ於テ石材採掘ヲ爲ス者ハ土地使用料トシテ百坪ニ付一箇年金六十錢ヲ納ムヘシ但シ百坪ニ滿タサルトキト雖百坪トシテ計算ス

前項ノ使用料ハ事業設計書ニ依リ豫定掘採坪數ニ對スル一箇年分ノ金額ヲ納付スヘシ

第七條 土地使用料ハ前年十二月十五日迄ニ初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ許可ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

第八條 官有地借區ノ面積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 營業ヲ目的トスルモノ 五萬坪以内

一 自家ノ使用ヲ目的トスルモノ 百坪以内

第九條 石材ノ採掘ヲ營業トスル者ハ毎年六月、十二月ノ兩期ニ前月迄ノ事業ノ經過、採掘高、販路及販賣高ヲ記載シタル書面ヲ作り所轄民政署長ニ届出ツヘシ

第十條 官ノ許可ヲ得シテ採掘ノ權利ヲ債權ノ擔保トナシ又ハ賣買、讓與其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 石材採掘ノ許可ヲ得タル官有地ハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第十二條 石材採掘者ニシテ六十日以上休業セムトスルトキハ所轄民政署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ民政署長ハ石材採掘ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

一 危險又ハ公益ニ害アリト認メタルトキ

二 官ノ命令ニ從ハサルトキ

三 許可ノ日ヨリ三箇月以内ニ著手セヌ又ハ一箇年以上休業シタルトキ

四 期限内ニ料金ヲ納入セサルトキ

五 第二條ノ要件ヲ缺キタルトキ

六 其ノ他官ニ於テ必要ト認メタルトキ

第十四條 許可ヲ得シテ石材ヲ採掘シタル者ハ五四以上五十四以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 本令公布前ニ石材採掘ノ許可ヲ受ケ仍引續キ採掘スル者ハ本令施行ノ日ヨリ二十日以内ニ所轄民政署長ニ届出ツヘシ

第十七條 土砂ノ採取ニ付テハ本令ヲ準用ス

(別記書式) 用紙美濃紙罫紙

石材採掘許可願

一 何會何屯

坪數何坪 官有地
民有地

何坪

右ノ地内ニ於テ營業(又ハ自家用)ノ爲石材採掘致度候ニ付御許可被成下度別紙事業設計明細書並圖面相添ヘ此段奉願候也

原籍 住所

出願人 氏

名 ④

月 日

關東都督府宛

● 蠶虫發生豫防方

(明治三十九年九月一日 告諭 第一號)

本年立秋以來金州、普蘭店、柳樹屯各地ニ於テ蠶虫發生シテ稼禾ヲ害スルノ報アリ誠ニ憂慮ニ堪ヘス抑害虫ノ發生スルハ天候ノ時アリテ翹虫ノ生存、卵子ノ孵化、仔虫發育ヲ促スニ因ル而シテ本年其ノ發生特ニ多キハ本年冬期ニ於ケル積雪ノ極メテ深カリシコトト夏期ニ於ケル降雨少カリシコトトニ基因スルモノニシテ淡土及英米諸國ニ於テモ古來屢其ノ發生災害ヲ被ムレリ查スルニ金州地方亦然リ聞ク所ニ據レハ農人一般豪雨ヲ渴望シツツアリト宜テリ驟雨沛然トシテ至ランカ何ソ獨農人ノ喜悅ノミナランヤ然リト雖天候ハ人力ヲ以テ如何トモ爲シ能ハサルコトニ屬ス徒ニ驅除其ノ機ヲ失シ漫リニ蟲勢ヲシテ彌漫セシムルカ如キハ深ク遺憾トスル所ナリ此ノ時ニ當テハ官民力ヲ竭シテ唯其ノ撲滅ヲ圖リテ害ヲ避ケ併セテ明年ノ蟲種ヲモ敢テ遺コスコト無キニ在ルノミ其ノ驅除勦滅ノ方法ニ至リテハ種々アルヘント雖左ニ主ナル害虫ノ形狀習性變化ノ大要竝驅除ノ方法ヲ掲ケテ驅除上ノ便益ニ供ス若夫レ知得了解シ難キ所ハ進テ官衙或ハ識者ニ就テ教導ヲ受クヘシ然レトモ害虫驅除ノ事タル細密ナル注意不屈不撓ノ精神ト隣保相助クルノ精神之レ存スルニ非ラサレハ完全ナル効果ヲ收ムルコト能ハス爾民此ノ意ヲ了シ宜シク協同一致シテ驅除勦滅ニ努メ以テ遺算無キヲ期スヘシ

○一般害虫
凡ソ蠶虫類ハ柞蠶椿樹蠶等ト同シク繭ヲ造リ或ハ造ルコト無クテ蛹トナリ終リニハ翹ヲ生シテ蝶蛾ノ類トナリ産卵シテ死ス其ノ卵孵化スレハ則チ虫ト成ル故ニ其ノ一生ヲ卵、幼虫(仔虫)蛹及成虫ノ四期ニ分ツヘシ仔虫ノ時代ニ於テハ禾穀蔬菜樹木ノ葉ヲ蝕害スルコト甚クシクシテ雨ヲ忌ム蠶虫ノ如キハ即チ此ノ時期ノ虫ナリ冬ハ卵ニテ越スモノアリ或ハ蛹ニテ越スモノアリ或ハ成虫ニテ越スモノアリ之ヲ以テ害虫ヲ驅除シテ其ノ災害ヲ避ケントセハ單ニ幼虫ヲ勦捕スルニ止マラスシテ須ク各害虫ニ就テ注意觀察シテ其ノ性質ヲ知り其ノ卵ヲ採リ蛹ヲ捕ヘ成虫ヲモ殺スコトニ努メサルヘカラス

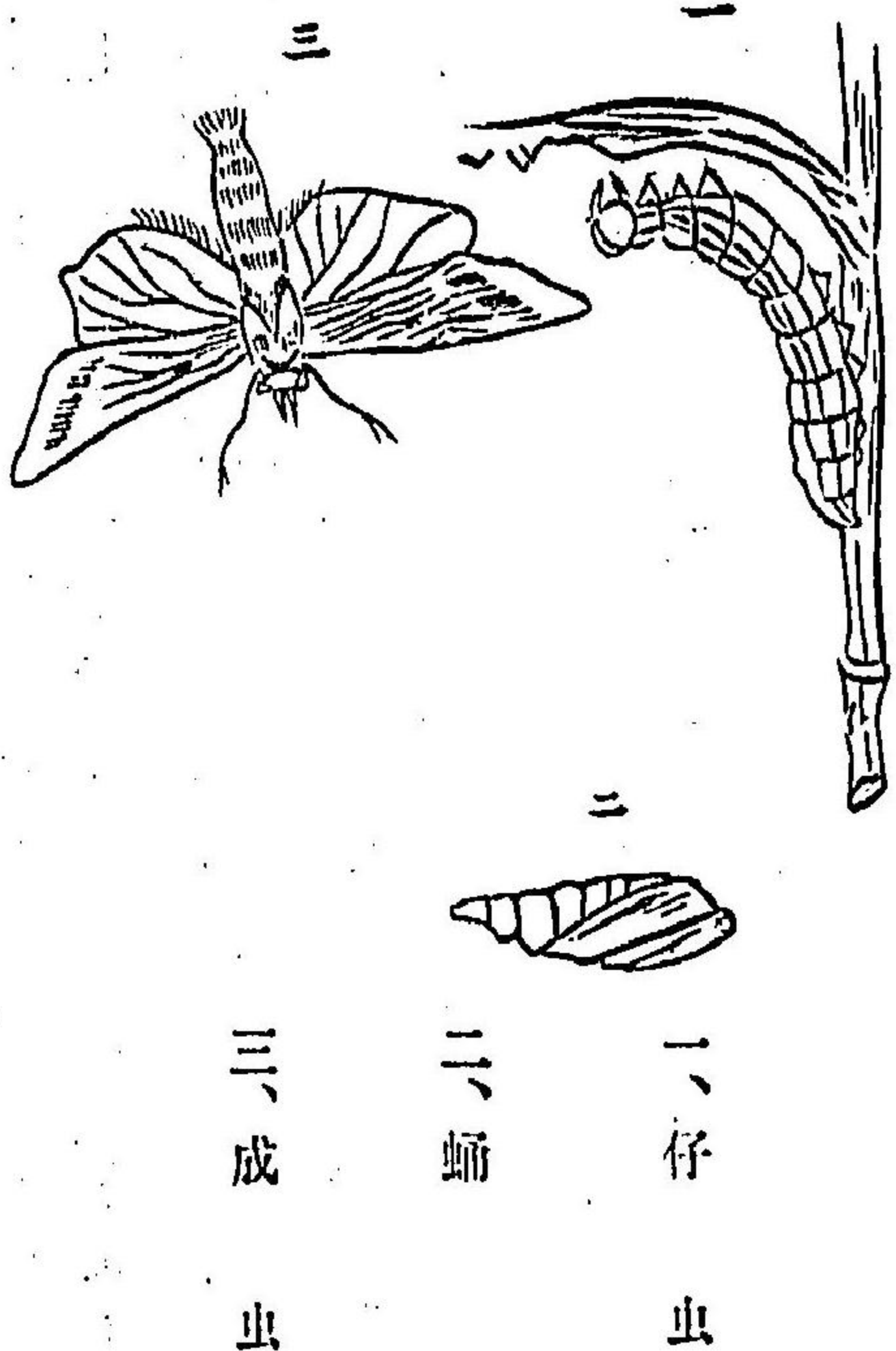
○ 禾穀夜盜虫(蠶虫、繭虫、里虫、黃虫)

大暑ノ候禾穀ノ葉鞘内ニ産卵シテ立秋ニ至レハ孵化シテ粟(穀子)高粱、玉蜀黍(苞米)黍(糜子)及雜草ノ葉ヲ蝕害シ除ヲ成シテ地上ヲ匍匐シテ他ニ移ル初メ晝夜共ニ害スレトモ晝中後ニ至レハ一寸ニ達シ晝ハ主ニ地又ハ葉鞘内ニ隠レテ夜間ハ出テテ害ス、體ニハ數條ノ縱線アリ虫ニ因テ其ノ色多少異レリ總體黑色ヲ帯ヒタルモノアリ暗色ナルモノアリ、何レモ白露ニ至レハ地下一二寸ノ深サニ入り長六七分褐色ノ蛹トナリ後成虫ニ化シテ叢間落葉ノ下ニ隠レテ冬ヲ越シ翌年産卵ス

○ 驅除法

- 一 蝕害シツツアルモノハ急ニ作物(稼禾)ヲ打チ若クハ動搖シテ籬箕、撮子ノ如キモノニテ受ケ或ハ手ニテ捕フヘシ

第一圖 夜盜虫



- 一 地上ヲ匍匐スルニ至レハ深サ凡八寸幅八寸ノ溝ヲ畝地ノ周圍及内部ノ所々ニ設ケテ更ニ其ノ溝ノ底ニ凡ソ六七尺ヲ隔テ穴ヲ掘レハ此ノ所ニ集マルカ故ニ是ヲ捕フヘシ
- 一 晝間地ニ隠クルルニ至レハ之ヲ披探シ後ニハ驅除用ニ設ケタル溝内其ノ他畝地ノ壟溝壟臺ニ就テ地下一二寸ノ深サヲ披カシテ蛹ヲ捕フヘシ
- 一 捕ヘタルモノハ皆燒殺若クハ熱湯ヲ注キテ殺シ馬糞等ニ混シテ肥料ニ供スヘシ
- 一 降雪至ルニ先チ秋耕ヲ爲シ不用ノ畞地ハ燒却スヘシ

○櫻毛虫

幼虫ノ孵化期ハ粟夜盗虫ト似タリ、卵ハ立秋前後ニ孵化シテ杏、苹果、櫻、梅等ノ葉ヲ他害ス殆ト全身毛ヲ以テ覆ハレ白露前ニ至レハ長一寸三分トナル後根邊ノ土中ニ入テ蛹ト成リ冬ヲ越シテ翌年立秋前ニ至テ眠トナリテ葉ニ産卵ス

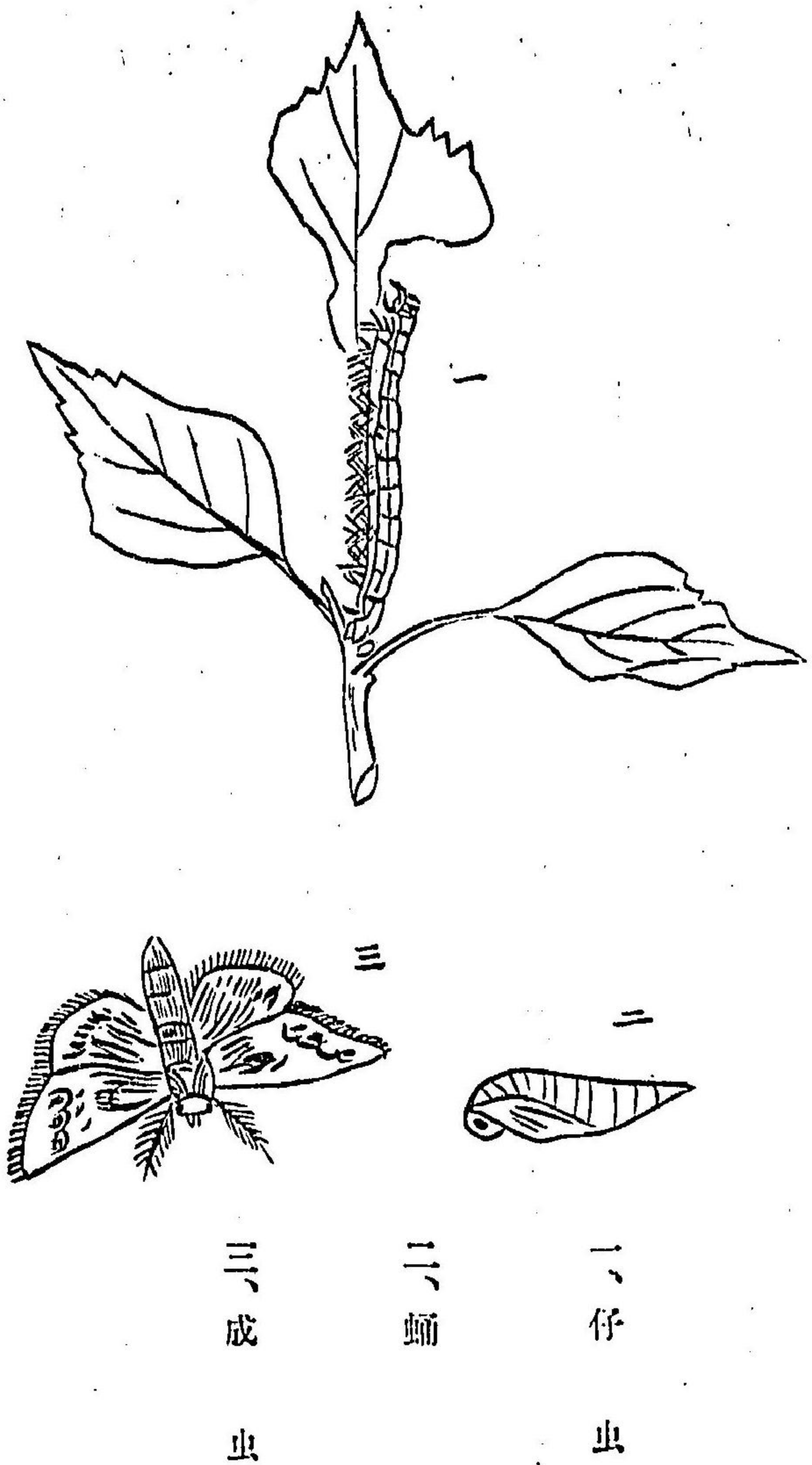
○驅除法

- 一 枝幹ニ群棲スルカ故ニ急ニ之ヲ振り落シ或ハ打落シ或ハ挾ミ捕ヘテ潰殺スヘシ
- 一 吐水器ニテ藥液ヲ注カントセハ洋油乳劑其ノ功ヲ奏スレトモ虫體ニハ毛ヲ生スルカ故ニ十分ニ注クヲ要ス可成降雨後ヲ良トス洋油ハ多少樹勢ヲ痛メ果實アルモノニ之ヲ注ケハ從テ食スルニ良好ナラサルカ故ニ代フルニ鯨油ヲ以テセハ最モ良シ

○洋油乳劑

水ニ洗濯石鹼ヲ刻ミ込ミ攪拌シツツ火熱ヲ加ヘテ其ノ溶解スルヲ待テ取上ケ直ニ洋油ヲ滴ラシツツ十分ニ攪拌ス其ノ割合左ノ如シ
水一升 石鹼十三匁 洋油三合

第二圖 毛虫



- 一 白露渡ニ至レハ被害樹根邊ノ土中ニ就テ蛹ヲ捕フヘシ
- 一 幼虫老熟セントスル頃ニ至レハ病菌ノ寄生ヲ受ケ黒色ニ變シテ斃死スルモノアルカ故ニ病虫ハ其ノ儘ニナシ置クヘシ

一 鳥鵲ノ類ハ幼虫ヲ食スルカ故ニ之ヲ保護スヘシ

●松蝓驅除方法 (明治四十年六月八日 府令第四十五號)

關東州ノ山地ニ生育セル松樹ニシテ其ノ被害ノ最モ恐ルヘキハ松蝓^{マツケムシ}ノ害ナリ若一タヒ其ノ蝕害ニ遇フトキハ稚樹ハ全滅シ成樹ト雖萎縮シ遂ニ豫期ノ生育ヲ爲ス能ハサルニ至ル抑モ該虫ハ春暖ニ至リテ其ノ潜伏個所ヨリ現出シ六月ノ頃粗繭ヲ營ミ蛹トナリ七月ニ至リ化シテ蛾ト成リ松樹ノ梢部ニ産卵シ尋テ孵化シテ松蝓トナリ松樹ヲ侵害スルモノナレハ其ノ驅除ヲ行フハ蛹ト成リテ繭内ニ蟄息スル時若ハ孵化ノ當時ニ在リ即チ六、七月ノ候ヲ以テ好期トナス故ニ自今一、二ヶ月ハ最モ必要ノ期間ナルヲ以テ各自周到ノ注意ヲ爲シ苟モ其ノ被害ヲ發見セルトキハ直チニ官ニ通報シソノ驅除方法ニ就キ指揮ヲ待チ之カ撲滅ヲ圖ルコトヲ期スヘシ

●關東州造林獎勵規則 (明治四十一年八月八日 府令第四十五號)

關東州造林獎勵規則左ノ通相定ム

關東州造林獎勵規則

第一條 造林ノ爲官有地ヲ使用セムトスル者ニシテ關東都督ノ適當ト認ムル者ニハ無償ニテ其ノ土地ヲ貸付ス

村又ハ會ニ於テ造林ノ爲官有地ヲ使用セムトスルトキ亦前項ニ同シ

第二條 造林ヲ爲サムトスル者ニシテ關東都督ノ適當ト認ムル者ニハ無償ニテ種苗ヲ下付ス

第三條 土地ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號書式ニ依リ、種苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ毎年九月末日迄ニ別記第二號書式ニ依リ願書ヲ所轄民政署長ヲ經テ關東都督ニ差出スヘシ

第四條 造林地ハ免租地トス

第五條 關東都督ハ官有地ノ貸付ヲ受ケタル者ニ貸付條件ヲ記載シタル貸付地證書ヲ交付スヘシ

種苗ヲ無償下付スル場合ニ於テハ條件ヲ附スルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第一號書式

造林ノ爲官有地無償貸付願

何會何村字何何

一 官有地面積

願地ノ境界 東ハ何溪ヲ以テ界ス南ハ何西ハ山頂ヲ以テ界ス北ハ何

右造林ノ爲無償ニテ御貸付被成度別紙見取圖竝起業方法書添付關東州造林獎勵規則ニ依リ此段相願候也

年月日

住所

某

(又ハ)

何會(村)總代

住所

某

關東都督宛

起業方法書

何會何村字何何

一 官有地面積

内 譯

造林面積

第八類 産業 第二章 勸業

道路、防火線
其ノ他ノ除地面積

一 植栽方法、種苗ノ種類及數量
一 出資又ハ管理ノ方法

本項ハ會又ハ村ニ於テ造林スル場合ニ限り出資ニ關シテハ金錢若ハ勞力供給ノ方法管理ニ關シテハ造林地保護ノ要項ヲ記載スヘシ
一 事業配當程度
初年 (明治何年)

面積

何種苗 何本 一坪何本ノ割

此ノ植栽費何圓、又ハ人夫何人 林道、防火線設置費等ヲ含ム

二年以下初年ニ同シ

第二號様式

種苗下付願

一 何苗(種) 何本 (石)

但シ何會何村字何官有地

(民有地)何坪ニ植付用 一坪何本植

右明治何年何月ヨリ何月迄ニ造林(播種)致度候條御下付被成下度關東州造林獎勵規則ニ依リ此段相願候也

年 月 日

住所 某 (又ハ)

何會(村)總代 住所 某

關東都督宛

●山林等ノ樹木伐採禁止

(明治三十八年十二月十二日 告示 第三十五號)

山地ノ林木路傍ノ竝木或寺廟公園苗圃墓地ノ内外等ニ生育スル一切ノ樹木ハ其ノ官有タルト民有タルトヲ問ハス官ノ許可ヲ得スシテ之ヲ伐採スルコトヲ嚴禁ス

●新年ノ門飾リニ松樹使用禁止

(明治四十一年十二月二十五日 告示 第二二號)

新年ニ際シ戸々門松ヲ樹テ以テ祝意ヲ表スルハ我習慣ナリト雖本州ノ山野ハ元ト樹木ニ乏シク今ヤ努メテ松樹移植ノ經營中ニ屬スルヲ以テ濫リニ之ヲ伐採スルカ如キコトアラハ爲ニ造林ノ目的ヲ沮害スルノ虞ナシトセス依テ官衙及會社ハ勿論一般市民ニ於テモ自今新年ノ門飾リハ松樹ヲ用キス宜シク他ノ方法ヲ取ルヘシ

第三章 水産及市場

●關東州水産組合規則

(明治三十九年三月二十七日 縣令 第三十七號)

關東州水産組合規則左ノ通相定ム

關東州水産組合規則

第一條 水産動植物ノ採捕、養殖、製造及販賣ヲ業トスル者ハ此ノ規則ニ依リ水産組合ヲ設置スヘシ
第二條 組合ハ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護ニ任シ且其ノ營業上ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲スヘシ

第八類 産業 第三章 水産及市場

第三條 組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 組合ノ區域ハ關東州ノ區域ニ依ルヘシ

第五條 組合ハ關東州水産組合ト稱スヘシ此ノ規則ニ依リ設置シタル者ニ非サレハ水産組合ナル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第六條 組合ノ區域内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ總テ組合ニ加入スヘシ

第七條 組合ヲ設置セムトスルトキハ組合會議ノ決議ヲ以テ定款ヲ定メ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ (四一、府四四號改正)

第八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
 - 二 組合員ノ加入及脱退ニ關スル事項
 - 三 組合員ノ權利義務ニ關スル事項
 - 四 役員ノ職務權限ニ關スル事項 (四一、府四四號改正)
 - 五 會議ニ關スル事項
 - 六 處務及會計ニ關スル事項
 - 七 組合費ノ分賦收入ニ關スル事項
 - 八 業務ニ關スル事項
 - 九 財産ニ關スル事項
 - 十 違約者處分ニ關スル事項
 - 十一 定款ノ變更ニ關スル事項
- 第九條 組合ニハ組長一名評議員七名ヲ置クヘシ (四一、府四四號改正)

組長及評議員ノ任期ハ二箇年トシ關東都督之ヲ任免ス

組長事故アル場合ニ於ケル代理者ハ豫メ評議員中ヨリ之ヲ互選シ關東都督ニ届出ヘシ

第十條 組合經費ノ豫算ハ組合會議ノ決議ヲ經テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ (同上)

第十條ノ二 組合ハ其ノ現存基金ヲ積立金トシ之ヨリ生スル收入及各年度剩餘金ヲ之ニ編入スヘシ (同上)

第十條ノ三 組合ハ關東都督ノ認可ヲ受クルニアラサレハ起債ヲ爲シ又ハ積立金ヲ處分スルコトヲ得ス (同上)

第十一條 組合會議ニ於テ決議シタル事項ハ其ノ都度關東都督ニ報告スヘシ但シ認可ヲ受クヘキ事項ハ此ノ

限ニ在ラス (同上)

第十二條 組合ノ事業成績經費決算及前年度末積立金收支計算ハ毎年度後三箇月以内ニ關東都督ニ報告スヘシ (同上)

第十三條 關東都督ハ組合ノ爲スヘキ業務ヲ指示シ又ハ所屬官吏ヲシテ組合ノ業務ヲ指揮監督セシムルコトヲ得 (同上)

第十四條 第六條ニ違背シタルモノハ之ヲ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (四一、府四四號改正)

組合ハ本令施行ノ日ヨリ七日以内ニ本令ノ規定ニ從ヒ其ノ定款ヲ改正スヘシ (同上)

●關東州漁業取締規則 (明治三十九年三月二十七日 勅令第十一號)

關東州漁業取締規則左ノ通相定ム

關東州漁業取締規則

第一條 左ニ掲クル漁業ヲ爲サムトスル者ハ民政長官ニ願出許可ヲ受クヘシ

第八編 産業 第三章 水産及市場

- 一 一定ノ水面ニ漁具ヲ敷設シテ爲ス漁業
- 二 一定ノ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業
- 三 一定ノ曳揚場及網場ヲ有スル網漁業

四 隨所ニ運用スル網漁業

五 船ヲ使用スル釣漁業

六 叉鈎漁業

六 潜水漁業

第二條 前條ノ漁業ヲ記可シタルトキハ漁業鑑札ヲ下付ス

第三條 第一條ノ漁業ニシテ水産動物ノ蕃殖保護其ノ他公益ニ害アリト認ムルトキ又ハ既ニ許可ヲ受ケタル漁業ニ支障アリト認ムルトキハ之ヲ許可セズ

前項ノ場合ニ於テ既ニ許可シタルモノニ在リテハ之ヲ制限停止シ若ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 漁業鑑札ハ出漁ノ際之ヲ携帯スヘシ

第五條 漁業鑑札ハ之ヲ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ス

第六條 漁業鑑札ヲ亡失毀損シ若ハ鑑札記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ再下付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第七條 漁業ヲ廢止シタルトキ又ハ鑑札無効ニ歸シタルトキハ二十日以内ニ其ノ鑑札ヲ返納スヘシ

漁業者死亡シタルトキハ其ノ相續者又ハ家族ハ死亡ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 二箇年間引續キ漁業ヲ休止シタルトキハ廢業シタルモノト看做ス

第九條 漁業者ハ他人ノ漁業ヲ直接自己ノ漁業ヲ妨害スルニ非サレハ其ノ漁業ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 第一條第一號乃至第三號ノ漁業者ハ漁場標識ヲ建設スヘシ

前項ノ標識ヲ建設セル漁業區域内ニ於テ魚類ノ通路ヲ遮斷シ若ハ之ヲ散逸セシムヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 此ノ規則ニヨリ民政長官ニ提出スル書類ハ總テ關東州水産組合ヲ經由スヘシ

第十二條 第一條ニ違背シタル者ハ之ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ漁具及漁獲物ヲ沒收ス

第十四條 第五條第九條又ハ第十條第二項ニ違背シ若ハ漁場標識ヲ移轉シ若ハ破壞シタル者ハ之ヲ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第十三條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 既ニ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ規則施行ノ日ニ於テ此ノ規則ニ依リ其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ漁業鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ

前項ノ但書ニ依リ鑑札ノ下付ヲ受クル迄ハ仍鑑札ヲ携帯セスシテ漁業ヲ爲スコトヲ得

第一項但書ノ申請ヲ爲ササルトキハ廢業シタルモノト看做ス

關東州漁業取締規則ニ依ル出願申請書屆書書式及漁場標式ノ雛形

第一號 (漁業取締規則第一條第一號乃至第三號ニ該當スルモノ)

漁業許可願

一 漁場ノ位置及區域 (別紙圖面ノ通)

一 漁業ノ種類

一 漁獲物ノ種類

一 漁業ノ時期

前記ノ通り漁業許可相受度別紙漁場ノ圖面相添へ此段奉願候也

年 月 日

關東都督宛

住所

出願者 氏

名

注意

- 一 添付ノ圖面ハ實測圖又ハ見取圖ニシテ方位間數面積等ヲ明記スヘシ
- 一 水願ハ一箇所毎ニ願書ヲ殊別スヘシ

第二號

(漁業取締規則第一條第四號乃至第七號ニ該當スルモノ)

漁業許可願

一 漁業ノ場所

一 漁業ノ種類

一 漁具ノ員數

前記ノ通漁業許可相受度此段奉願候也

年 月 日

住所

氏

名

注意

- 一 同一人ニシテ二以上ノ漁業ヲ爲サントスルトキハ一通ノ願書ニ記載スルコトヲ得

第三號

(漁業取締規則第六條ニ該當スルモノ)

漁業鑑札再下付書換申請書

一 漁業ノ種類

一 鑑札番號

一 許可ノ年月日

前記ノ鑑札何々ノ事由ニ依リ亡失(毀損)(異動)致候ニ付再下付(書換)相成度此段申請候也

年 月 日

住所

氏

名

關東都督宛

注意

- 一 鑑札存在スル場合ハ申請書ニ之ヲ添フヘシ

第四號

(漁業取締規則第七條ニ該當スルモノ)

漁業鑑札返納届

一 漁業ノ種類

一 鑑札番條

一 許可年月日

右何年何月何日廢業(鑑札無効ト相成)(漁業者何某死亡)致候間鑑札相添此段御届候也

年 月 日

住所

氏

名

關東都督宛

第五號 (漁業取締規則第十條ニ
該當スルモノ)

何漁業漁場標識

明治何年何月何日許可

三寸角以上 地上五尺以上

從是何方位何間

住所 漁業者氏名

●遠洋出漁船ニ對スル不法行為者ニ戒告 (明治四十一年八月四日
告諭第一號)

近時遠洋出漁船ニ對シ保護其ノ他ノ口實ヲ藉リ不法ノ行為ヲ敢テスル者アリト聞ク惟フニ此ノ如キハ實ニ漁業ノ發展ヲ阻害スルノミナラス又國法ノ嚴禁スル所タリ自今若シ此ノ如キ行為ヲ爲ス者アラハ一々法ニ照シテ假借スル所ナカルヘシ事ニ從フ者深ク此ノ意ヲ體シ恪ミテ違背スル勿レ
右告諭ス

●水産會社又ハ組合監督ノ件 (明治四十一年九月二十八日
府令第五十六號)

水産業ニ關スル會社又ハ組合監督ノ件左ノ通相定ム

第一條 水産業ニ關シ會社又ハ組合ヲ設ケムトスルトキハ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 關東都督ハ會社又ハ組合ノ監督ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第三條 會社又ハ組合カ法令定款若ハ關東都督ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行為ヲ爲シタルトキハ關東都督ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●旅順ニ於ケル漁業許可願書提出方 (明治三十九年六月八日
告示第三十一號)

旅順支署管轄區域内ニ於テ關東州漁業取締規則ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ關東州水産組合旅順支部ヲ經由シタル願書ヲ旅順支署ニ提出スヘシ

●大連ニ於ケル漁業許可願書提出方 (明治三十九年九月一日
告示第十三號)

大連民政署管轄區域内ニ於テ關東州漁業取締規則ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ關東州水産組合本部ヲ經由シタル願書ヲ大連民政署ニ提出スヘシ

●關東州鹽田規則 (明治三十九年三月二十三日
密令第八號)

關東州鹽田規則左ノ通相定ム

關東州鹽田規則

第一條 鹽田ヲ開設セムトスル者ハ民政長官ニ願出土地ノ貸付ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ニハ土地ヲ無償ニテ貸付シ鹽田成功ノ後其ノ使用ヲ許可ス

第三條 鹽田ノ使用料ハ之ヲ徵收セス

第四條 鹽田開設ノ爲貸付スル土地ノ面積ハ一人ニ對シ百町歩以内トス但シ既ニ貸付シタル土地ヲ成功シタル者又ハ相當ノ資力アリテ成功シ得ヘシト認ムル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 鹽田開設ノ成功期間ヲ定ムルコト左ノ如シ
十町歩未満 二年以内
二十町歩未満 三年以内
五十町歩未満 四年以内
百町歩未満 五年以内
百町歩以上 七年以内

天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ法定期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ其ノ半期間之ヲ延期スルコトヲ得

第六條 第二條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ豫定ノ如ク成功セサルトキハ其ノ未成功地ノ全部ヲ返還セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部若ハ全部ヲ無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ

第七條 前條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付地ヲ返還シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル建築物其ノ他ノ物件アルトキハ指定ノ期間内ニ之ヲ撤去スヘシ若其ノ期間内ニ撤去セサルトキハ其ノ物件ハ官ノ所有ニ歸ス

第八條 鹽田開設ノ許可ヲ受ケタル後天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依ルニ非スシテ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ又ハ其ノ意思ナシト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ貸付ノ土地ヲ返還セシム

第九條 二箇年以上引續キ製鹽業ヲ廢止シタルトキ若ハ鹽ニ關スル法規ニ違背シタルトキハ鹽田使用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十條 鹽田ノ使用ハ民政長官ノ許可ヲ得テ之ヲ相續讓渡スコトヲ得

第十一條 鹽田ヲ變更シ之ヲ製鹽以外ノ目的ニ使用セムトスルトキハ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 許可ヲ受ケスシテ鹽田ヲ開設シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處シ且其ノ土地ニ存在スル總テノ物件ヲ沒收ス

第十三條 附則
此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 既設鹽田ノ使用者ハ此ノ規則施行ノ日ニ於テ其ノ使用ヲ許可セラレタルモノト看做ス
既設鹽田ノ使用者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ別ニ定ムル所ニ依リ民政長官ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ爲ササル者ハ其ノ鹽田ノ使用ヲ拋棄シタルモノト看做ス

●鹽田規則施行細則 (明治三十九年三月二十三日 密令第九號)
關東州鹽田規則施行細則左ノ通相定ム
關東州鹽田規則施行細則
第一條 鹽田規則第一條ニ依リ土地ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ設計書、圖面、戶籍謄本、財産調書及事業經歷書ヲ添ヘ民政長官ニ提出スヘシ
第二條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者事業ニ著手シタルトキハ第二號書式ニ依リ十日以内ニ民政長官ニ届出ヘシ
第三條 鹽田開設ノ成功期間數年ニ亘ルモノハ前年中ノ事業功程ヲ毎年一月三十一日限り民政長官ニ提出スヘシ

第四條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタルモノニシテ死亡又ハ失踪シタルトキハ其ノ相續者ヨリ戸籍謄本ヲ添ヘ民政長官ニ届出ヘシ

第五條 貸付中ノ土地ヲ返還セムトスルトキハ第三號書式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ民政長官ニ提出スヘシ著手以前ニ於テ全部ノ返還ヲ爲サムトスルトキハ同書式ニ依リ其ノ旨届出ヘシ

第六條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル後豫定ノ設計方法ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 鹽田開設成功ノ後其ノ使用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ願書ニ實測圖正副二通ヲ添ヘ民政長官ニ願出スヘシ

第八條 開田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ境界ニ標木ヲ建設スヘシ

鹽田規則第六條ニ依ル點檢ノ際ハ其ノ開設區域ニ標木ヲ建設スヘシ

第二項ノ標木ハ其ノ土地使用許可ノ處分ヲ了ルマテ之ヲ存置スヘシ

第九條 鹽田調査ニ關シ當事者及其ノ他ノ關係者ノ立會ヲ必要ト認メ當該官吏ヨリ通知ヲ爲シタルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ場合ニ於テ立會ヲ爲ササル爲生シタル損害ハ官ニ於テ其ノ責ニ任セス

第十條 鹽田規則第五條ノ開設期間ハ貸付ノ翌月ヨリ起算ス

第十一條 左ノ場合ニ於テハ其ノ出願ヲ無効トス

一 鹽田開設出願者ニシテ第九條第一項ニ違背シタルトキ

二 出願者又ハ其ノ代理者ノ所在不明ニシテ發送ノ日ヨリ六十日ヲ經過スルモ尙指令若ハ合達等ヲ下付スルコト能サルトキ

三 願書ノ訂正ヲ命シタル後六十日ヲ經過スルモ訂正願書ヲ差出ササルトキ

第十二條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ關東州内ニ居住セサルトキハ州内居住者中ヨリ代理者ヲ定メ民政長官ニ届出ヘシ

第十三條 鹽田ニハ別記雜形ノ標木ヲ建設スヘシ

第十四條 鹽田ノ使用ヲ相續讓渡スルトキハ相續者又ハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ願書ニ許可書ヲ添ヘ三十日以内ニ許可書ヲ書換ヲ申請スヘシ

許可書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ再下付ヲ申請スヘシ

附 則

第十五條 此ノ規則ハ鹽田規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 鹽田規則第十四條第二項ノ届出ハ第七條ニ準據シテ之ヲ爲スヘシ

(第一號書式)

鹽田開設地貸付願

地名

一 干潟何坪

右關東州鹽田規則第一條ニ依リ貸付相成度別紙設計書、圖面、戸籍謄本、財産調書及事業經歷書相添ヘ此段奉願候也

年 月 日

住所

氏

名 ①

關東州民政署民政長官宛

注 意

- 一 代理ヲ以テ出願スルモノハ委任狀若ハ其ノ謄本ヲ添付スヘシ以下之ニ同シ
- 二 設計書ニハ事業經營ノ方法、鹽田ノ構造法、年別事業配當程度、經費豫算等ヲ詳記スヘシ
- 三 圖面ニハ年別開設成功程度ノ區別及其ノ面積竝四圍ノ狀況等ヲ表示スヘシ

(第二號書式)

鹽田開設事業著手届

地名

一 貸付地何坪

但シ明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付ノ分

右明治何年何月何日事業著手致候ニ付關東州鹽田規則施行細則第二條ニ據リ此段及御届候也

年 月 日

住所

氏

名 印

關東州民政署民政長官宛

(第三號書式)

貸付地返還願

地名

一 貸付地何坪

但シ明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付ノ分

二 土地ノ現況(貸付當時ノ形狀ヲ變更シタル時ハ之ヲ詳記シ且圖面ニ表示スヘシ但シ願書ニハ本項ノ記載ヲ要セス)

右關東州鹽田規則第一條ニ依リ貸付相成候處今般何々ノ事由有之返還致度候ニ就テハ御届届相成度別紙圖面相添へ此段奉願候也

(願書ニハ「返還致度」以下ヲ「此段及御届候也」トスヘシ)

年 月 日

住所

氏

名 印

關東州民政署民政長官宛

(第四號書式ノ一)

鹽田使用許可願

地名

一 貸付地何坪

此ノ付數何付

但シ明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付ノ分

右關東州鹽田規則第一條ニ依リ貸付相成候處今般開設成功致候ニ付御検査ノ上使用御許可相成度別紙實測圖正副二通相添へ此段奉願候也

年 月 日

住所

氏

名 印

關東州民政署民政長官宛

(第四號書式ノ二)

鹽田部分使用許可願

地名

- 一 貸付地 何坪 明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付ノ分
- 一 使用許可出願地 地坪 此ノ付數何付
- 一 殘地 何坪外

明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ何程使用許可

右關東州鹽田規則第一條ニ依リ貸付相成候處今般開設成功致候ニ付御検査ノ上使用御許可相成度別紙實測圖正副二通相添へ此段奉願候也

表

鹽田何付此ノ坪數何坪

明治何年何月何日使用許可

裏

住所氏名

大連市市場設置並開始

(明治三十八年八月四日) (告示 第六號)

大連市市場ヲ信濃町ニ設置シ明治三十八年八月十五日ヨリ之ヲ開始ス同市場販賣店又ハ附屬地ノ貸下ヲ受ケムトスル者ハ來ル八月十三日迄ニ本年告示第四號大連市市場貸下規程第二條ノ願書ヲ提出シテ許可ヲ受ケハシ

魚市場規則

(明治三十九年三月二十七日) (署令 第十二號)

魚市場規則左ノ通相定ム

魚市場規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ魚市場ト稱スルハ一定ノ場所ニ於テ競賣ノ方法ニ依リ水産物ノ委託販賣ヲ爲スモノヲ謂フ
- 第二條 魚市場ヲ設立セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ民政長官ニ願出許可ヲ受クヘシ
 - 一 設立者ノ事業經歷書、戶籍謄本、資産證明書
 - 二 設立ヲ要スル事由
 - 三 設立地區内ニ於ケル水産物集散ノ沿革及現況
 - 四 一箇年ノ取扱見込額
 - 五 設立ノ位置及概況圖
 - 六 設計書
 - 七 出資額及資本金使用ノ豫算
 - 八 組合組織ニ係ルモノハ其ノ定款
 - 九 販賣取扱ニ關スル事項
 - 十 手数料ノ定率